

科目名	時事問題講読			
授業形態	履修形態	単位数	年次	開講期
演習	選択	1	3年	前期
担当者名	松本 治彦		関連する資格	

授業概要

ディプロマポリシーのうち、「知識の応用力と判断力」を高めるための演習です。最初の1、2回はビジネスの各分野（例えば、エネルギー、車、宇宙、農業、AIなど）の現状と将来性について概要を説明する。3回目より時事問題で各自が興味をもったテーマを選んでエビデンスに基づいてプレゼンテーション（そのテーマの現状と将来性）を行い、議論を通じて認識を深める。なお、エビデンスについては、新聞やネットの情報を使って、参考となる統計値などを用いて、作成する。加えて、各分野の将来性については心理面からのアプローチについても言及する。

授業の評価は、エビデンスの作成、プレゼンテーション能力、議論への積極的な参加について評価する。

到達目標

A3301

時事問題について、自分の考えを主張できるようにする。また、刻々と変化する時事問題についての知識を常にアップデートできるように実力をつける。

成績評価方法

各回のプレゼンテーションへの参加、質問などの積極的な取り組みを重点的に評価する。また、資料の作成について評価する。

評価項目	評価基準						評価割合 (%)
	知識理解	思考判断	関心意欲	技能表現	態度	その他	
定期試験(中間・期末)							
小テスト、授業内レポート							
宿題、授業外レポート	○	○					50
授業態度・授業参加度			○		○		10
プレゼンテーション	○	○	○	○	○		30
グループワーク			○		○		10
演習							
実習							

授業計画と概要、予習・復習内容（時間）	アクティブラーニング
1) 科学技術と社会とのかかわりについて考えていくための考え方の枠組み、スキル、背景知識などを身に付けてもらための基本的な話をします。予習；資料の全体を概観する（30分）。復習；概要の部分をもう一度、読み込む（30分）。	課題提出で要旨、感想、質問を作成して各回の授業の内容を理解する。
2) 科学技術についてよく考えるための手助けとして、クリティカルシンキングと科学技術社会論をミックスしたものを話す。予習；資料の全体を概観する（30分）。復習；概要の部分をもう一度、読み込む（30分）。	課題提出で要旨、感想、質問を作成して各回の授業の内容を理解する。
3) 議論の吟味の大まかな流れとして（1）議論の特定（2）言葉の意味の確定（3）前提の検討（4）推論の検討について説明する。予習；資料の全体を概観する（30分）。復習；概要の部分をもう一度、読み込む（30分）。	課題提出で要旨、感想、質問を作成して各回の授業の内容を理解する。
4) 予防原則、思いやりの原理、EBM（根拠に基づく医療）、統計リテラシー、シミュレーションの信頼性などについて説明する。予習；資料の全体を概観する（30分）。復習；概要の部分をもう一度、読み込む（30分）。	課題提出で要旨、感想、質問を作成して各回の授業の内容を理解する。
5) ウイルスについての立ち位置について説明する。その後に意見を求める。予習；資料の全体を概観する（30分）。復習；概要の部分をもう一度、読み込む（30分）。	課題提出で要旨、感想、質問を作成して各回の授業の内容を理解する。
6) エネルギー；化石燃料、再生可能エネルギー、原子力、人工光合成などについて説明する。その後に意見を求める。予習；資料の全体を概観する（30分）。復習；概要の部分をもう一度、読み込む（30分）。	課題提出で要旨、感想、質問を作成して各回の授業の内容を理解する。
7) 地球温暖化について説明する。その後に意見を求める。予習；資料の全体を概観する（30分）。復習；概要の部分をもう一度、読み込む（30分）。	課題提出で要旨、感想、質問を作成して各回の授業の内容を理解する。
8) 自然災害について説明する。その後に意見を求める。予習；資料の全体を概観する（30分）。復習；概要の部分をもう一度、読み込む（30分）。	課題提出で要旨、感想、質問を作成して各回の授業の内容を理解する。
9) 宇宙産業について説明する。その後に意見を求める。予習；資料の全体を概観する（30分）。復習；概要の部分をもう一度、読み込む（30分）。	課題提出で要旨、感想、質問を作成して各回の授業の内容を理解する。
10) AI・ロボットについて説明する。その後に意見を求める。予習；資料の全体を概観する（30分）。復習；概要の部分をもう一度、読み込む（30分）。	課題提出で要旨、感想、質問を作成して各回の授業の内容を理解する。
11) 量子論、量子コンピューターなどについて説明する。その後に意見を求める。予習；資料の全体を概観する（30分）。復習；概要の部分をもう一度、読み込む（30分）。	課題提出で要旨、感想、質問を作成して各回の授業の内容を理解する。
12) 食糧について説明する。その後に意見を求める。予習；資料の全体を概観する（30分）。復習；概要の部分をもう一度、読み込む（30分）。	課題提出で要旨、感想、質問を作成して各回の授業の内容を理解する。
13) 医療について説明する。その後に意見を求める。予習；資料の全体を概観する（30分）。復習；概要の部分をもう一度、読み込む（30分）。	課題提出で要旨、感想、質問を作成して各回の授業の内容を理解する。
14) メタバースについて説明する。その後に意見を求める。予習；資料の全体を概観する（30分）。復習；概要の部分をもう一度、読み込む（30分）。	課題提出で要旨、感想、質問を作成して各回の授業の内容を理解する。
15) 全体の総まとめをする。その後に意見を求める。予習；資料の全体を概観する（30分）。復習；概要の部分をもう一度、読み込む（30分）。	課題提出で要旨、感想、質問を作成して各回の授業の内容を理解する。
授業外学習	
授業計画に沿って、資料の該当単元を熟読してくる。講義資料を復習する。新聞を読む習慣をつける。	
テキスト、参考書、教材	関連する科目
テキストは使わない。資料はClassroom上にアップする。	時事問題講読

課題に対するフィードバック

毎回の授業課題提出での質問については、次回の授業の始めに説明する。

備考

科目名	時事問題講読			
授業形態	履修形態	単位数	年次	開講期
演習	選択	1	3年	後期
担当者名	松本 治彦		関連する資格	

授業概要

最初に（第1回）、 の取り組み状況と達成度について議論を通じて理解を深めた上で、 の取り組みを始める。 の取り組みをさらに掘り下げた内容を盛り込んで、エビデンスを作成し、プレゼンテーションを行い、議論を通じて時事問題への考え方、対処法について学修する。この授業終了時には、ディプロマポリシーのうち、「知識の応用力と判断力」が高まっていることを目標とする。

授業の評価は、エビデンスの作成、プレゼンテーション能力、議論への積極的な参加について評価する。

到達目標

A3302

新聞記事の内容を読んで自分の意見と対比して評価する。
グループ協議を通じてコミュニケーション能力を発揮する。

成績評価方法

エビデンスの作成、プレゼンテーション能力、議論への積極的な参加について評価する。

評価項目	評価基準						評価割合 (%)
	知識理解	思考判断	関心意欲	技能表現	態度	その他	
定期試験(中間・期末)							
小テスト、授業内レポート							
宿題、授業外レポート	○	○					50
授業態度・授業参加度			○		○		10
プレゼンテーション	○	○	○	○	○		30
グループワーク			○		○		10
演習							
実習							

授業計画と概要、予習・復習内容（時間）	アクティブラーニング
1) 科学技術と社会とのかかわりについて考えていくための考え方の枠組み、スキル、背景知識などを身に付けてもらうための基本的な話をします。予習；資料の全体を概観する（30分）。復習；概要の部分をもう一度、読み込む（30分）。	課題提出で要旨、感想、質問を作成して各回の授業の内容を理解する。
2) 科学技術についてよく考えるための手助けとして、クリティカルシンキングと科学技術社会論をミックスしたものを話す。予習；資料の全体を概観する（30分）。復習；概要の部分をもう一度、読み込む（30分）。	課題提出で要旨、感想、質問を作成して各回の授業の内容を理解する。
3) 議論の吟味の大まかな流れとして（1）議論の特定（2）言葉の意味の確定（3）前提の検討（4）推論の検討について説明する。予習；資料の全体を概観する（30分）。復習；概要の部分をもう一度、読み込む（30分）。	課題提出で要旨、感想、質問を作成して各回の授業の内容を理解する。
4) 予防原則、思いやりの原理、EBM（根拠に基づく医療）、統計リテラシー、シミュレーションの信頼性などについて説明する。予習；資料の全体を概観する（30分）。復習；概要の部分をもう一度、読み込む（30分）。	課題提出で要旨、感想、質問を作成して各回の授業の内容を理解する。
5) ウイルスについての立ち位置について説明する。その後に意見を求める。予習；資料の全体を概観する（30分）。復習；概要の部分をもう一度、読み込む（30分）。	課題提出で要旨、感想、質問を作成して各回の授業の内容を理解する。
6) エネルギー；化石燃料、再生可能エネルギー、原子力、人工光合成などについて説明する。その後に意見を求める。予習；資料の全体を概観する（30分）。復習；概要の部分をもう一度、読み込む（30分）。	課題提出で要旨、感想、質問を作成して各回の授業の内容を理解する。
7) 地球温暖化について説明する。その後に意見を求める。予習；資料の全体を概観する（30分）。復習；概要の部分をもう一度、読み込む（30分）。	課題提出で要旨、感想、質問を作成して各回の授業の内容を理解する。
8) 自然災害について説明する。その後に意見を求める。予習；資料の全体を概観する（30分）。復習；概要の部分をもう一度、読み込む（30分）。	課題提出で要旨、感想、質問を作成して各回の授業の内容を理解する。
9) 宇宙産業について説明する。その後に意見を求める。予習；資料の全体を概観する（30分）。復習；概要の部分をもう一度、読み込む（30分）。	課題提出で要旨、感想、質問を作成して各回の授業の内容を理解する。
10) AI・ロボットについて説明する。その後に意見を求める。予習；資料の全体を概観する（30分）。復習；概要の部分をもう一度、読み込む（30分）。	課題提出で要旨、感想、質問を作成して各回の授業の内容を理解する。
11) 量子論、量子コンピューターなどについて説明する。その後に意見を求める。予習；資料の全体を概観する（30分）。復習；概要の部分をもう一度、読み込む（30分）。	課題提出で要旨、感想、質問を作成して各回の授業の内容を理解する。
12) 食糧について説明する。その後に意見を求める。予習；資料の全体を概観する（30分）。復習；概要の部分をもう一度、読み込む（30分）。	課題提出で要旨、感想、質問を作成して各回の授業の内容を理解する。
13) 医療について説明する。その後に意見を求める。予習；資料の全体を概観する（30分）。復習；概要の部分をもう一度、読み込む（30分）。	課題提出で要旨、感想、質問を作成して各回の授業の内容を理解する。
14) メタバースについて説明する。その後に意見を求める。予習；資料の全体を概観する（30分）。復習；概要の部分をもう一度、読み込む（30分）。	課題提出で要旨、感想、質問を作成して各回の授業の内容を理解する。
15) 全体の総まとめをする。その後に意見を求める。予習；資料の全体を概観する（30分）。復習；概要の部分をもう一度、読み込む（30分）。	課題提出で要旨、感想、質問を作成して各回の授業の内容を理解する。
授業外学習	
授業計画に沿って、資料の該当単元を熟読してくる。講義資料を復習する。新聞を読む習慣をつける。	
テキスト、参考書、教材	関連する科目
テキストは使わない。資料はClassroom上にアップする。	時事問題講読

課題に対するフィードバック

毎回の授業課題提出での質問については、次回の授業の始めに説明する。

備考

科目名	対人関係論			
授業形態	履修形態	単位数	年次	開講期
講義	選択	2	3年	前期
担当者名	松田 憲	関連する資格	認定心理士	

授業概要

社会に生きる人間にとって不可欠な要素である対人関係について、認知心理学、社会心理学、発達心理学の立場から概観する。社会的動物としての人間の行動的基礎について学ぶことを通して、生活の質の向上のために配慮すべきことについての洞察を深める。

到達目標

A3303b

1. 人間関係の基本的概念の理解
2. 人間関係に影響する諸要因の理解
3. 対人、対集団の相互間過程のメカニズムの理解

成績評価方法

小レポート（60点）と小テスト（40点）による総合評価。
 小レポートは各日程2回の計6回、小テストは各日程1回の計3回行う。
 小レポートは10点満点×6回の60点配点であり、小テストは10点満点×3回の30点を40점에換算する。

評価項目	評価基準						
	知識理解	思考判断	関心意欲	技能表現	態度	その他	評価割合 (%)
定期試験(中間・期末)							
小テスト、授業内レポート							100
宿題、授業外レポート							
授業態度・授業参加度							
プレゼンテーション							
グループワーク							
演習							
実習							

授業計画と概要、予習・復習内容（時間）	アクティブラーニング
1) 対人関係の古典的研究：アタッチメントと社会的隔離 【予習】これまでに受講した心理学系授業の復習（30分程度） 【復習】1)～5)の配布資料の復習（60分程度）	内容理解と日常への応用例に関する小レポート
2) 人間関係の発達1：乳幼児期 【予習】1)と同様 【復習】1)と同様	内容理解と日常への応用例に関する小レポート
3) 人間関係の発達2：児童期 【予習】1)と同様 【復習】1)と同様	内容理解と日常への応用例に関する小レポート
4) 人間関係の発達3：青年期 【予習】1)と同様 【復習】1)と同様	内容理解と日常への応用例に関する小レポート
5) 人間関係の発達4：ASD 【予習】1)と同様 【復習】1)と同様	内容理解と日常への応用例に関する小レポート
6) 対人認知1：印象形成 【予習】これまでに受講した心理学系授業の復習（30分程度） 【復習】6)～10)の配布資料の復習（60分程度）	内容理解と日常への応用例に関する小レポート
7) 対人認知2：対人認知の偏り 【予習】6)と同様 【復習】6)と同様	内容理解と日常への応用例に関する小レポート
8) 対人認知3：対人感情 【予習】6)と同様 【復習】6)と同様	内容理解と日常への応用例に関する小レポート
9) 説得と態度変容1：説得コミュニケーション 【予習】6)と同様 【復習】6)と同様	内容理解と日常への応用例に関する小レポート
10) 説得と態度変容2：説得への抵抗 【予習】6)と同様 【復習】6)と同様	内容理解と日常への応用例に関する小レポート
11) 対人関係1：対人関係の形成 【予習】これまでに受講した心理学系授業の復習（30分程度） 【復習】11)～15)の配布資料の復習（60分程度）	内容理解と日常への応用例に関する小レポート
12) 対人関係2：対人関係の維持 【予習】11)と同様 【復習】11)と同様	内容理解と日常への応用例に関する小レポート
13) 対人関係3：友人関係と恋愛関係 【予習】11)と同様 【復習】11)と同様	内容理解と日常への応用例に関する小レポート
14) 対人関係4：対人コミュニケーション 【予習】11)と同様 【復習】11)と同様	内容理解と日常への応用例に関する小レポート
15) 対人関係5：攻撃と援助 【予習】11)と同様 【復習】11)と同様	内容理解と日常への応用例に関する小レポート
授業外学習	
授業内容の復習は講義日のうちに必ず行うこと	
テキスト、参考書、教材	関連する科目
講義資料を配布する	

課題に対するフィードバック

初日と2日目の小テストは、それぞれ翌日の授業開始時に正答を呈示する。
3日目の正答は小テスト終了後に呈示する。

備考

本講義は全3日間の日程で行う集中講義である。
小レポートは各日程の午前と午後1回ずつ行い（計6回）、小テストは各日程の最後に行う（計3回）。

科目名	フィールドスタディ						
授業形態	履修形態	単位数	年次	開講期			
演習	必修	1	3年	前期			
担当者名	木元 卓也		関連する資格				
授業概要 A3401 地域におけるボランティアの意義と実情について講義および演習形式で学び、現代社会におけるボランタリーセクターの重要性について理解することを目的とする。また、実際の活動を行っている方から直接話を聞く機会も設ける。							
到達目標 (A3401) ・ ボランティアについての正確な理解 ・ ボランタリーセクターの重要性の認識と各自のボランティア意識の高揚 ・ ボランティア活動への参加				成績評価方法 ボランティア活動体験レポート及び活動報告会での発表			
評価項目	評価基準						
	知識理解	思考判断	関心意欲	技能表現	態度	その他	評価割合 (%)
定期試験(中間・期末)							
小テスト、授業内レポート		○	○				10
宿題、授業外レポート							
授業態度・授業参加度							
プレゼンテーション	○	○	○	○	○		30
グループワーク							
演習							
実習		○	○		○		60

授業計画と概要、予習・復習内容（時間）	アクティブラーニング
1) オリエンテーション	グループワーク
2) ボランティア参加への心構え及び意義	小レポート
3) ボランティアへの参加及び振り返り 【予習】ボランティア先について調べる 【復習】ボランティア参加後の振り返り	フィールドワーク
4) ボランティアへの参加及び振り返り 【予習】ボランティア先について調べる 【復習】ボランティア参加後の振り返り	フィールドワーク
5) ボランティアへの参加及び振り返り 【予習】ボランティア先について調べる 【復習】ボランティア参加後の振り返り	フィールドワーク
6) ボランティアへの参加及び振り返り 【予習】ボランティア先について調べる 【復習】ボランティア参加後の振り返り	フィールドワーク
7) ボランティアへの参加及び振り返り 【予習】ボランティア先について調べる 【復習】ボランティア参加後の振り返り	フィールドワーク
8) ボランティアへの参加及び振り返り 【予習】ボランティア先について調べる 【復習】ボランティア参加後の振り返り	フィールドワーク
9) ボランティアへの参加及び振り返り 【予習】ボランティア先について調べる 【復習】ボランティア参加後の振り返り	フィールドワーク
10) ボランティアへの参加及び振り返り 【予習】ボランティア先について調べる 【復習】ボランティア参加後の振り返り	フィールドワーク
11) ボランティアへの参加及び振り返り 【予習】ボランティア先について調べる 【復習】ボランティア参加後の振り返り	フィールドワーク
12) ボランティアへの参加及び振り返り 【予習】ボランティア先について調べる 【復習】ボランティア参加後の振り返り	フィールドワーク
13) ボランティアへの参加及び振り返り 【予習】ボランティア先について調べる 【復習】ボランティア参加後の振り返り	フィールドワーク
14) ボランティアへの参加及び振り返り 【予習】ボランティア先について調べる 【復習】ボランティア参加後の振り返り	フィールドワーク
15) ボランティア活動報告会	プレゼンテーション
授業外学習	
<p>ボランティア実習の写真撮影時には個人情報保護に配慮する。（担当者の許可を得るなど） Covid19の感染拡大により、ボランティア実習に参加できなくなった学生には「実習救済レポート」を課す</p>	
テキスト、参考書、教材	関連する科目
特になし。必要に応じて適宜紹介。	フィールドスタディ

課題に対するフィードバック

実習先での活動内容やレポート作成に関する指導を全体に対して行うとともに、個別の質問については、授業後またはメールにて対応する。

備考

科目名	フィールドスタディ			
授業形態	履修形態	単位数	年次	開講期
実習	必修	1	3年	後期
担当者名	木元 卓也	関連する資格		

授業概要

地域におけるボランティアの意義と実情について講義および演習形式で学び、現代社会におけるボランティアセクターの重要性について理解することを目的とする。また、実際の活動を行っている方から直接話を聞く機会も設ける。

到達目標

- (A3402)
- ・ ボランティアについての正確な理解
 - ・ ボランティアセクターの重要性の認識と各自のボランティア意識の高揚
 - ・ ボランティア活動への参加

成績評価方法

ボランティア活動体験レポート及び活動報告会での発表

評価項目	評価基準						
	知識理解	思考判断	関心意欲	技能表現	態度	その他	評価割合 (%)
定期試験(中間・期末)							
小テスト、授業内レポート		○	○				10
宿題、授業外レポート							
授業態度・授業参加度							
プレゼンテーション	○	○	○	○	○		30
グループワーク							
演習							
実習		○	○		○		60

授業計画と概要、予習・復習内容（時間）（実習）	アクティブラーニング
<p>1)～3) オリエンテーション及びボランティア先の決定 宇部市美化ロード清掃への参加</p> <p>4)～14) 各ボランティア先での活動</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ときわ公園 ・放課後デイサービス ・障害児通所施設 ・宇部市内のボランティア団体等 ・各種イベントの補助 <p>15) ボランティア活動報告及びまとめ</p>	<p>各ボランティア先のグループ毎にフィールドワークを通して今後、地域に必要なボランティア活動を考える。</p>
授業外学習	
<p>ボランティア実習の写真撮影時には個人情報保護に配慮する。（担当者の許可を得るなど） Covid19の感染拡大により、ボランティア実習に参加できなくなった学生には「実習救済レポート」を課す</p>	
テキスト、参考書、教材	関連する科目
<p>特になし。必要に応じて適宜紹介。</p>	<p>フィールドスタディ</p>

課題に対するフィードバック

実習先での活動内容やレポート作成に関する指導を全体に対して行うとともに、個別の質問については、授業後またはメールにて対応する。

備考

科目名	フィールドスタディ			
授業形態	履修形態	単位数	年次	開講期
実習	選択	1	4年	前期
担当者名	木元 卓也	関連する資格		

授業概要

フィールドスタディ に引き続き、地域においてボランティアを実践することで、地域におけるボランティアの意義と実情について体験的に学び、現代社会におけるボランティア・セクターの重要性について理解することを目的とする。継続的にボランティア活動に参加し、演習を通してボランティアの意義について検討を行う。

到達目標

(A4401)

- ・ ボランティアについての正確な理解
- ・ ボランティア・セクターの重要性の認識と各自のボランティア意識の高揚
- ・ ボランティア活動への参加
- ・ ボランティア活動を通して得られた知見を表現する
- ・ 地域で必要なボランティア活動を自ら創造し調査を行う

成績評価方法

ボランティア活動報告を教員に行う

評価項目	評価基準						
	知識理解	思考判断	関心意欲	技能表現	態度	その他	評価割合 (%)
定期試験(中間・期末)							
小テスト、授業内レポート							
宿題、授業外レポート							
授業態度・授業参加度			○		○		20
プレゼンテーション	○	○	○	○	○		20
グループワーク							
演習							
実習		○	○		○		60

授業計画と概要、予習・復習内容（時間）（実習）		アクティブラーニング
1)～3) オリエンテーション及びボランティア先の決定		フィールドワーク
4)～14) 各ボランティア先での活動		
15) ボランティア活動報告及びまとめ		
授業外学習		
ボランティア実習の写真撮影時には個人情報保護に配慮する。（担当者の許可を得るなど）		
テキスト、参考書、教材	関連する科目	
特になし。必要に応じて適宜紹介。	フィールドスタディ	

課題に対するフィードバック

備考

科目名	キャリアデザイン			
授業形態	履修形態	単位数	年次	開講期
演習	必修	1	3年	後期
担当者名	角光 通子、小野 洋平	関連する資格		

授業概要

将来の進路を見据え、不足している能力や知識を認識し、主体的にその能力や知識の習得に取り組む。グループワークを通して、自己理解を深めると同時に、スピーチ、プレゼンテーションなどを通して、社会人基礎力を育成する。

民間企業における人事部門で、採用活動や教育に携わった勤務経験を有する教員が、就職活動全般に必要な知識について、講義をする。

到達目標

- (A3801)
- 自己の価値観を確立する
 - 自己を客観的に分析できる能力の習得
 - 仕事を取り巻く社会環境について、理解することができる
具体的な就職活動、進路選択活動の行動を起こすことができる

成績評価方法

授業への積極的な参加、授業外レポートなどによる総合評価

評価項目	評価基準						評価割合 (%)
	知識理解	思考判断	関心意欲	技能表現	態度	その他	
定期試験(中間・期末)							
小テスト、授業内レポート			○	○	○		20
宿題、授業外レポート							40
授業態度・授業参加度							
プレゼンテーション			○	○	○		15
グループワーク							25
演習							
実習							

授業計画と概要、予習・復習内容（時間）		アクティブラーニング
1) オリエンテーション 【予習】 【復習】小レポートを作成する（30分）		小レポート
2) PROGの実施 【予習】事前配布資料を読む（30分） 【復習】小レポートを作成する（60分）		小レポート グループワーク
3) キャリアデザイン 【予習】事前配布資料を読む（30分） 【復習】小レポートを作成する（60分）		小レポート
4) 就職活動の全体像を知る 【予習】事前配布資料を読む（30分） 【復習】小レポートを作成する（60分）		小レポート グループワーク
5) PROG解説 【予習】事前配布資料を読む（30分） 【復習】小レポートを作成する（60分）		小レポート グループワーク
6) PROG解説 【【予習】事前配布資料を読む（30分） 【復習】小レポートを作成する（60分）		小レポート グループワーク
7) 就職活動上必要なマナーを習得する。 【予習】事前配布資料を読む（30分） 【復習】小レポートを作成する（60分）		小レポート グループワーク
8) 業界研究会（模擬合同就職説明会を体験する） 【予習】事前配布資料を読む（30分） 【復習】小レポートを作成する（60分）		小レポート グループワーク
9) JOBフェア ～地域の企業を知る～ 【【予習】事前配布資料を読む（30分） 【復習】小レポートを作成する（60分）		小レポート グループワーク
10) ワールドカフェ 【予習】事前配布資料を読む（30分） 【復習】小レポートを作成する（60分）		小レポート グループワーク
11) 応募書類の作成 【予習】事前配布資料を読む（30分） 【復習】小レポートを作成する（60分）		小レポート グループワーク
12) 労働法 【予習】事前配布資料を読む（30分） 【復習】小レポートを作成する（60分）		小レポート グループワーク
13) お金の話 【予習】事前配布資料を読む（30分） 【復習】小レポートを作成する（60分）		小レポート グループワーク
14) 社会人の先輩と話そう 【【予習】事前配布資料を読む（30分） 【復習】小レポートを作成する（60分）		小レポート グループワーク
15) 総括 【【予習】事前配布資料を読む（30分） 【復習】小レポートを作成する（60分）		小レポート
授業外学習		
毎授業後、作成するレポートを通して、自己の思いに向き合い、自身の課題を明確にする。 実践的な課題を提示するので、各自取り組み報告する。		
テキスト、参考書、教材		関連する科目
適時資料を配布する。 キャリア支援センターにある資料・書籍等を参考にして、自分に合った教材を見つける。		キャリアデザイン、キャリアデザイン、キャリアデザイン 、キャリア形成演習、インターンシップ、インターンシ ップ

課題に対するフィードバック

小レポートは、翌週コメントを付けて返却する。

備考

GoogleKラスルームを活用する。

科目名	キャリアデザイン			
授業形態	履修形態	単位数	年次	開講期
演習	必修	1	4年	前期
担当者名	角光 通子、小野 洋平	関連する資格		

授業概要

「キャリアデザイン ~ 」の総仕上げとして、自身の目指す進路に進めるように努める。

民間企業における人事部門で、採用活動や教育に携わった勤務経験を有する教員が、社会人として必要な知識・スキルについて講義をする。

到達目標

(A4801)

- 希望の進路を決定し、主体的に取り組むことができる
- 社会人で必要とされる力を身に付けることができる
- 労働法の基本を学ぶことを通して、働く制度を知る。

成績評価方法

授業中のグループワークや演習課題への積極的な参加、小レポートの作成、授業外レポートなどによる総合評価

評価項目	評価基準						評価割合 (%)
	知識理解	思考判断	関心意欲	技能表現	態度	その他	
定期試験(中間・期末)							
小テスト、授業内レポート			○	○	○		20
宿題、授業外レポート	○	○	○	○			40
授業態度・授業参加度							
プレゼンテーション			○	○	○		15
グループワーク	○	○	○		○		25
演習							
実習							

授業計画と概要、予習・復習内容（時間）		アクティブラーニング
1) オリエンテーション 【予習】「キャリアデザイン ~ 」で学んだことを振り返る（90分） 【復習】小レポートを作成する（90分）		小レポート
2) キャリアデザイン 【予習】事前配布資料を読んでおく（90分） 【復習】小レポートを作成する（90分）		小レポート グループワーク
3) コミュニケーションを学ぶ 【予習】事前配布資料を読んでおく（90分） 【復習】小レポートを作成する（90分）		小レポート グループワーク
4) 労働法 【予習】事前配布資料を読んでおく（90分） 【復習】小レポートを作成する（90分）		小レポート グループワーク
5) 労働法 【予習】事前配布資料を読んでおく（90分） 【復習】小レポートを作成する（90分）		小レポート グループワーク
6) 労働法 【予習】事前配布資料を読んでおく（90分） 【復習】小レポートを作成する（90分）		小レポート グループワーク
7) ワールドカフェ 【予習】事前配布資料を読んでおく（90分） 【復習】小レポートを作成する（90分）		小レポート グループワーク
8) お金の話 【予習】事前配布資料を読んでおく（90分） 【復習】小レポートを作成する（90分）		小レポート グループワーク
9) 社会人としてのマナー 社会人として通用するマナーを習得する 【予習】事前配布資料を読んでおく（90分） 【復習】小レポートを作成する（90分）		小レポート グループワーク
10) 社会人としてのマナー 社会人として通用するマナーを習得する 【予習】事前配布資料を読んでおく（90分） 【復習】小レポートを作成する（90分）		小レポート グループワーク
11) 社会人基礎力 【予習】事前配布資料を読んでおく（90分） 【復習】小レポートを作成する（90分）		小レポート グループワーク
12) 社会人基礎力 【予習】事前配布資料を読んでおく（90分） 【復習】小レポートを作成する（90分）		小レポート グループワーク
13) 社会人講話 各分野で活躍されている社会人の方の講演 【予習】事前配布資料を読んでおく（90分） 【復習】小レポートを作成する（90分）		小レポート
14) キャリアデザイン 【予習】事前配布資料を読んでおく（90分） 【復習】小レポートを作成する（90分）		小レポート
15) 総括 【予習】事前配布資料を読んでおく（90分） 【復習】小レポートを作成する（90分）		小レポート
授業外学習		
<p>毎授業後、作成するレポートを通して、自己の思いに向き合い、自身の課題を明確にする。 実践的な課題を提示するので、各自取り組み報告する。</p>		
テキスト、参考書、教材		関連する科目
<p>適時資料を配布する。 図書館やキャリア支援センターにある資料・書籍等を参考にし、自分に合った教材を見つける。</p>		<p>キャリアデザイン、キャリアデザイン、キャリアデザイン、キャリア形成実践演習、インターンシップ、インターンシップ</p>

課題に対するフィードバック

小レポートは、翌週コメントを付けて返却する。

備考

Googleクラスルームを活用する

科目名	インターンシップ			
授業形態	履修形態	単位数	年次	開講期
実習	選択	1	3年	前期
担当者名	角光 通子	関連する資格		

授業概要

インターンシップとは、「学生が企業や行政機関などの職場において、就業体験を通じて勤労観や職業観を高めるための制度」である。インターンシップでは、学校にはない実際の現場を教育の場をして利用し、教室で学習したさまざまな知識を実際に応用するための機会を提供する。本学のインターンシップでは、学生自身に将来の職業適性を考える機会を与え、社会人として必要な責任感や自立心など将来の職業人としての心構えを養う。これまでの学びを深化させると共に、それぞれの業界・職種を理解する一助として、インターンシップを位置づけ、自身の将来の進路について考える機会とする。

民間企業における人事部門で、採用活動や教育に携わった勤務経験を有する教員が、社会人として必要な知識・マナーについて、指導をする。

到達目標

- (A3802)
 ○自分自身で考え、自分の言葉で表現できる。
 ○初対面の人とコミュニケーションを取ることが出来、人間関係が構築できる。
 ○社会人として基本的なマナーを習得し実行できる。"

成績評価方法

事前指導の受講態度、インターンシップ先による評価、実習レポート、実習日誌、報告会での報告内容を総合して、評価する。

評価項目	評価基準						
	知識理解	思考判断	関心意欲	技能表現	態度	その他	評価割合 (%)
定期試験(中間・期末)							
小テスト、授業内レポート							
宿題、授業外レポート	○	○	○				20
授業態度・授業参加度					○		10
プレゼンテーション	○		○	○			10
グループワーク		○	○				10
演習							
実習	○	○	○	○	○	○	50

授業計画と概要、予習・復習内容（時間）（実習）	アクティブラーニング
<p>4月 オリエンテーション（担当：角光） ～インターンシップの概要について～</p> <p>5月 インターンシップ受け入れ先の選択（担当：角光） 希望先について調査し、レポートを作成 必要書類の準備</p> <p>6月 インターンシップ受け入れ先の選択・決定（最終）（担当：角光） 必要書類の準備</p> <p>7月上旬～（集中）マナーの習得（担当：角光） ビジネスマナーの習得その1 ビジネスマナーの習得その2</p> <p>8月～9月 希望先でのインターンシップ （夏季休暇期間中）</p> <p>10月 インターンシップ報告書の作成・提出（担当：角光） インターンシップの振り返り</p> <p>12月 報告会（担当：角光）</p>	
授業外学習	
<p>希望先について調査し、レポートを作成する。インターンシップを通じて、自分が習得したいことを事前準備で明確にする。インターンシップでの日々の振り返りを通して、次のインターンシップにおける行動に活かす。</p>	
テキスト、参考書、教材	関連する科目
<p>適宜配布するプリント</p>	<p>キャリアデザイン、インターンシップ キャリア形成演習、インターンシップ</p>

課題に対するフィードバック

適宜、面談又は、提出された課題にコメントにて実施する。

備考

科目名	インターンシップ			
授業形態	履修形態	単位数	年次	開講期
実習	選択	1	3年	後期
担当者名	角光 通子	関連する資格		

授業概要

インターンシップとは、「学生が企業や行政機関などの職場において、就業体験を通じて勤労観や職業観を高めるための制度」である。インターンシップでは、学校にはない実際の現場を教育の場として利用し、教室で学習したさまざまな知識を実際に応用するための機会を提供する。本学のインターンシップでは、学生自身に将来の職業適性を考える機会を与え、社会人として必要な責任感や自立心など将来の職業人としての心構えを養う。学生それぞれの専攻分野及び志望するキャリアに関連することを意識して就業体験することにより、これまでの学習内容をさらに充実・深化させ、将来の自身の進路選択に繋げる。

民間企業における人事部門で、採用活動や教育に携わった勤務経験を有する教員が、社会人として必要な知識・マナーについて、指導をする。

到達目標

- (A3803)
 ○自分自身で考え、自分の言葉で表現できる。
 ○初対面の人とコミュニケーションを取ることが出来、人間関係が構築できる。
 ○社会人として基本的なマナーを習得し実行できる。"

成績評価方法

事前指導の受講態度、インターンシップ先による評価、実習レポート、実習日誌、報告会での報告内容を総合して、評価する。

評価項目	評価基準						
	知識理解	思考判断	関心意欲	技能表現	態度	その他	評価割合 (%)
定期試験(中間・期末)							
小テスト、授業内レポート							
宿題、授業外レポート	○	○	○				20
授業態度・授業参加度					○		10
プレゼンテーション	○		○	○			10
グループワーク		○	○		○		10
演習							
実習	○	○	○	○	○	○	50

授業計画と概要、予習・復習内容（時間）（実習）	アクティブラーニング
<p>10月 オリエンテーション（担当：角光） ～インターンシップの概要について～</p> <p>11月 インターンシップ受け入れ先の選択（担当：角光） 希望先について調査し、レポートを作成 必要書類の準備</p> <p>1月 インターンシップ受け入れ先の選択・決定（最終）（担当：角光） 必要書類の準備</p> <p>1月上旬～（集中）マナーの習得（担当：角光） ビジネスマナーの習得その1 ビジネスマナーの習得その2</p> <p>2月～3月 希望先でのインターンシップ（担当：角光） （後期定期試験期間終了後）</p> <p>3月 インターンシップ報告書の作成・提出（担当：角光） インターンシップの振り返り 報告会</p>	
授業外学習	
<p>希望先について調査し、レポートを作成する。インターンシップを通じて、自分が習得したいことを事前準備で明確にする。インターンシップでの日々の振り返りを通して、次のインターンシップにおける行動に活かす。</p>	
テキスト、参考書、教材	関連する科目
<p>適宜配布するプリント</p>	<p>キャリアデザイン、 インターンシップ</p>

課題に対するフィードバック

適宜、面談又は、提出された課題にコメントにて実施する。

備考

科目名	健康・医療心理学			
授業形態	履修形態	単位数	年次	開講期
講義	選択	2	3年	前期
担当者名	小山 典子	関連する資格	公認心理師受験資格 認定心理士	

授業概要

本講義では、健康心理学と医療心理学という2つの領域について概説する。健康心理学は疾病を予防し心身の健康を増進することを目的にした新しい心理学ないし行動科学であり、基礎研究と実践という2つの領域をもつ。前半の健康心理学の講義では、健康に関連するさまざまなテーマについて行動科学的見地から学習し、自らの健康観を見直し、基礎研究に基づいた実践活動のあり方を考える。

後半の医療心理学では、医療・保健活動が行われている現場や災害時における心理社会的課題および必要な支援について学ぶ。

【実務経験】

担当教員は、公認心理師・臨床心理士・看護師の資格を有し、病院臨床の経験、大学院附属臨床心理相談センターでの心理支援活動にも携わっており、それらの活動をもとに実践的で臨場感のある授業を行う。

到達目標

(A3601ab)

- 1.心理学における健康心理学の位置づけと特徴を説明できる。
- 2.各テーマに関する知見を説明できる。
- 3.授業で取り上げた理論やモデルを説明できる。
- 4.授業で取り上げた理論やモデル、知見を自分自身の健康の維持、増進に役立てることができる。
- 5.医療・保健分野における心理学的な側面、支援方法を理解し説明できる。
- 6.災害時など被害者支援における知識・支援方法を理解し説明できる。

成績評価方法

定期試験40%、授業内レポート30%、授業外レポート20%、授業参加態度10%で評価する。

評価項目	評価基準						評価割合 (%)
	知識理解	思考判断	関心意欲	技能表現	態度	その他	
定期試験(中間・期末)				○			40
小テスト、授業内レポート				○	○		30
宿題、授業外レポート	○	○	○	○	○		20
授業態度・授業参加度			○				10
プレゼンテーション							
グループワーク							
演習							
実習							

授業計画と概要、予習・復習内容（時間）		アクティブラーニング
1)	健康心理学とは：病気と健康，健康心理学の定義，生物-心理-社会モデル 【予習】授業で扱う概念や専門用語，理論を調べる 【復習】授業内容について復習する（60分）	
2)	生活習慣と健康：生活習慣病とは，体力の構造，身体運動の分類と効果 【予習】授業で扱う概念や専門用語，理論について調べる（60分以上） 【復習】授業内容について復習する（60分）	レポート
3)	生活習慣と健康：睡眠・覚醒リズム，睡眠障害と治療法 【予習】授業で扱う概念や専門用語，理論について調べる（60分以上） 【復習】授業内容について復習する（60分）	実習 レポート
4)	ストレスと健康：ストレスとストレッサー，ストレスの生理的過程 【予習】授業で扱う概念や専門用語，理論について調べる（60分以上） 【復習】授業内容について復習する（60分）	レポート
5)	ストレスと健康：トランスアクションル・モデルとコーピング 【予習】授業で扱う概念や専門用語，理論について調べる（60分以上） 【復習】授業内容について復習する（60分）	レポート
6)	セルフマネジメント：ケアモデルの種類 【予習】授業で扱う概念や専門用語，理論について調べる（60分以上） 【復習】授業内容について復習する（60分）	レポート
7)	健康教育：健康教育の考え方，逆戻り予防モデル 【予習】授業で扱う概念や専門用語，理論について調べる（60分以上） 【復習】授業内容について復習する（60分）	レポート
8)	行動変容モデル：トランスセオレティカル・モデル（TTM） 【予習】授業で扱う概念や専門用語，理論について調べる（60分以上） 【復習】授業内容について復習する（60分）	レポート
9)	医療現場における心理社会的課題及び必要な支援 【予習】多職種連携・協働について調べる（60分） 【復習】授業内容について復習する（60分）	レポート
10)	医療現場における心理社会的課題及び必要な支援 うつ病と健康 【予習】うつ病についての資料を読む（60分） 【復習】授業内容について復習する（60分）	レポート
11)	医療現場における心理社会的支援及び必要な支援 精神科，児童精神科 【予習】心理支援法についての資料を読む（60分） 【復習】授業内容について復習する（60分）	レポート
12)	医療現場における心理社会的支援及び必要な支援 心療内科，さまざまな医療現場 【予習】心身症についての資料を読む（60分） 【復習】授業内容について復習する（60分）	レポート
13)	保健活動が行われている現場における心理社会的課題 さまざまな保健活動 【予習】地域保健活動についての資料を読む（60分） 【復習】授業内容について復習する（60分）	グループワーク レポート
14)	保健活動が行われている現場における心理社会的課題 ストレスチェック 【予習】ストレスチェックについての資料を読む（60分） 【復習】授業内容について復習する（60分）	グループワーク レポート
15)	災害時等に必要心理に関する支援 【予習】サイコロジカル・ファーストエイドについての資料を読む（60分） 【復習】授業内容について復習する（60分）	レポート
授業外学習		
【予習】各回の授業の最後に、次回授業で扱う概念や専門用語，理論を提示するので，心理学事典等を用いてあらかじめ調べておくこと。 【復習】疑問に思ったことや興味・関心を惹かれたことについて，心理学事典や参考書，インターネット等を用いて調べる。		
テキスト、参考書、教材		関連する科目
テキスト：必要に応じて資料を配布する。 参考書：健康心理学概論，日本健康心理学学会編，実務教育出版 健康の心理学 心と身体の健康のために，春木豊他共著，サイエンス社		産業・組織心理学，感情・人格心理学，臨床心理学概論

課題に対するフィードバック

レポートについては、質問・意見に対して全体にフィードバックする。必要に応じてコメントをつけて返す。

備考

科目名	教育・学校心理学			
授業形態	履修形態	単位数	年次	開講期
講義	選択	2	3年	後期
担当者名	大石 英史	関連する資格	公認心理師受験資格 認定心理士	

授業概要

本授業では、学校教育システムにおける臨床心理学的支援の理論や実践について、スクールカウンセラー、教師、保護者、地域の役割、連携、支援方法など、具体的事例を交えながら考えていく。また、不登校、いじめ、発達障害をはじめとする、学校における具体的問題への対応についても検討する。授業全体を通して、学校教育に活かすことのできる教育心理学の知見を紹介すると共に、教育現場における心理社会的課題及び必要な支援とは何か、児童生徒の発達を支援するための学校教育相談システムの在り方についても解説する。なお、担当教員は公認心理師・臨床心理士であり、教育領域、産業領域、地域などにおいて心理学的支援を実践している。

到達目標

(A3602ab)
 ・より質の高い学校教育相談の在り方について、心理学的な知見を用いて説明できる。
 ・教育現場において生じる問題及びその背景を理解できる。
 ・教育現場における心理社会的課題を把握し、それに必要な支援の在り方を理解できる。
 ・インクルーシブ教育やユニバーサルデザイン教育について理解し、学びの困難さを解消するための教育の在り方について説明できる。

成績評価方法

- ・期末レポート(30%)
- ・授業内レポート(30%)
- ・授業態度・授業参加度(20%)
- ・グループワーク(20%)

評価項目	評価基準						
	知識理解	思考判断	関心意欲	技能表現	態度	その他	評価割合(%)
定期試験(中間・期末)	○	○	○	○			30
小テスト、授業内レポート							30
宿題、授業外レポート							
授業態度・授業参加度							20
プレゼンテーション							
グループワーク							20
演習							
実習							

授業計画と概要、予習・復習内容（時間）	アクティブラーニング
1) 教育・学校心理学と心理専門職 【予習】事前に提示したテーマについて調べておく(90分) 【復習】専門語彙を正しく理解し暗記する(90分)	
2) 日本の歴史と文化から教育を考える ゆとり教育 【予習】事前に提示したテーマについて調べておく(90分) 【復習】専門語彙を正しく理解し暗記する(90分)	グループワーク
3) 教育現場に求められる子ども理解 【予習】事前に提示したテーマについて調べておく(90分) 【復習】専門語彙を正しく理解し暗記する(90分)	
4) 望ましい早期教育を心の発達から考える アタッチメントの形成 【予習】事前に提示したテーマについて調べておく(90分)【復習】専門語彙を正しく理解し暗記する(90分)	グループワーク
5) 学校現場における発達障害への支援 【予習】事前に提示したテーマについて調べておく(90分) 【復習】専門語彙を正しく理解し暗記する(90分)	
6) 小学校教育における危機と支援(小1・2) 個と集団を考える 【予習】事前に提示したテーマについて調べておく(90分) 【復習】専門語彙を正しく理解し暗記する(90分)	グループワーク
7) 学童期の発達課題と9歳の壁 【予習】事前に提示したテーマについて調べておく(90分) 【復習】専門語彙を正しく理解し暗記する(90分)	
8) 小学校教育における危機と支援(小5・6) 【予習】事前に提示したテーマについて調べておく(90分) 【復習】専門語彙を正しく理解し暗記する(90分)	グループワーク
9) 思春期の心の理解と支援 【予習】事前に提示したテーマについて調べておく(90分) 【復習】専門語彙を正しく理解し暗記する(90分)	
10) 自己効力感と自己コントロールを育む 【予習】事前に提示したテーマについて調べておく(90分) 【復習】専門語彙を正しく理解し暗記する(90分)	グループワーク
11) 不登校支援からみた子どもの発達理解 【予習】事前に提示したテーマについて調べておく(90分) 【復習】専門語彙を正しく理解し暗記する(90分)	
12) 教育の現場で生じる問題 不登校の理解と支援 【予習】事前に提示したテーマについて調べておく(90分) 【復習】専門語彙を正しく理解し暗記する(90分)	グループワーク
13) 学校現場におけるいじめ問題への対応 【予習】事前に提示したテーマについて調べておく(90分) 【復習】専門語彙を正しく理解し暗記する(90分)	
14) スクールカウンセラーの活動 【予習】事前に提示したテーマについて調べておく(90分)【復習】専門語彙を正しく理解し暗記する(90分)	グループワーク
15) 学校現場における多職種との連携 【予習】事前に提示したテーマについて調べておく(90分) 【復習】専門語彙を正しく理解し暗記する(90分)	
授業外学習	
<p>授業前に指定された資料等を熟読しテーマについて理解しておく。 授業後は授業の復習をして知識の定着を図る。 わからないことは授業後に質問する。</p>	
テキスト、参考書、教材	関連する科目
<p>・シリーズ心理学と仕事 第7巻 「教育・学校心理学」 石隈利紀・小野瀬雅人編 北大路書房 ・「学校心理学 教師・スクールカウンセラー・保護者のチームによる心理教育的援助サービス」石隈利紀 誠信書房 ・公認心理師スタンダードテキストシリーズ18 「教育・学校心理学」小野瀬雅人編著 ミネルヴァ書房</p>	<p>学習・言語心理学、発達心理学、障害者・障害児心理学 生涯発達心理学、臨床心理学、対人関係論</p>

課題に対するフィードバック

授業中の疑問や気づき、及び感想などをの小レポートについて、再度の説明が必要な個所について次回の授業で口頭で説明する。

備考

科目名	司法・犯罪心理学			
授業形態	履修形態	単位数	年次	開講期
講義	選択	2	4年	前期
担当者名	小川 昭	関連する資格	公認心理師受験資格 認定心理士	

授業概要

犯罪の準備状態、犯罪の発生メカニズム、犯罪の影響と解決のための手法、加害者の処遇などについて最近の動向をふまえてつづ概観し、加害者の更生と被害者の支援のあり方について学ぶ。
 刑事施設における処遇経験をもとに犯罪の加害者に対する理解と改善更生への処遇について、犯罪被害者支援センターでの経験をもちに犯罪被害者への支援について、スクールカウンセラーの相談と民間のDV被害者支援センターとの関りから虐待・家事事件への対応について授業を行う。

到達目標

- A4601ab
1. 犯罪に係る基礎的知識が説明できる。
 2. 加害者や被害者を支える支援と制度が説明できる。
 3. 習得した知識をふまえて、具体的な犯罪事例について、自分なりの支援が実施できる。

成績評価方法

定期試験、レポート、小テスト、受講態度で評価する。

評価項目	評価基準						
	知識理解	思考判断	関心意欲	技能表現	態度	その他	評価割合 (%)
定期試験(中間・期末)							60
小テスト、授業内レポート							20
宿題、授業外レポート							
授業態度・授業参加度							20
プレゼンテーション							
グループワーク							
演習							
実習							

授業計画と概要、予習・復習内容（時間）	アクティブラーニング
1) 犯罪心理学とは何か(犯罪心理学の対象) 【予習】犯罪心理学について考察してくる(30分) 【復習】授業ノート・資料を整理し自己学習する(30分)	授業内レポート
2) 犯罪心理学の歴史(犯罪観) 生物学的原因論 【予習】犯罪に至る生理的要因について考察してくる(30分) 【復習】授業ノート・資料を整理し自己学習する(30分)	授業内レポート
3) 犯罪心理学の歴史(犯罪観) 心理学的原因論 【予習】犯罪に至る心理的要因について考察してくる(30分) 【復習】授業ノート・資料を整理し自己学習する(30分)	授業内レポート
4) 犯罪心理学の歴史(犯罪観) 社会学的原因論 【予習】犯罪に至る社会的要因について考察してくる(30分) 【復習】授業ノート・資料を整理し自己学習する(30分)	授業内レポート
5) 犯罪理解のための理論と実際 暴力犯罪、拡大自殺 【予習】殺人等の暴力事件について考察してくる(30分) 【復習】授業ノート・資料を整理し自己学習する(30分)	授業内レポート
6) 犯罪理解のための理論と実際 性犯罪、ストーキング 【予習】性犯罪について考察してくる(30分) 【復習】授業ノート・資料を整理し自己学習する(30分)	授業内レポート
7) 犯罪理解のための理論と実際 DV、虐待 【予習】DVや虐待などの暴力による支配について考察してくる(30分) 【復習】授業ノート・資料を整理し自己学習する(30分)	授業内レポート
8) 犯罪理解のための理論と実際 窃盗、強盗、放火 【予習】強盗や放火犯罪について考察してくる(30分) 【復習】授業ノート・資料を整理し自己学習する(30分)	授業内レポート
9) アクションと犯罪 【予習】薬物事犯や窃盗症などの嗜癖について考察してくる(30分) 【復習】授業ノート・資料を整理し自己学習する(30分)	授業内レポート
10) 犯罪心理学に関する法律と制度 【予習】成人と少年の法制度について考察してくる(30分) 【復習】授業ノート・資料を整理し自己学習する(30分)	授業内レポート
11) 犯罪加害者の処遇と更生支援 【予習】成人の犯罪者の処遇について考察してくる(30分) 【復習】授業ノート・資料を整理し自己学習する(30分)	授業内レポート
12) 非行の処遇と更生支援 【予習】少年非行の事件とその背景について考察してくる(30分) 【復習】授業ノート・資料を整理し自己学習する(30分)	授業内レポート
13) 非行の処遇と更生支援 【予習】少年非行の処遇について考察してくる(30分) 【復習】授業ノート・資料を整理し自己学習する(30分)	授業内レポート
14) 触法精神障害者の処遇と更生支援 犯罪被害者の理解と支援(修復的司法) 【予習】医療観察法と犯罪被害者への支援について考察してくる(30分) 【復習】授業ノート・資料を整理し自己学習する(30分)	授業内レポート
15) 家事事件への対応 【予習】家事事件や子どもの面会交流について考察してくる(30分) 【復習】授業ノート・資料を整理し自己学習する(30分)	授業内レポート
授業外学習	
講義の終わりに、その講義のふりかえるため、講義のポイントをテーマとした授業内レポートの提出を求めます。配布資料を中心に復習をくり返すことにより、知識の定着を図って下さい。	
テキスト、参考書、教材	関連する科目
【テキスト】 レジメを配布する。 【参考書】 わかりやすい犯罪心理学 文化書房博文社 犯罪心理学への招待 サイエンス社 公認心理師の基礎と実践 司法・犯罪心理学 遠見書房	

課題に対するフィードバック

授業の初めに、前回の授業のフィードバックを行う。

備考

オフィスパワー；講義終了後、質問を受け付ける。

科目名	生涯発達心理学（乳幼児期）			
授業形態	履修形態	単位数	年次	開講期
講義	選択	2	3年	前期
担当者名	太田 列子	関連する資格	認定心理士	

授業概要

生涯発達心理学（Life-span Developmental Psychology）とは、人の受胎から死までの生涯に渡って、人間の心身の発達やメカニズムを研究する学問である。発達とは、未熟なものがより成熟した状態になることであるとするならば、人間の精神は生涯にわたって発達し続ける可能性がある。

本講義では、生物-心理-社会モデル（Bio-Psycho-Social model）に基づき、エリクソン（Erikson, E.H.）のライフサイクル（life cycle）の観点から、人生の最初期である乳幼児期における心理的な特徴と発達課題を理解し、乳幼児の成長発達を促進する要因ならびに阻害する要因について修得することを目的とする。

前半は、乳児期から児童期までの人間の心と各機能の発達を理解する。後半は、発達過程の中で顕わになる子どもの社会適応上の問題を理解し、より良い心理発達援助の在り方を考える。

授業担当者は、臨床心理士及び公認心理師の資格を有しており、小児科クリニック心理士、乳幼児健康診査嘱託心理士、5歳児発達相談会相談員、要保護児童対策地域協議会委員等の実務経験をもとに、乳幼児の心理について授業を行う。

本講義は、対面で実施する。

到達目標

A3401b

本講義の到達目標は、受講生が乳幼児期の人間の心理発達過程及び各機能の発達について、生涯発達心理学の観点から系統的に説明できる、乳児期から児童期までの子どもの心理発達について理解し、適応上の問題や発達課題と発達援助の在り方を示せる、人間の心理発達、成長にどのような因子が大きな影響を与えているのかについて推論できる、ことである。

成績評価方法

授業中のミニレポート、宿題（小課題）、受講態度（グループワークへの参加を含む）、期末試験により評価する。

評価項目	評価基準						
	知識理解	思考判断	関心意欲	技能表現	態度	その他	評価割合 (%)
定期試験(中間・期末)							50
小テスト、授業内レポート							20
宿題、授業外レポート							10
授業態度・授業参加度							10
プレゼンテーション							
グループワーク							10
演習							
実習							

授業計画と概要、予習・復習内容（時間）		アクティブラーニング
1)	オリエンテーション：生涯発達心理学とは何かー心理学より見た人間の発達 【予習】テキスト第1章を読んでおく(60分) 【復習】当日の学習内容を確認する(30分)	グループワーク（ディスカッション）
2)	発達の生物学的基礎ー遺伝と環境 【予習】講義内で配布した資料とテキスト第2章を読んでおく(60分) 【復習】当日の学習内容を確認する(30分)	ミニッツペーパー（授業内ミニレポート）
3)	命の始まりー受精から誕生まで 【予習】講義内で配布した資料とテキスト第3章を読んでおく(60分) 【復習】当日の学習内容を確認する(30分)	ミニッツペーパー（授業内ミニレポート）
4)	新生児・乳児期の心理発達と研究法 【予習】講義内で配布した資料とテキストの当該箇所を読んでおく(60分) 【復習】当日の学習内容を確認する(30分)	ミニッツペーパー（授業内ミニレポート）
5)	アタッチメントの発達ー関係性の中で育まれる基本的信頼感 【予習】講義内で配布した資料とテキスト第4章を読んでおく(60分) 【復習】当日の学習内容を確認する(30分)	ミニッツペーパー（授業内ミニレポート）
6)	アタッチメントの研究法ー個人差と気質 【予習】講義内で配布した資料とテキストの当該箇所を読んでおく(60分) 【復習】当日の学習内容を確認する(30分)	小テスト、ミニッツペーパー（授業内ミニレポート）
7)	不適切な養育ー子どもの育ちを阻害する要因 【予習】講義内で配布した資料とテキストの当該箇所を読んでおく(60分) 【復習】当日の学習内容を確認する(30分)	ミニッツペーパー（授業内ミニレポート）
8)	認知の発達ーピアジェの発達理論 【予習】講義内で配布した資料とテキスト第5章を読んでおく(60分) 【復習】当日の学習内容を確認する(30分)	ミニッツペーパー（授業内ミニレポート）
9)	社会性の発達ー社会的認知と社会的行動 【予習】講義内で配布した資料とテキスト第6章を読んでおく(60分) 【復習】当日の学習内容を確認する(30分)	ミニッツペーパー（授業内ミニレポート）
10)	共感、自己・他者のこころを理解するーこころの理論 【予習】講義内で配布した資料とテキストの当該箇所を読んでおく(60分) 【復習】当日の学習内容を確認する(30分)	ミニッツペーパー（授業内ミニレポート）
11)	感情と自己の発達ー自己感の発達 【予習】講義内で配布した資料とテキスト第7章を読んでおく(60分) 【復習】当日の学習内容を確認する(30分)	グループワーク（ディスカッション）
12)	遊びと対人関係の発達 【予習】講義内で配布した資料とテキスト第8章を読んでおく(60分) 【復習】当日の学習内容を確認する(30分)	グループワーク（ロールプレイ）
13)	言葉と思考をめぐる発達 【予習】講義内で配布した資料とテキスト第9章を読んでおく(60分) 【復習】当日の学習内容を確認する(30分)	グループワーク（ディスカッション）
14)	子どもの適応と臨床ー発達支援 【予習】講義内で配布した資料とテキストの当該箇所を読んでおく(60分) 【復習】当日の学習内容を確認する(30分)	グループワーク（ロールプレイ）
15)	まとめ：子どもの発達 【予習】14回までの講義内容を確認し、質問できるようにしておく(60分) 【復習】乳幼児期の生涯発達について確認する(30分)	ミニッツペーパー（授業内ミニレポート）、小テスト
授業外学習		
各自が選んだテーマについて、授業時間外に調べたことを基にディスカッションを行う。		
テキスト、参考書、教材		関連する科目
テキスト：公認心理師スタンダードテキストシリーズ12 発達心理学 下山晴彦・佐藤隆夫・本郷一夫(監修)、林創(編著) ミネルヴァ書房 参考書：適宜、紹介する。		発達心理学、生涯発達心理学（児童期・青年期）、生涯発達心理学（成人期・老年期）、教育・学校心理学

課題に対するフィードバック

授業内ミニレポートは、次回授業時にコメントする。
ロールプレイ、ディスカッションについては適宜解説を行い、優れた点や留意点等について、授業時間内に口頭でフィードバックする。

備考

授業ではビデオや当事者のインタビュー、グループワークを交えて、視覚的・感覚的に乳幼児の心理を理解し、心理発達を促進するための具体的な方法を実践的に身につける。

科目名	生涯発達心理学（児童期・青年期）			
授業形態	履修形態	単位数	年次	開講期
講義	選択	2	3年	後期
担当者名	三島 瑞穂	関連する資格	認定心理士	

授業概要

児童期と青年期の心身の発達をライフサイクルの視点から学び、理解を深めることを目的とする。また、児童期と青年期に生じやすい心理社会的な問題と、それに対する支援方法についても紹介する。

到達目標

(A3202b)

1. ライフサイクルの視点から、児童期から青年期までの発達の特徴をとらえられる。
2. 児童期から青年期における発達のプロセスを、身体的側面、認知的側面、社会的側面から理解できる。
3. 児童期と青年期各々の発達課題について説明できる。
4. 児童期と青年期における心理的問題と、それに対する支援方法や心理療法について理解できる。

成績評価方法

授業ごとの小課題40%、期末レポート30%、授業への参加状況30%で評価する。

評価項目	評価基準						
	知識理解	思考判断	関心意欲	技能表現	態度	その他	評価割合 (%)
定期試験(中間・期末)							
小テスト、授業内レポート	○	○	○	○	○		40
宿題、授業外レポート	○	○	○	○	○		30
授業態度・授業参加度	○	○	○	○	○		30
プレゼンテーション							
グループワーク							
演習							
実習							

授業計画と概要、予習・復習内容（時間）		アクティブラーニング
1)	幼児期から児童期への移行：心理社会的発達 【予習】周りの子どもを観察し、児童期の特徴を考える（20分以上） 【復習】小課題で復習し理解を深め、概念の定義を暗記する（20分以上）	ドキュメンタリーの視聴・グループディスカッション
2)	幼児期から児童期への移行：知的発達 【予習】授業で扱う概念や専門用語、理論について調べる（90分以上） 【復習】小課題で復習し理解を深め、概念の定義を暗記する（90分以上）	小課題
3)	記憶と認知の発達：ワーキングメモリ（作動記憶）とメタ認知の発達 【予習】授業で扱う概念や専門用語、理論について調べる（90分以上） 【復習】小課題で復習し理解を深め、概念の定義を暗記する（90分以上）	小課題
4)	道徳性の発達 【予習】授業で扱う概念や専門用語、理論について調べる（90分以上） 【復習】小課題で復習し理解を深め、概念の定義を暗記する（90分以上）	小課題
5)	児童期の社会性の発達：発達の過程と仲間関係 【予習】授業で扱う概念や専門用語、理論について調べる（90分以上） 【復習】小課題で復習し理解を深め、概念の定義を暗記する（90分以上）	小課題
6)	発達障害のある児童が抱える心理的課題 【予習】授業で扱う概念や専門用語、理論について調べる（90分以上） 【復習】小課題で復習し理解を深め、概念の定義を暗記する（90分以上）	ドキュメンタリーの視聴、小課題
7)	児童期～青年期：自我の発達と自己像の形成 【予習】授業で扱う概念や専門用語、理論について調べる（90分以上） 【復習】小課題で復習し理解を深め、概念の定義を暗記する（90分以上）	ドキュメンタリーの視聴・ワーク
8)	思春期：身体的変化と脳の発達 【予習】授業で扱う概念や専門用語、理論について調べる（90分以上） 【復習】小課題で復習し理解を深め、概念の定義を暗記する（90分以上）	ドキュメンタリーの視聴・グループディスカッション
9)	思春期・青年期における対人関係：親子関係の変化と親からの自立 【予習】授業で扱う概念や専門用語、理論について調べる（90分以上） 【復習】小課題で復習し理解を深め、概念の定義を暗記する（90分以上）	ドキュメンタリーの視聴・グループディスカッション
10)	思春期・青年期における対人関係：孤独感の発達と友人とのつながり 【予習】授業で扱う概念や専門用語、理論について調べる（90分以上） 【復習】小課題で復習し理解を深め、概念の定義を暗記する（90分以上）	小課題
11)	思春期・青年期における対人関係：恋愛 【予習】授業で扱う概念や専門用語、理論について調べる（90分以上） 【復習】小課題で復習し理解を深め、概念の定義を暗記する（90分以上）	小課題
12)	児童～青年期における学校適応の問題：いじめと不登校に対する支援 【予習】授業で扱う概念や専門用語、理論について調べる（90分以上） 【復習】小課題で復習し理解を深め、概念の定義を暗記する（90分以上）	ドキュメンタリーの視聴・小課題
13)	青年期の発達課題：アイデンティティの獲得 【予習】授業で扱う概念や専門用語、理論について調べる（90分以上） 【復習】小課題で復習し理解を深め、概念の定義を暗記する（90分以上）	小課題
14)	青年期における心理臨床：自己成長のためのアプローチと心理治療モデル 【予習】授業で扱う概念や専門用語、理論について調べる（90分以上） 【復習】小課題で復習し理解を深め、概念の定義を暗記する（90分以上）	ワーク・小課題
15)	成人期への移行期：ライフコースの選択 【予習】授業で扱う概念や専門用語、理論について調べる（90分以上） 【復習】小課題で復習し理解を深め、概念の定義を暗記する（90分以上）	ワーク・小課題
授業外学習		
疑問に思ったことや興味・関心をもったことについて、心理学事典や参考書、インターネット等を用いて調べる。これまでの自分が体験してきたこと、今の自分が体験していることを大切に捉え、自己理解を深める。		
テキスト、参考書、教材		関連する科目
テキストは使用しない。毎回プリントを配布する。参考文献は授業内で紹介する。		心理学概論、発達心理学、生涯発達心理学（乳幼児期）、生涯発達心理学（成人期・老年期）

課題に対するフィードバック

授業ごとの小課題に対して個別にフィードバックを行う。

備考

科目名	生涯発達心理学 (成人期・老年期)			
授業形態	履修形態	単位数	年次	開講期
講義	選択	2	3年	前期
担当者名	岡村 佳子	関連する資格	認定心理士	

授業概要

乳幼児期・児童期・青年期・成人期を経て積み上げてきた発達段階の最終ステージにあたる高齢期。いわば人生の集大成といえるこの時期を生きる人について、身体特性・知的特性・パーソナリティの変容を踏まえて理解する。また、この時期に発症リスクの高まる認知症についての理解を深める。
さらに、サポートネットワークの必要性を学ぶと共に、支援者としての視点について理解する。

超高齢化社会の現代において、高齢者への心理的支援のニーズが高まっている。
老年期の心の発達の課題を理解し、心理学的知識に基づくアプローチや支援方法について知る。
認知症に特化した精神科医療で働く心理師の実務経験をもとに、高齢者に対する心理臨床について授業を行う。

授業形態は対面で実施する。なお、授業内容に応じてグループワークを組みこむことで、多角的な視点を獲得し、より深い学習理解へつなげる。

到達目標

A3203b

老年期心性について、身体的側面・知的側面・パーソナリティ側面の特徴を踏まえて理解する。
認知症の概念・定義・臨床像・神経学的症状・検査法（神経心理学的査定法も含む）・老年期に好発するその他の精神病との鑑別・心理療法的アプローチおよびその他の非薬物的療法・マネジメントについて知る。
高齢者との円滑なコミュニケーション技術について学ぶ。
高齢者の尊厳・生命倫理について、特に心理的視点から考えることができる。
高齢者に関する法制度（成年後見など）について知る。
高齢者のニーズおよび高齢者に関わる他職種について知る。

成績評価方法

定期試験、授業内小レポート、グループワークにより評価する。

評価項目	評価基準						
	知識理解	思考判断	関心意欲	技能表現	態度	その他	評価割合 (%)
定期試験(中間・期末)							40
小テスト、授業内レポート							20
宿題、授業外レポート							
授業態度・授業参加度							
プレゼンテーション							
グループワーク							30
演習							10
実習							

授業計画と概要、予習・復習内容（時間）	アクティブラーニング
1) 生涯発達心理学について 概説と、成人期・老年期の位置づけ【予習】エリクソンの発達段階に目を通しておく(15分)【復習】各々の発達段階における課題をまとめる(30分)	小レポート
2) 老年期心性について 身体的側面・知的側面・パーソナリティ側面の変容とその特徴【予習】課題は前講義時に伝える(10分)【復習】当日の講義終了時に伝える(30分)	グループワーク 小レポート
3) 老年期心性について 老いを生きるということ【予習】課題は前講義時に伝える(10分)【復習】当日の講義終了時に伝える(30分)	グループワーク 小レポート
4) 高齢者とのコミュニケーション技術 シニア・シミュレーターを用いた疑似体験・主に視覚・聴覚・発話機能からみたコミュニケーション障害について【予習】課題は前講義時に伝える(10分)【復習】当日の講義終了時に伝える(30分)	グループワーク 小レポート
5) 認知症について 概説【予習】課題は前講義時に伝える(10分)【復習】当日の講義終了時に伝える(30分)	小レポート
6) 認知症について 臨床像・神経心理学的症候・BPSD【予習】課題は前講義時に伝える(10分)【復習】当日の講義終了時に伝える(30分)	グループワーク 小レポート
7) 認知症について 神経心理学的検査法（基礎編）【予習】課題は前講義時に伝える(10分)【復習】当日の講義終了時に伝える(30分)	グループワーク 小レポート
8) 認知症について 神経心理学的検査法（応用編）【予習】課題は前講義時に伝える(10分)【復習】当日の講義終了時に伝える(30分)	演習 小レポート
9) 認知症について 老年期に好発するその他の精神病について【予習】課題は前講義時に伝える(10分)【復習】当日の講義終了時に伝える(30分)	小レポート
10) 認知症について 心理療法的アプローチ（基礎編）【予習】課題は前講義時に伝える(10分)【復習】当日の講義終了時に伝える(30分)	グループワーク 小レポート
11) 認知症について 心理療法的アプローチ（応用編）【予習】課題は前講義時に伝える(10分)【復習】当日の講義終了時に伝える(30分)	グループワーク 小レポート
12) 認知症について その他の非薬物的療法・マネージメント・家族へのアプローチ【予習】課題は前講義時に伝える(10分)【復習】当日の講義終了時に伝える(30分)	グループワーク 小レポート
13) 高齢者の尊厳 生命倫理・死生観【予習】課題は前講義時に伝える(10分)【復習】当日の講義終了時に伝える(30分)	グループワーク 小レポート
14) 高齢者に関する法制度 【予習】課題は前講義時に伝える(10分)【復習】当日の講義終了時に伝える(30分)	小レポート
15) 高齢者のニーズ 高齢者に関わる他職種と協働について【予習】課題は前講義時に伝える(10分)【復習】当日の講義終了時に伝える(30分)	グループワーク 小レポート
授業外学習	
授業内容に関連するテーマの中で、興味関心のある事柄やキーワードについて広くあるいは深く調べてみる。	
テキスト、参考書、教材	関連する科目
テキスト：必要に応じて資料を配布する。	心理学概論・、発達心理学、生涯発達心理学（乳幼児期）、生涯発達心理学（児童期・青年期）

課題に対するフィードバック

授業内の小レポート提出に対して、後日講師の評価を生徒にまとめて返却する。

備考

科目名	経営組織論			
授業形態	履修形態	単位数	年次	開講期
講義	選択	2	3年	前期
担当者名	渡邊 利文		関連する資格	

授業概要

経営組織論は大きくマクロ組織論とミクロ組織論に分かれます。マクロ組織論は、組織の構造や機能に着目して組織を考察します。従って、組織が生成、成長、発展していく中の経営者の組織管理職能が重要な役割を果たします。更に、組織と組織を取り巻く組織環境との相互作用も重要な要因です。そして、組織と他の組織との関係、組織間関係も重要になってきます。これに対して、ミクロ組織論は、組織の中の個人、つまり、組織メンバーに焦点をあて、個人が組織の中でどのような行動をとるかを考察します。従って、個人のモチベーションやリーダーシップ力、集団的意思決定が重要な分析要因になります。この授業では、マクロ組織論を中心に学習を進めます。ミクロ組織論は、マクロ組織論を考察する際に必要ならば取り上げますが、詳しくは学習しません。ミクロ組織論を深く学習したい人は、「組織行動論」の授業を履修してください。従って、この授業では、経営組織の構造、機能、管理原理を中心に学習します。

到達目標

(A3603)
経営学の学修成果に基づき経営組織の基本、発展、学説及び実際の企業の経営組織について、それらの知識を十分に身につけ、その重要性を他者に説明することができること。

成績評価方法

授業内小テスト、復習課題の提出等にもとづき、総合的に評価します。

評価項目	評価基準						
	知識理解	思考判断	関心意欲	技能表現	態度	その他	評価割合 (%)
定期試験(中間・期末)							
小テスト、授業内レポート							50
宿題、授業外レポート							25
授業態度・授業参加度							25
プレゼンテーション							
グループワーク							
演習							
実習							

授業計画と概要、予習・復習内容（時間）	アクティブラーニング
1) 1. 組織の概念と均衡条件 組織とは何か、組織成立の条件にはどのようなものがあるか、組織均衡の条件とは何か、予習は必要なし、復習は上記の課題を確認すること（90分）	小テストを実施します
2) 2. 組織構造の設計原理 組織構造の設計原理にはどのようなものがあるか 予習は必要なし。復習は上記課題を確認すること（90分）	小テストを実施します
3) 3. 分業システムとしての組織 組織における分業にはどのようなものがあるか 予習は必要なし。復習は上記課題を確認すること（90分）	小テストを実施します
4) 4. 組織構造の形態その1 ラインとスタッフとは何か 職能別組織とは何か 事業部制組織とは何か、予習は必要なし。復習は上記課題を確認すること（90分）	小テストを実施します
5) 5. 組織構造の形態その2 カンパニー制とは何か、マトリックス組織とは何か、そのメリットとデメリット 予習は必要なし。復習は上記課題を確認すること（90分）	小テストを実施します
6) 6. 国際経営組織の形態 国際化の進展にともなって、組織構造の形態はどのように変化するか 予習は必要なし。復習は上記課題を確認すること（90分）	小テストを実施します
7) 7. 組織のライフサイクル 組織は成長するにつれてどのように変容していくか 予習は必要なし。復習は上記課題を確認すること（90分）	小テストを実施します
8) 8. 官僚制組織 官僚制組織とは何か、また、官僚制の逆機能にはどのようなものがあるか 予習は必要なし。復習は上記課題を確認すること（90分）	小テストを実施します
9) 9. 外部環境と組織 その1 経営戦略と組織構造との関係は、組織構造の動態化の方策として、どのようなものが考えられるか、予習は必要なし。復習は上記課題を確認すること（90分）	小テストを実施します
10) 10. 外部環境と組織 その2 組織構造のコンティンジェンシー理論は何か 環境の不確実性の高まりに対して組織的な対応策には、予習は必要なし。復習は上記課題を確認すること（90分）	小テストを実施します
11) 11. 外部環境と組織その3 資源依存度の決定的要因は何か 資源依存関係をマネジメントする方法にはどのようなものがあるか 予習は必要なし。復習は上記課題を確認すること（90分）	小テストを実施します
12) 12. 外部環境と組織その4 取引コストとは何か 企業行動は取引コストによってどのような影響を受けるか 予習は必要なし。復習は上記課題を確認すること（90分）	小テストを実施します
13) 13. その他の組織観について 組織の個体群生態学論 社会ネットワーク組織論 新制度派組織論 予習は必要なし。復習は上記課題を確認すること（90分）	小テストを実施します
14) 14. 企業の社会的責任（CSR） CSRに対する消極論とはどのようなものか CSRに対する積極論とはどのようなものか 予習は必要なし。復習は上記課題を確認すること（90分）	小テストを実施します
15) 15. 企業のコーポレートガバナンス コーポレートガバナンスとは何か 日・米・独のコーポレートガバナンスの違いは何か 予習は必要なし。復習は上記課題を確認すること（90分）	小テストを実施します
授業外学習	
テキスト、参考書、教材	関連する科目
<p>テキストは使いません。授業中に、レジメや必要なコピー用紙を配布します。参考文献は、図書館の本を活用してください。経営組織論の本は多数あります。</p> <p>授業中に数回にわたって小テストを実施しますので、学期末の試験は実施しません。</p>	組織行動論、経営学、経営戦略論

課題に対するフィードバック

小テストは返却し翌週の授業時間内に解説します。
授業の予習は必要ありませんが、授業中にインプットした知識は、必ずアウトプットして再確認する必要があります。
実施した小テストは良き復習材料です。繰り返し学習しておいてください。

備考

科目名	組織行動論			
授業形態	履修形態	単位数	年次	開講期
講義	選択	2	3年	後期
担当者名	渡邊 利文		関連する資格	

授業概要

人が働く中でどのようにしたら個人のモチベーションや職務満足度は高まるのだろうか。欠勤や離職など組織にとって望ましくない態度や行動はどのようにして生じるのか等について、経営学や社会心理学などの学際的知見を応用し解決をはかるのが組織行動論である。この講義では、組織の中で人が個人として、集団としてどのような態度をとり行動するかについて、第一に、組織の中での個人のモチベーション論を、第二に指導者のリーダーシップ論を、そして、第三に、集団のなかのコンフリクトと集団的意思決定論についてその基礎概念や基本理論の学習を通じて理解を深める。

到達目標

A3604
組織と人の関わりや組織における人間行動の基本的知識を体系的に理解するのが、この講義の目的です。
今後は、この知識をベースにして自分のコミュニケーション能力とマネジメント能力を磨いて下さい。

成績評価方法

定期試験を実施します。
宿題、授業外レポートの提出を課す場合があります。

評価項目	評価基準						
	知識理解	思考判断	関心意欲	技能表現	態度	その他	評価割合 (%)
定期試験(中間・期末)							50
小テスト、授業内レポート							20
宿題、授業外レポート							20
授業態度・授業参加度							10
プレゼンテーション							
グループワーク							
演習							
実習							

授業計画と概要、予習・復習内容（時間）	アクティブラーニング
1) 1. 組織行動論とは 1-1. 組織とは何か 1-2. 組織と人間との関わり 【復習】講義内容を復習する（60分）	
2) 2. 仕事へのモチベーション その1 2-1. モチベーションとは 2-2. 目標とモチベーション 【復習】講義内容を復習する（60分）	
3) 3. 仕事へのモチベーション その2 3-1. 内発的モチベーション 【復習】講義内容を復習する（60分）	ワークモチベーションの内容要約のレポート提出
4) 4. 組織コミットメントと組織の公平 その1 4-1. 組織コミットメントに影響を与える諸要因 【復習】講義内容を復習する（60分）	
5) 5. 組織コミットメントと組織の公平 その2 5-1. 組織的公平とはなにか 【復習】講義内容を復習する（60分）	組織コミットの内容要約のレポート提出
6) 6. リーダーシップとは その1 6-1. リーダーシップ論の所説 【復習】講義内容を復習する（60分）	
7) 7. リーダーシップとは その2 7-1. リーダーとメンバーの交流 7-2. 信頼とリーダーシップ 【復習】講義内容を復習する（60分）	リーダーシップの内容要約のレポート提出
8) 8. 組織社会化について 8-1. 組織社会化の全体的枠組み 【復習】講義内容を復習する（60分）	
9) 9. 意思決定と合意形成 その1 9-1. 意思決定におけるヒューリスティックとバイアス 9-2. 合意形成と第三者による支援 【復習】講義内容を復習する(60分)	組織的意思決定と合意形成の内容要約のレポート提出
10) 10. 意思決定と合意形成 その2 10-1. コミュニケーション戦略 10-2. 組織文化の力 【復習】講義内容を復習する（60分）	組織開発の内容要約のレポート提出
11) 11. 組織開発 11-1. 組織学習について 11-2. 組織変革について 【復習】講義内容を復習する（60分）	
12) 12. 日本の経営について その1 12-1. 日本の経営の特徴と問題点 【復習】講義内容を復習する（60分）	
13) 13. 日本の経営について その2 13-1. 日本の経営、今後の課題 【復習】講義内容を復習する（60分）	日本の経営の内容要約のレポート提出
14) 14. キャリア・マネジメント 14-1. キャリアとは 14-2. キャリア・マネジメントの今後の課題 【復習】講義内容を復習する（60分）	
15) 15. 全体のまとめ 【復習】講義内容を復習する（60分）	
授業外学習	
予習の必要は有りません。しかし、しっかり復習をして下さい。復習は、レポート作成時にできると思います。レポート作成時に必要な情報が不足している場合には、図書館の関連本で補って下さい。インプットとアウトプットの学習サイクルを維持・継続することが必要です。レポート作成には60分以上は時間をかけて下さい。	
テキスト、参考書、教材	関連する科目
テキストは使用しません。講義の前にレジメを配布します。参考書は、図書館の関連本を探して下さい。	経営組織論

課題に対するフィードバック

レポートを作成する際に必要なメイン・キーワードを数個提示します。それらを使ってレポートを作成して下さい。提出したレポートは返します。その際、コメントを付けておきます。粗雑なレポートは再度の提出を要請する場合があります。

備考

科目名	経営戦略論			
授業形態	履修形態	単位数	年次	開講期
講義	選択	2	3年	前期
担当者名	渡邊 利文	関連する資格		

授業概要

1960年代から企業の多角化が急速に進展する中、個々の事業を束ね企業の進むべき方向性を明示することが重要になってきた。このような状況下で経営学の学問分野でも経営戦略論が注目されるようになってきた。
 経営戦略論とは、企業が環境変化に対応しながら企業目標を達成する方法を探究する学問である。
 今日、経営戦略論は、企業活動全体に関する企業戦略論と多角化した事業分野ごとの事業戦略論に分けられる。また、理論展開としては、企業の外部環境に焦点を当てた分析型のポジショニングベースアプローチと企業内部の経営資源に焦点を当てた資源ベースアプローチに集約できる。
 この2つの戦略理論を中心に学習を進めていく。

到達目標

(A3605)
 経営戦略の分析ツールを使って実際に企業診断が出来ることです。
 全社戦略のレベル、事業戦略のレベル、機能戦略のレベルでそれぞれ分析ができることが理想です。

成績評価方法

定期試験を実施します。
 また、講義の後半で、企業のケース分析をしてもらいます。
 この企業診断の結果を提出してもらい、この評価も成績評価に加算します。

評価項目	評価基準						
	知識理解	思考判断	関心意欲	技能表現	態度	その他	評価割合 (%)
定期試験(中間・期末)							40
小テスト、授業内レポート							30
宿題、授業外レポート							30
授業態度・授業参加度							
プレゼンテーション							
グループワーク							
演習							
実習							

授業計画と概要、予習・復習内容（時間）	アクティブラーニング
1) 経営戦略とは何か 【復習】講義内容を復習する（60分）	
2) SWOT分析の概要 【復習】講義内容を復習する（60分）	
3) 全社戦略について、その1 ドメインの設定 【復習】講義内容を復習する（60分）	
4) 全社戦略について、その2 製品－市場戦略 と PPM 【復習】講義内容を復習する（60分）	全社戦略の内容要約のレポート提出
5) 事業戦略について、その1 ポーターのファイブフォースモデル 【復習】講義内容を復習する（60分）	
6) 事業戦略について、その2 コトラーのポジショニング 【復習】講義内容を復習する（60分）	
7) 事業戦略について、その3 経済性分析による競争戦略 【復習】講義内容を復習する（60分）	事業戦略の内容要約のレポート提出
8) 機能戦略、その1 販売戦略 【復習】講義内容を復習する（60分）	企業のケース分析その1
9) 機能戦略、その2 技術戦略 【復習】講義内容を復習する（60分）	
10) 機能戦略、その3 生産戦略 【復習】講義内容を復習する（60分）	企業のケース分析その2
11) 機能戦略、その4 組織戦略 【復習】講義内容を復習する（60分）	企業のケース分析その3
12) 機能戦略、その5 財務戦略 【復習】講義内容を復習する（60分）	
13) 機能戦略、その6 その他の戦略 【復習】講義内容を復習する（60分）	企業のケース分析その4
14) 新しい戦略の流れ、その1 コーポレート・ガバナンス 【復習】講義内容を復習する（60分）	
15) 新しい戦略の流れ、その2 共創戦略 【復習】講義内容を復習する（60分）	
授業外学習	
<p>予習の必要は有りません。しかし、復習をしっかりとください。復習は、レポートの作成時にできると思います。レポート作成に必要なキーワードを提示しますので、それらを使って作成して下さい。知識が不足している場合には、図書館の関連本で補って下さい。60分以上は時間をかけて下さい。 インプットとアウトプットの作業を繰り返せば理解は深まります。</p>	
テキスト、参考書、教材	関連する科目
<p>テキストは使用しません。講義の前にレジュメを配布します。 参考書は、図書館で経営戦略の関連本を探してください。</p>	<p>マーケティング論、経営組織論</p>

課題に対するフィードバック

授業中に企業のケース分析を行います。各機能戦略のレベルで実施したいと思います。このケースの分析結果も提出してもらいます。
分析内容については、授業中に解析します。

備考

科目名	色彩心理学			
授業形態	履修形態	単位数	年次	開講期
講義	選択	2	3年	前期
担当者名	酒木 保	関連する資格	認定心理士	

授業概要

この講義では色彩心理学や印象やイメージに関する心理学の知見を中心に紹介する。これにより、商品開発やPR活動、プレゼンテーションにおける印象形成のメカニズムについて学ぶ。

到達目標

A3606b

色彩は色相・彩度・明度からなる。これらの特性をきちんと理解すること。さらに、様々な事象に対してこの3つの属性を操作し、色彩応用の理解を促す。

成績評価方法

色彩を用いた作品を作成する。それが評価対象となる。

評価項目	評価基準						
	知識理解	思考判断	関心意欲	技能表現	態度	その他	評価割合 (%)
定期試験(中間・期末)							50
小テスト、授業内レポート							
宿題、授業外レポート							
授業態度・授業参加度							25
プレゼンテーション							25
グループワーク							
演習							
実習							

授業計画と概要、予習・復習内容（時間）	アクティブラーニング
1) 色彩の基本特性について理解する 【予習】色彩の基本特性について調べる（60分） 【復習】授業の内容でわからなかった用語を調べる（60分）	ショートレポートの提出
2) 色彩の基本特性である色相、彩度、明度について理解する。 【予習】色の三属性について調べる（60分） 【復習】授業の内容でわからなかった用語を調べる（60分）	ショートレポートの提出
3) 色彩の知覚特性である視認性について理解する。視認性について基礎知識を学ぶ。 【予習】色彩の知覚特性について調べる（60分）【復習】授業の内容でわからなかった用語を調べる（60分）	ショートレポートの提出
4) 色彩の知覚特性である視認性について理解する。 視認性について応用を学ぶ。（ ）【予習】視認性について調べる（60分）【復習】授業の内容でわからなかった用語を調べる（60分）	ショートレポートの提出
5) 色彩の知覚特性である視認性について理解する。 視認性について応用を学ぶ。（ ）【予習】視認性について調べる（60分）【復習】授業の内容でわからなかった用語を調べる（60分）	ショートレポートの提出
6) 色彩の知覚特性である視認性について理解する。 視認性について応用を学ぶ。（ ）【予習】視認性の応用について調べる（60分） 【復習】授業の内容でわからなかった用語を調べる（60分）	ショートレポートの提出
7) 色彩の視知覚特性である可読性について理解する。 可読性について基礎知識を学ぶ。【予習】可読性について調べる（60分）【復習】授業の内容でわからなかった用語を調べる（60分）	ショートレポートの提出
8) 色彩の視知覚特性である可読性について理解する。 可読性について応用を学ぶ。（ ）【予習】可読性の応用について調べる（60分） 【復習】授業の内容でわからなかった用語を調べる（60分）	ショートレポートの提出
9) 色彩の視知覚特性である可読性について理解する。 可読性について応用を学ぶ。（ ）【予習】可読性の応用について調べる（60分） 【復習】授業の内容でわからなかった用語を調べる（60分）	ショートレポートの提出
10) 色彩の視知覚特性である可読性について理解する。 可読性について応用を学ぶ。（ ）【予習】可読性の応用について調べる（60分） 【復習】授業の内容でわからなかった用語を調べる（60分）	ショートレポートの提出
11) 色彩の視知覚特性である誘目性について理解する。 誘目性について基礎知識を学ぶ。【予習】誘目性について調べる（60分）【復習】授業の内容でわからなかった用語を調べる（60分）	ショートレポートの提出
12) 色彩の視知覚特性である誘目性について理解する。 誘目性について応用を学ぶ。（ ）【予習】誘目性の応用について調べる（60分） 【復習】授業の内容でわからなかった用語を調べる（60分）	ショートレポートの提出
13) 色彩の視知覚特性である誘目性について理解する。 誘目性について応用を学ぶ。（ ）【予習】誘目性の応用について調べる（60分） 【復習】授業の内容でわからなかった用語を調べる（60分）	ショートレポートの提出
14) 色彩の視知覚特性である誘目性について理解する。 誘目性について応用を学ぶ。（ ）【予習】誘目性の応用について調べる（60分） 【復習】授業の内容でわからなかった用語を調べる（60分）	ショートレポートの提出
15) 全体の総括 【復習】授業の内容でわからなかった用語を調べる（60分）	
授業外学習	
道路標識・信号機を実際場面において、色彩の色覚特性がそのように応用されているかを知る。	
テキスト、参考書、教材	関連する科目
その都度、プリントを配布する	知覚・認知心理学

課題に対するフィードバック

ショートレポートの内容（質問・意見）について、全体にフィードバックする。

備考

科目名	色彩心理学演習			
授業形態	履修形態	単位数	年次	開講期
演習	選択	1	3年	後期
担当者名	酒木 保	関連する資格	認定心理士	

授業概要

この講義では「色彩心理学」に引き続き、印象的なデザインやPR方法、プレゼンテーションの工夫について演習を通して、実践的に学ぶ。

到達目標

A3607b
色彩の3属性をきちんと理解し、それらを操作して色彩知覚にどのような影響が及ぶかを知る。

成績評価方法

色彩を用いて、具体的な作品を造成する。

評価項目	評価基準						
	知識理解	思考判断	関心意欲	技能表現	態度	その他	評価割合 (%)
定期試験(中間・期末)							
小テスト、授業内レポート							
宿題、授業外レポート							
授業態度・授業参加度							
プレゼンテーション							
グループワーク							
演習							50
実習							50

授業計画と概要、予習・復習内容（時間）	アクティブラーニング
1) 色彩に対する理解	その都度、ショートレポートの提出
2) 色彩の3属性について理解する 【復習】演習内容をレポートにまとめる（60分）	その都度、ショートレポートの提出
3) 交通事故防止のための色彩利用 【復習】演習内容をレポートにまとめる（60分）	その都度、ショートレポートの提出
4) 交通事故防止のための色彩利用 【復習】演習内容をレポートにまとめる（60分）	その都度、ショートレポートの提出
5) 交通事故防止のための色彩利用 【復習】演習内容をレポートにまとめる（60分）	その都度、ショートレポートの提出
6) ヒューマンエラーを避けるための工夫 【復習】演習内容をレポートにまとめる（60分）	その都度、ショートレポートの提出
7) ヒューマンエラーを避けるための工夫 【復習】演習内容をレポートにまとめる（60分）	その都度、ショートレポートの提出
8) ヒューマンエラーを避けるための工夫 【復習】演習内容をレポートにまとめる（60分）	その都度、ショートレポートの提出
9) 危機管理と色彩について 【復習】演習内容をレポートにまとめる（60分）	その都度、ショートレポートの提出
10) 危機管理と色彩について 【復習】演習内容をレポートにまとめる（60分）	その都度、ショートレポートの提出
11) 色彩と身体機能に関する関係についての理解 1．心拍変動 【復習】演習内容をレポートにまとめる（60分）	その都度、ショートレポートの提出
12) 色彩と身体機能に関する関係についての理解 2．自律神経 【復習】演習内容をレポートにまとめる（60分）	その都度、ショートレポートの提出
13) 色彩と身体機能に関する関係についての理解 3．脳波 【復習】演習内容をレポートにまとめる（60分）	その都度、ショートレポートの提出
14) 色彩と身体機能に関する関係についての理解と応用 【復習】演習内容をレポートにまとめる（60分）	その都度、ショートレポートの提出
15) 総括 【復習】演習内容をレポートにまとめる（60分）	ディンカッション
授業外学習	
身近に体験する、交通事故や作業時における事故について、その防止法について考える。	
テキスト、参考書、教材	関連する科目
その都度、資料を配布する	色彩心理学、知覚・認知心理学

課題に対するフィードバック

ショートレポートの内容（質問・意見）について、全体にフィードバックする。

備考

科目名	ストレス・マネジメント論			
授業形態	履修形態	単位数	年次	開講期
講義	選択	2	3年	後期
担当者名	大石 英史		関連する資格	

授業概要

本授業では、現代社会においてストレスの問題がどのように現れているのかについて考えるとともに、ストレス研究の成り立ち、ストレスがどのような過程を経て我々の心身に影響を及ぼすのか、認知的評価とストレスとの関係などについても理解を深める。また、フォーカシング、マインドフルネスなど自己理解のための演習や様々なストレス対処法についても体験的に学んでいく。実践的・体験的な理解を深めるために、適宜、ビデオやDVDなどの視聴覚教材を使用する。授業は3日間の集中講義の形で実施する。

到達目標

A3608

- ・ストレスとストレス反応、コーピングについて説明できること。
- ・自分自身のストレスに気づき、自分でできるストレスの予防法と対処法を発見し習得すること。
- ・他者のストレス対処法についても関心を持ち、対人援助のための基礎知識を習得すること。
- ・健康教育としてのストレスマネジメントについて説明できること。

成績評価方法

授業への3分の2以上の出席を前提としたうえで、定期試験50%、授業内ミニレポート30%、授業態度・課題への取り組み（授業中のグループ・ワークや質問など）20%で評価する。

評価項目	評価基準						
	知識理解	思考判断	関心意欲	技能表現	態度	その他	評価割合 (%)
定期試験(中間・期末)							20
小テスト、授業内レポート							20
宿題、授業外レポート							
授業態度・授業参加度							20
プレゼンテーション							
グループワーク							20
演習							20
実習							

授業計画と概要、予習・復習内容（時間）	アクティブラーニング
1) オリエンテーション、授業全体の説明 【予習】次回授業で扱う概念や専門用語、理論について調べておく（90分以上） 【復習】全体の授業計画を見直し何を学ぶかについての理解を深める（90分以上）	
2) ストレスマネジメントとは何か（1）セルフモニタリング 【予習】次回授業で扱う概念や専門用語、理論について調べておく（90分以上） 【復習】資料を再読することで知識の定着を図り新たな課題を発見する（90分以上）	演習
3) ストレスマネジメントとは何か（2）認知的再構成法 【予習】次回授業で扱う概念や専門用語、理論について調べておく（90分以上） 【復習】資料を再読することで知識の定着を図り新たな課題を発見する（90分以上）	グループワーク
4) ストレスと病気 タイプA、タイプB、タイプC 【予習】次回授業で扱う概念や専門用語、理論について調べておく（90分以上） 【復習】資料を再読することで知識の定着を図り新たな課題を発見する（90分以上）	演習
5) コーピングへの支援 ソーシャルサポート 【予習】次回授業で扱う概念や専門用語、理論について調べておく（90分以上） 【復習】資料を再読することで知識の定着を図り新たな課題を発見する（90分以上）	グループワーク
6) フォーカシングによるストレスへの気づきとセルフケア（1） 【予習】次回授業で扱う概念や専門用語、理論について調べておく（90分以上） 【復習】資料を再読することで知識の定着を図り新たな課題を発見する（90分以上）	グループワーク
7) フォーカシングによるストレスへの気づきとセルフケア（2） 【予習】次回授業で扱う概念や専門用語、理論について調べておく（90分以上） 【復習】資料を再読することで知識の定着を図り新たな課題を発見する（90分以上）	グループワーク
8) うつ病の認知療法 【予習】次回授業で扱う概念や専門用語、理論について調べておく（90分以上） 【復習】資料を再読することで知識の定着を図り新たな課題を発見する（90分以上）	グループワーク
9) 第三世代の認知行動療法（1）マインドフルネス 【予習】次回授業で扱う概念や専門用語、理論について調べておく（90分以上） 【復習】資料を再読することで知識の定着を図り新たな課題を発見する（90分以上）	グループワーク
10) 第三世代の認知行動療法（2）ACT 【予習】次回授業で扱う概念や専門用語、理論について調べておく（90分以上） 【復習】資料を再読することで知識の定着を図り新たな課題を発見する（90分以上）	グループワーク
11) ストレス耐性とレジリエンス PTSDからPTGへ 【予習】次回授業で扱う概念や専門用語、理論について調べておく（90分以上） 【復習】資料を再読することで知識の定着を図り新たな課題を発見する（90分以上）	演習
12) 人生の価値を展望する 【予習】次回授業で扱う概念や専門用語、理論について調べておく（90分以上） 【復習】資料を再読することで知識の定着を図り新たな課題を発見する（90分以上）	グループワーク
13) オリジナルのストレスマネジメント 【予習】次回授業で扱う概念や専門用語、理論について調べておく（90分以上） 【復習】資料を再読することで知識の定着を図り新たな課題を発見する（90分以上）	
14) 健康教育としてのストレスマネジメント 【予習】次回授業で扱う概念や専門用語、理論について調べておく（90分以上） 【復習】資料を再読することで知識の定着を図り新たな課題を発見する（90分以上）	
15) 全体の振り返りとまとめ 【予習】授業全体を通して学んだことを整理し、定期試験に備える（90分以上） 【復習】授業資料全体に目を通し、自分が何を学んだのかを振り返る（90分以上）	
授業外学習	
<p>毎回、授業終了時に次回の授業資料を提示しますので、よく読んで新しい用語や疑問点について予習をしておくこと。また、授業終了後は資料を読み直し、知識の定着を図ること。わからない箇所については質問するか、参考書と資料に掲載された文献などで調べること。</p>	
テキスト、参考書、教材	関連する科目
<p>テキストは使用しない。毎回資料を配布する。必要に応じて、授業内で参考文献を紹介する。</p>	<p>心理学的支援法、臨床心理学概論、コミュニティ心理学</p>

課題に対するフィードバック

授業内ミニレポートに書かれた質問については、次回の授業始めに口頭で解説する。

備考

科目名	ポジティブ心理学			
授業形態	履修形態	単位数	年次	開講期
講義	選択	2	3年	後期
担当者名	三島 瑞穂	関連する資格		

授業概要

ポジティブ心理学は、幸福や自己実現といった人間のポジティブな側面に注目した、心理学の新しい潮流である。本講義では、人のネガティブな側面を内包しつつポジティブな側面からのアプローチを実践することで、自己成長のプロセスへの理解を深め、自己成長の足掛かりとなることを目的とする。
本講義は対面授業を基本とする。

到達目標

(A3609)

1. ポジティブ心理学の始まりと、心理学における位置づけを説明できる。
2. 授業で取り上げた概念を列挙し、定義を述べることができる。
3. 授業で紹介した理論を説明できる。
4. ポジティブ感情とネガティブ感情の機能について説明できる。
5. 自己成長のプロセスに関する知識と知見を自分自身に役立てることができる。
6. 自分に合うポジティブ心理学を活用できる。

成績評価方法

授業ごとのレポート50%
期末レポート20%
授業への取り組み30%

評価項目	評価基準						評価割合 (%)
	知識理解	思考判断	関心意欲	技能表現	態度	その他	
定期試験(中間・期末)							
小テスト、授業内レポート	○	○	○	○	○		50
宿題、授業外レポート	○	○	○	○	○		20
授業態度・授業参加度	○	○	○	○	○		30
プレゼンテーション							
グループワーク							
演習							
実習							

授業計画と概要、予習・復習内容（時間）	アクティブラーニング
1) ポジティブ心理学とは 【予習】ポジティブ心理学の内容について調べておく（20分） 【復習】授業内の演習で理解を深めた内容を振り返る（20分）	様々な視点でポジティブ心理学を考え、議論する。
2) 感情の機能：ポジティブ・ネガティブ感情の機能，拡張-形成理論 【予習】授業で扱う概念や専門用語，理論について調べる（20分） 【復習】小課題で復習し理解を深め，概念の定義を暗記する（20分）	小課題
3) 幸せを科学する：幸せの理解の仕方・測り方 【予習】授業で扱う概念や専門用語，理論について調べる（90分以上） 【復習】小課題で復習し理解を深め，概念の定義を暗記する（90分以上）	小課題
4) 医学・生理学的な視点でポジティブ・ネガティブな心理状態を捉える 【予習】授業で扱う概念や専門用語，理論について調べる（90分以上） 【復習】小課題で復習し理解を深め，概念の定義を暗記する（90分以上）	小課題、ワーク
5) 社会システムから捉える幸福感 【予習】授業で扱う概念や専門用語，理論について調べる（90分以上） 【復習】小課題で復習し理解を深め，概念の定義を暗記する（90分以上）	小課題
6) 幸せの心理学：幸福度と幸福感，収入と幸福 【予習】授業で扱う概念や専門用語，理論について調べる（90分以上） 【復習】小課題で復習し理解を深め，概念の定義を暗記する（90分以上）	小課題
7) 幸せの心理学：文化と幸福，幸せへの動機づけ 【予習】授業で扱う概念や専門用語，理論について調べる（90分以上） 【復習】小課題で復習し理解を深め，概念の定義を暗記する（90分以上）	小課題
8) ポジティブな特性：ハーディネスの発達と向上 【予習】授業で扱う概念や専門用語，理論について調べる（90分以上） 【復習】小課題で復習し理解を深め，概念の定義を暗記する（90分以上）	小課題
9) ポジティブな特性：楽観主義と健康・適応，対処的（防衛的）悲観主義 【予習】授業で扱う概念や専門用語，理論について調べる（90分以上） 【復習】小課題で復習し理解を深め，概念の定義を暗記する（90分以上）	小課題
10) フロー経験：フロー経験が生じる条件，フロー経験の人間発達モデル 【予習】授業で扱う概念や専門用語，理論について調べる（90分以上） 【復習】小課題で復習し理解を深め，概念の定義を暗記する（90分以上）	小課題
11) 苦しみからの成長：心的外傷後成長（PTG），レジリエンスとPTG 【予習】授業で扱う概念や専門用語，理論について調べる（90分以上） 【復習】小課題で復習し理解を深め，概念の定義を暗記する（90分以上）	小課題
12) マインドフルネス：ストレスケアおよび心理療法としてのマインドフルネス 【予習】授業で扱う概念や専門用語，理論について調べる（90分以上） 【復習】小課題で復習し理解を深め，概念の定義を暗記する（90分以上）	小課題、ワーク
13) フォーカシング：ストレスケアおよび心理療法として 【予習】授業で扱う概念や専門用語，理論について調べる（90分以上） 【復習】小課題で復習し理解を深め，概念の定義を暗記する（90分以上）	小課題、ワーク
14) コラージュ療法：ストレスケアおよび心理療法として 【予習】授業で扱う概念や専門用語，理論について調べる（90分以上） 【復習】小課題で復習し理解を深め，概念の定義を暗記する（90分以上）	小課題、ワーク
15) 言葉がもたらす心理的影響 【予習】授業で扱う概念や専門用語，理論について調べる（90分以上） 【復習】小課題で復習し理解を深め，概念の定義を暗記する（90分以上）	小課題、ワーク
授業外学習	
自分にとって幸せな状態とは、どのような状態が検討する。 自分に合うワークを選び、生活の中に取り入れる。 自身の強みを元に自分でワークを考案する。	
テキスト、参考書、教材	関連する科目
テキストは使用しない。毎回プリントを配布する。参考文献は授業内で紹介する。	心理学概論、健康・医療心理学、臨床心理学概論、感情・人格心理学、ストレス・マネジメント論、心理学的支援法

課題に対するフィードバック

授業内で小課題やセラピー等に取り組む際に、その場でフィードバックを行う。

備考

科目名	コミュニティ心理学			
授業形態	履修形態	単位数	年次	開講期
講義	選択	2	3年	前期
担当者名	大石 英史	関連する資格		

授業概要

コミュニティ心理学のアプローチは、伝統的な個人心理臨床とは異なり、個人の心だけでなく個人を取り巻く環境（家族、学校、職場、地域社会など）へも働きかけ、治療よりも予防を重視する。本授業では、コミュニティ心理学の定義、理論的背景、基本的考え方、介入・援助の方法について概論的に解説すると共に、オープンダイアログやベテランの家の実践を参考にしながら、臨床心理地域援助（コミュニティ援助）の実践において何が重要かについて考えていく。実践的な理解を深めるために、適宜、ビデオやDVDなどの視聴覚教材を使用する。

到達目標

A3610

- ・コミュニティ心理学の基本概念について学び、コミュニティ心理学的発想を将来の社会生活に活用していけること。
- ・コミュニティ心理学のもつ視点と様々な介入方法に関して、個人心理臨床との違いを明確にしながら説明できること。
- ・現代社会の様々な心理的問題の理解と解決方法に対する視野が広がること
- ・地域実践の基盤となる対話的コミュニケーションの可能性を再認識すること

成績評価方法

授業への3分の2以上の出席を前提としたうえで、
 期末レポート50%、授業内レポート30%、授業態度・参加度10%、グループワーク10%を総合して評価する。

評価項目	評価基準						評価割合 (%)
	知識理解	思考判断	関心意欲	技能表現	態度	その他	
定期試験(中間・期末)							50
小テスト、授業内レポート							30
宿題、授業外レポート							
授業態度・授業参加度							10
プレゼンテーション							
グループワーク							10
演習							
実習							

授業計画と概要、予習・復習内容（時間）	アクティブラーニング
1) オリエンテーション 授業の進め方、評価の方法などの説明 【予習】次回授業で扱う概念や専門用語、理論について調べておく（90分以上） 【復習】全体の授業計画を見直し何を学ぶかについての方向性をつかむ(90分以上)	
2) コミュニティ心理学とは何か(1) 誕生の歴史的背景、定義、理念について 【予習】次回授業で扱う概念や専門用語、理論について調べておく（90分以上） 【復習】資料を再読することで知識の定着を図り新たな課題を発見する(90分以上)	
3) コミュニティ心理学とは何か(2) 人と環境の適合と社会構成主義－ 【予習】次回授業で扱う概念や専門用語、理論について調べておく（90分以上） 【復習】資料を再読することで知識の定着を図り新たな課題を発見する(90分以上)	
4) コミュニティ心理学における予防について 【予習】次回授業で扱う概念や専門用語、理論について調べておく（90分以上） 【復習】資料を再読することで知識の定着を図り新たな課題を発見する(90分以上)	
5) 個人心理臨床からコミュニティ臨床への架け橋 【予習】次回授業で扱う概念や専門用語、理論について調べておく（90分以上） 【復習】資料を再読することで知識の定着を図り新たな課題を発見する(90分以上)	
6) ソーシャルサポートとセルフケア 【予習】次回授業で扱う概念や専門用語、理論について調べておく（90分以上） 【復習】資料を再読することで知識の定着を図り新たな課題を発見する(90分以上)	
7) 危機介入アプローチとレジリエンス 【予習】次回授業で扱う概念や専門用語、理論について調べておく（90分以上） 【復習】資料を再読することで知識の定着を図り新たな課題を発見する(90分以上)	
8) エンパワメント 【予習】次回授業で扱う概念や専門用語、理論について調べておく（90分以上） 【復習】資料を再読することで知識の定着を図り新たな課題を発見する(90分以上)	
9) ネットワーキング(1) 田島の多面的体験支援アプローチ 【予習】次回授業で扱う概念や専門用語、理論について調べておく（90分以上） 【復習】資料を再読することで知識の定着を図り新たな課題を発見する(90分以上)	
10) ネットワーキング(2) 幸せな地域の条件とは－ 【予習】次回授業で扱う概念や専門用語、理論について調べておく（90分以上） 【復習】資料を再読することで知識の定着を図り新たな課題を発見する(90分以上)	
11) 当事者研究 べてるの家の地域実践（1） 【予習】次回授業で扱う概念や専門用語、理論について調べておく（90分以上） 【復習】資料を再読することで知識の定着を図り新たな課題を発見する(90分以上)	グループワーク
12) 当事者研究 べてるの家の地域実践（2） 【予習】次回授業で扱う概念や専門用語、理論について調べておく（90分以上） 【復習】資料を再読することで知識の定着を図り新たな課題を発見する(90分以上)	グループワーク
13) オープンダイアログによる危機介入（1） 7つの原則 【予習】次回授業で扱う概念や専門用語、理論について調べておく（90分以上） 【復習】資料を再読することで知識の定着を図り新たな課題を発見する(90分以上)	グループワーク
14) オープンダイアログによる危機介入（2） 日本での実践に向けて 【予習】次回授業で扱う概念や専門用語、理論について調べておく（90分以上） 【復習】資料を再読することで知識の定着を図り新たな課題を発見する(90分以上)	グループワーク
15) 全体の振り返りとまとめ 【予習】授業全体を通して学んだことを整理し、定期試験に備える（90分以上） 【復習】授業資料全体に目を通し、自分が何を学んだのかを振り返る(90分以上)	グループワーク
授業外学習	
<p>毎回、授業終了時に次回の授業資料を提示しますので、よく読んで新しい用語や疑問点について予習をしておくこと。また、授業終了後は資料を読み直し、知識の定着を図ること。わからない箇所や新たな疑問については質問するか、参考書と資料に掲載された文献などで調べること。</p>	
テキスト、参考書、教材	関連する科目
<p>参考書 下川昭夫編 「コミュニティ臨床への招待」 新曜社 植村勝彦編 「コミュニティ心理学入門」 ナカニシヤ出版 田島誠一著 「現実に介入しつつ心に関わる」 金剛出版 浦河べてるの家著 「べてるの家の『非』援助論」 医学書院 斎藤環著・訳 「オープンダイアログとは何か」 医学書院</p>	<p>臨床心理学概論、心理学的支援法、ストレス・マネジメント論</p>

課題に対するフィードバック

・授業内ミニレポートに書かれた質問については、次回の授業始めに口頭で解説する。

備考

科目名	マーケティング論			
授業形態	履修形態	単位数	年次	開講期
講義	選択	2	3年	前期
担当者名	渡邊 利文	関連する資格		

授業概要

私たちは毎日消費行動を行っている。それに対して、企業は、どのようなモノやサービスを消費者に提供すれば良いか研究し、戦略を立てている。

マーケティングとは、ものやサービスが「売れるしくみ」を構築することである。

消費者マインドがどのような法則に従って変動し、企業はそれをどう捉えようとしているのか、社会心理学や行動経済学等の視点を取り入れ解説する。講義では消費者行動の基礎的な知識と、国内外における企業のマーケティング戦略についても学ぶ。

到達目標

A3611

まず、(1)マーケティング理論の全体像をしっかりと理解するようにして下さい。そのうえで、(2)マーケティング練習問題の学習を通じて、重要な用語を理解して下さい。

そして、(3)自分の日常生活や消費行動と関連のあるテーマを一つ見つけて出して下さい。

成績評価方法

講義の最後に、小テストをして提出してもらいます。この小テストの成績と提出状況、そして、授業態度を加味して成績評価とします。定期試験は実施しません。

評価項目	評価基準						
	知識理解	思考判断	関心意欲	技能表現	態度	その他	評価割合 (%)
定期試験(中間・期末)							
小テスト、授業内レポート							50
宿題、授業外レポート							
授業態度・授業参加度							50
プレゼンテーション							
グループワーク							
演習							
実習							

授業計画と概要、予習・復習内容（時間）		アクティブラーニング
1)	1. 現代市場とマーケティング 1 - 1 . 現代市場の特徴 1 - 2 . マーケティングの概要 【予習】テキストを読んでおく(30分)【復習】講義内容を復習する(30分)	養成練習問題 小テスト
2)	2 . 市場調査の手順 2 - 1 . 市場調査の意味 2 - 2 . 市場調査 2 - 3 . 実態調査の方法 【予習】テキストを読んでおく(30分)【復習】講義内容を復習する(30分)	養成練習問題 小テスト
3)	3 . 消費者行動 3 - 1 . 消費者行動と購買 3 - 2 . 購買意思決定過程 3 - 3 . 製品のライフサイクルと普及 【予習】テキストを読んでおく(30分)【復習】講義内容を復習する(30分)	養成練習問題 小テスト
4)	4 . 販売計画 4 - 1 . 販売計画と販売予測 4 - 2 . 販売計画の立案・実施・統制 【予習】テキストを読んでおく(30分)【復習】講義内容を復習する(30分)	養成練習問題 小テスト
5)	5 . 製品計画 5 - 1 . 製品計画の概要 5 - 2 . 製品ミックスと製品政策 【予習】テキストを読んでおく(30分)【復習】講義内容を復習する(30分)	養成練習問題 小テスト
6)	6 . 仕入計画 6 - 1 . 仕入計画 6 - 2 . 商品管理 【予習】テキストを読んでおく(30分)【復習】講義内容を復習する(30分)	養成練習問題 小テスト
7)	7 . 販売価格 7 - 1 . 販売価格の決定 7 - 2 . 価格戦略 【予習】テキストを読んでおく(30分)【復習】講義内容を復習する(30分)	養成練習問題 小テスト
8)	8 . 販売経路 8 - 1 . 販売経路の設定 8 - 2 . 販売経路の強化 【予習】テキストを読んでおく(30分)【復習】講義内容を復習する(30分)	養成練習問題 小テスト
9)	9 . 販売促進政策 9 - 1 . 販売促進の重要性 9 - 2 . 広告 【予習】テキストを読んでおく(30分)【復習】講義内容を復習する(30分)	
10)	10 . 販売促進政策 10 - 1 . 販売員活動 10 - 2 . 信用販売 【予習】テキストを読んでおく(30分)【復習】講義内容を復習する(30分)	
11)	11 . 販売促進政策 11 - 1 . ブランド戦略 11 - 2 . サービス・マーケティング 【予習】テキストを読んでおく(30分)【復習】講義内容を復習する(30分)	養成練習問題 小テスト
12)	12 . 販売情報システム 12 - 1 . POSシステム 12 - 2 . その他の情報システム 【予習】テキストを読んでおく(30分)【復習】講義内容を復習する(30分)	
13)	13 . マーケティングと社会的責任 13 - 1 . 社会志向のマーケティング 13 - 2 . 非営利組織のマーケティング 【予習】テキストを読んでおく(30分)【復習】講義内容を復習する(30分)	
14)	14 . 戦略的マーケティング 14 - 1 . VRIN分析 14 - 2 . ファイブフォース分析 【予習】テキストを読んでおく(30分)【復習】講義内容を復習する(30分)	
15)	15 . リレーションシップ・マーケティング 15 - 1 . データベース・マーケティング 15 - 2 . 価値共創マーケティング 【予習】テキストを読んでおく(30分)【復習】講義内容を復習する(30分)	
授業外学習		
<p>テキストを中心とした予習と復習をして下さい。予習は、授業計画に沿って30分程度、次の授業に必要な担当箇所を読んで来て下さい。復習は、知識のアウトプットが重要ですので、養成練習問題や小テストを再度確認してください。これも30分程度あれば充分だと思います。</p>		
テキスト、参考書、教材		関連する科目
テキスト 『マーケティングの基礎』実教出版		「経営戦略論」 「経営組織論」

課題に対するフィードバック

「養成練習問題」と「小テスト」は返却します。小テストは期末テストの代わりですので、点数を付けて返しますが返却時に各問題についての解説もします。
インプットとアウトプットを繰り返して行えば、授業の理解度は高まるはずです。このサイクルを維持・継続して下さい。

備考

科目名	行動経済学			
授業形態	履修形態	単位数	年次	開講期
講義	選択	2	3年	後期
担当者名	城下 賢吾	関連する資格		

授業概要

行動経済学とは、人間がかならずしも合理的には行動しないことに着目し、伝統的な経済学ではうまく説明できなかった社会現象や経済行動を、人間行動を観察することで実証的にとらえようとする新たな経済学である。この講義ではゲーム理論も紹介しながら、人間の意思決定やその結果である社会現象について理解を深める。

到達目標

A3612

1. 行動経済学に関する基礎的知識の習得。
2. 実際の経済活動においてどのような場面で不合理的行動をする傾向にあるかを理解すること。
3. 行動経済学が様々な分野で応用されていることを理解すること。

成績評価方法

最終確認テスト（40点）、講義後の小テスト（60点）で評価。

評価項目	評価基準						評価割合 (%)
	知識理解	思考判断	関心意欲	技能表現	態度	その他	
定期試験(中間・期末)	20			20			40
小テスト、授業内レポート	25		5	30			60
宿題、授業外レポート							
授業態度・授業参加度							
プレゼンテーション							
グループワーク							
演習							
実習							

授業計画と概要、予習・復習内容（時間）	アクティブラーニング
1) 序章 行動経済学とはどんな学問か（予習）毎事前に参考図書を読んでおくこと（1時間）（復習）講義後、講義資料を読み返し、練習問題を復習すること（1時間30分）	小テスト
2) 第1章 人はどのように行動を決定し、改善するのか（予習）毎事前に参考図書を読んでおくこと（1時間）（復習）講義後、講義資料とを読み返し、練習問題を復習すること（1時間30分）	小テスト
3) 第2章 認知的節約による不合理行動（予習）毎事前に参考図書を読んでおくこと（1時間）（復習）講義後、講義資料を読み返し、練習問題を復習すること（1時間30分）	小テスト
4) 第3章 本能的な評価による不合理行動（予習）毎事前に参考図書を読んでおくこと（1時間）（復習）講義後、講義資料を読み返し、練習問題を復習すること（1時間30分）	小テスト
5) 第4章 近視眼的な本能による不合理行動（予習）毎事前に参考図書を読んでおくこと（1時間）（復習）講義後、講義資料を読み返し、練習問題を復習すること（1時間30分）	小テスト
6) 第5章 不確実性による不合理行動（予習）毎事前に参考図書を読んでおくこと（1時間）（復習）講義後、講義資料を読み返し、練習問題を復習すること（1時間30分）	小テスト
7) 第6章 理性の限界による不合理行動（予習）毎事前に参考図書を読んでおくこと（1時間）（復習）講義後、講義資料を読み返し、練習問題を復習すること（1時間30分）	小テスト
8) 第7章 見返りを求めない利他的行動・協力行動の謎（1）（予習）毎事前に参考図書を読んでおくこと（1時間）（復習）講義後、講義資料を読み返し、練習問題を復習すること（1時間30分）	小テスト
9) 第7章 見返りを求めない利他的行動・協力行動の謎（2）（予習）毎事前に参考図書を読んでおくこと（1時間）（復習）講義後、講義資料を読み返し、練習問題を復習すること（1時間30分）	小テスト
10) 復習（第1章～第7章）（予習）毎事前に参考図書を読んでおくこと（1時間）（復習）講義後、講義資料を読み返し、練習問題を復習すること（1時間30分）	小テスト
11) 第8章 「行動」を自然に引き出すアプローチ（予習）毎事前に参考図書を読んでおくこと（1時間）（復習）講義後、講義資料を読み返し、練習問題を復習すること（1時間30分）	小テスト
12) 第9章 ファイナンス分野の不合理行動（予習）毎事前に参考図書を読んでおくこと（1時間）（復習）講義後、講義資料を読み返し、練習問題を復習すること（1時間30分）	小テスト
13) 第10章 多様な分野に応用される行動経済学（予習）毎事前に参考図書を読んでおくこと（1時間）（復習）講義後、講義資料を読み返し、練習問題を復習すること（1時間30分）	小テスト
14) 復習（第1章～第6章）（予習）事前に講義資料を読んでおくこと（1時間）（復習）講義後、講義資料を読み返し、練習問題を復習すること（1時間30分）	小テスト
15) 復習（第7章～第10章）（予習）事前に講義資料を読んでおくこと（1時間）（復習）講義後、講義資料を読み返すこと（1時間30分）	
授業外学習	
講義で学習した行動経済学が日々の生活における意思決定にどのような影響を与えているか考えてみよう。	
テキスト、参考書、教材	関連する科目
(テキスト)なし(参考書)講義の中で紹介します。(教材)講義前あるいは講義中に配布	心理学に関する科目

課題に対するフィードバック

小テストについては次回の講義において解説する。それに基づいて再度復習を行うこと。

備考

科目名	マスメディア論			
授業形態	履修形態	単位数	年次	開講期
講義	選択	2	3年	後期
担当者名	児玉 満	関連する資格		

授業概要

メディア社会・心理学の分野には議題設定理論、革新・ニュース伝播理論、沈黙の螺旋理論、キャンペーン説得法、など多くの理論があり、それらを踏まえるとメディアは人々の心に影響を与えることがある。そのことを学ぶためにも、マスメディアとは何かについて広く学び、メディアが人々の心に持つイメージを形成するプロセスやその結果である社会現象について考えたい。また、現在の高度情報化社会においては情報やデータが溢れており、それらには誤ったものが含まれている。そのような誤った情報やデータから正しいものを選択するためにも批判的思考の影響を強く受けているメディアリテラシーについても学ぶ。

到達目標

A3613

1. マスメディアについての概要を学び、それについて説明できる。
2. マスメディアが社会や人に及ぼす影響について理解する。
3. 現代の情報社会を生き抜くための力を身につける。
4. Webメディアを用いる際に正しい情報を取捨選択できる。

成績評価方法

期末テスト、授業内レポート、授業態度・参加度を総合評価する。

評価項目	評価基準						評価割合 (%)
	知識理解	思考判断	関心意欲	技能表現	態度	その他	
定期試験(中間・期末)	○	○					50
小テスト、授業内レポート		○	○				15
宿題、授業外レポート			○	○			15
授業態度・授業参加度			○		○		20
プレゼンテーション							
グループワーク							
演習							
実習							

授業計画と概要、予習・復習内容（時間）	アクティブラーニング
1) ガイダンス：講義内容および講義の進め方の説明 【予習】マスメディアについて簡単に調査しておく(30分) 【復習】講義で提示した資料およびノートを整理する(60分)	授業内レポート
2) マスメディアとは 【予習】マスコミとマスメディアの違いについて調べておく(30分) 【復習】講義で提示した資料およびノートを整理する(60分)	授業内レポート
3) 四大媒体(1)：新聞 【予習】新聞の歴史について調べておく(30分) 【復習】講義で提示した資料およびノートを整理する(60分)	授業内レポート
4) 四大媒体(2)：雑誌 【予習】雑誌の歴史について調べておく(30分) 【復習】講義で提示した資料およびノートを整理する(60分)	授業内レポート
5) 四大媒体(3)：ラジオ 【予習】ラジオの歴史について調べておく(30分) 【復習】講義で提示した資料およびノートを整理する(60分)	授業内レポート
6) 四大媒体(4)：テレビ 【予習】テレビの歴史について調べておく(30分) 【復習】講義で提示した資料およびノートを整理する(60分)	授業内レポート
7) マスメディアの役割 【予習】マスメディアの役割について調べておく(30分) 【復習】講義で提示した資料およびノートを整理する(60分)	授業内レポート
8) マスメディアが与える影響 【予習】マスメディアの影響について調べておく(30分) 【復習】講義で提示した資料およびノートを整理する(60分)	授業内レポート
9) インターネットやSNSはマスメディアか？ 【予習】様々なSNSについて調べておく(30分) 【復習】講義で提示した資料およびノートを整理する(60分)	授業内レポート
10) スマートフォンを考える 【予習】モバイル端末について調べておく(30分) 【復習】講義で提示した資料およびノートを整理する(60分)	授業内レポート
11) メディアリテラシーとは 【予習】メディアリテラシーについて調べておく(30分) 【復習】講義で提示した資料およびノートを整理する(60分)	授業内レポート
12) ネット社会のメディア構造とその影響力 【予習】Society5.0について調べておく(30分) 【復習】講義で提示した資料およびノートを整理する(60分)	授業内レポート
13) メディアと大衆文化 【予習】大衆文化について調べておく(30分) 【復習】講義で提示した資料およびノートを整理する(60分)	授業内レポート
14) 双方向性コミュニケーションとしてのメディア情報 【予習】インタラクティブとはなにかについて調べておく(30分) 【復習】講義で提示した資料およびノートを整理する(60分)	授業内レポート
15) まとめ 【予習】これまでに学んだことを振り返っておく(30分) 【復習】講義で提示した資料およびノートを整理し、試験の準備を行う(60分)	授業内レポート
授業外学習	
シラバスに記載した各回の予習をやっておくこと。 復習については資料およびノートを整理し、興味・関心・疑問に思ったことについてまとめておき、必要な場合は質問をすること。	
テキスト、参考書、教材	関連する科目
テキスト:指定しない 参考書 ・稲増一憲『マスメディアとは何か - 「影響力」の正体』(中公新書, 2022) ・藤竹暁・竹下俊郎『図説 日本のメディア [新版]』(NHKブックス, 2018)	

課題に対するフィードバック

授業内レポートでは質問を随時受け付けるが、それに対する回答は次回授業内で行う。

備考

科目名	障害者・障害児心理学			
授業形態	履修形態	単位数	年次	開講期
講義	選択	2	3年	後期
担当者名	廿 麻乃、原田 雅史	関連する資格	公認心理師受験資格 認定心理士	

授業概要

障害のある人たちを取り巻く環境は、21世紀を迎えてから大きく変動してきている。そこで、本講義では身体障害、知的障害及び精神障害について概説する。また、最近では発達障害をはじめさまざまな障害のある児童生徒と関わる機会も多くなっているため、発達障害を取り巻く心理社会的課題及び必要な支援について触れる。

(廿 麻乃/8回)

障害の生物・心理・社会モデルについて概説する。さらに、障害受容過程及び精神障害の心理学的メカニズムの理論について解説する。

(原田 雅史/7回)

医療・教育・福祉分野における障害者・障害児の心理社会的課題及び必要な支援について解説する。

到達目標

A3701ab

身体障害、知的障害、発達障害及び精神障害の概要を理解する。
障害者・障害児の個別の特徴や特性に応じた心理社会的課題及び必要な支援について知る。

成績評価方法

レポート、授業内レポート、グループワークによる評価

評価項目	評価基準						評価割合 (%)
	知識理解	思考判断	関心意欲	技能表現	態度	その他	
定期試験(中間・期末)							
小テスト、授業内レポート							10
宿題、授業外レポート	○	○	○				70
授業態度・授業参加度							10
プレゼンテーション							
グループワーク							10
演習							
実習							

授業計画と概要、予習・復習内容（時間）	アクティブラーニング
1) 障害者・障害児心理学とは（廿） 【予習】障がいや発達についての授業を振り返っておく(60分) 【復習】授業プリント等をもとに授業内容を振り返り、まとめる(30分)	グループワーク
2) 身体障害・知的障害の概要（廿） 【予習】身体障害・知的障害について調べる(60分) 【復習】授業プリント等をもとに授業内容を振り返り、まとめる(30分)	グループワーク
3) 視覚障害・聴覚障害の概要（廿） 【予習】視覚障害・聴覚障害について調べる(60分) 【復習】授業プリント等をもとに授業内容を振り返り、まとめる(30分)	グループワーク
4) 精神障害の概要（原田） 【予習】精神障害について調べる(60分) 【復習】授業プリント等をもとに授業内容を振り返り、まとめる(30分)	グループワーク
5) 発達障害の概要（廿） 【予習】発達障害について調べる(60分) 【復習】授業プリント等をもとに授業内容を振り返り、まとめる(30分)	グループワーク
6) 肢体不自由及び病弱者の概要（廿） 【予習】肢体不自由及び病弱者について調べる(60分) 【復習】授業プリント等をもとに授業内容を振り返り、まとめる(30分)	グループワーク
7) 情緒障害児の理解と心理的援助（廿） 【予習】情緒障害児について調べる(60分) 【復習】授業プリント等をもとに授業内容を振り返り、まとめる(30分)	グループワーク
8) 身体障害者を取り巻く心理社会的課題（廿） 【予習】身体障害者を取り巻く課題について調べる(60分) 【復習】授業プリント等をもとに授業内容を振り返り、まとめる(30分)	グループワーク
9) 知的障害者を取り巻く心理社会的課題（原田） 【予習】知的障害者を取り巻く課題について調べる(60分) 【復習】授業プリント等をもとに授業内容を振り返り、まとめる(30分)	グループワーク
10) 精神障害者を取り巻く心理社会的課題（原田） 【予習】精神障害者を取り巻く課題について調べる(60分) 【復習】授業プリント等をもとに授業内容を振り返り、まとめる(30分)	グループワーク
11) 発達障害者を取り巻く心理社会的課題（廿） 【予習】発達障害者を取り巻く課題について調べる(60分) 【復習】授業プリント等をもとに授業内容を振り返り、まとめる(30分)	グループワーク
12) 身体障害者への必要な支援（原田） 【予習】身体障害者の必要としている支援について調べる(60分) 【復習】授業プリント等をもとに授業内容を振り返り、まとめる(30分)	グループワーク
13) 知的障害者への必要な支援（原田） 【予習】知的障害者の必要としている支援について調べる(60分) 【復習】授業プリント等をもとに授業内容を振り返り、まとめる(30分)	グループワーク
14) 精神障害者への必要な支援（原田） 【予習】精神障害者の必要としている支援について調べる(60分) 【復習】授業プリント等をもとに授業内容を振り返り、まとめる(30分)	グループワーク
15) 発達障害者への必要な支援（原田） 【予習】発達障害者の必要としている支援について調べる(60分) 【復習】授業プリント等をもとに授業内容を振り返り、まとめる(30分)	グループワーク
授業外学習	
メディアで取り上げられるニュースなど注意して見てみてください。また、障がいのある方々と触れ合う機会を作ってください。	
テキスト、参考書、教材	関連する科目
必要に応じてレジメを配布する。	他の心理学関連科目全般

課題に対するフィードバック

グループワークの際、適宜コメントを行う。

備考

【オフィスアワー】 甘： 掲示を確認のこと。 原田： 授業の前後に対応します。

科目名	心理的アセスメント			
授業形態	履修形態	単位数	年次	開講期
講義	選択	2	3年	前期
担当者名	梶本 俊哉	関連する資格	公認心理師受験資格 認定心理士	

授業概要

心理的アセスメントは心理学的支援活動である。臨床における心理的アセスメントは、単にアセスメントだけを目的とするものではなく、心理支援への動機づけ、支援課題の明確化、支援目標の設定、支援を進めていくうえで重要なラポール形成など、支援的な関わりの手段としても活用できる。

実際の心理的アセスメントにおいては、心理的アセスメントの目的および倫理、観点および展開について理解した上で、観察、面接および心理検査等の心理的アセスメントの方法を適切に組み合わせて実施し、この心理的アセスメントの結果について適切な記録と報告ができることが求められる。

そこでこの講義では、心理的アセスメントについて概説したのちに、代表的な心理検査について履修生が被験者となって体験し、これらの心理的アセスメントの結果について記録と報告を作成する。そして、この過程を通して履修生は心理的アセスメントにおけるクライアントへの配慮について体験的に理解を深める。

なお、この講義の担当者は公認心理師・臨床心理士であり、主として医療保健領域、教育領域および産業組織領域における実務経験を有している。この実務経験をもとに、臨床現場におけるアセスメントの実施とフィードバック、インフォームドコンセントなどの実際問題についても検討する。

到達目標

(A3702ab)

心理的アセスメントの目的及び倫理について理解できる。
 心理的アセスメントの観点及び展開について説明できる。
 心理アセスメントの方法（観察、面接および心理検査）について説明し、実践できる。
 適切な記録および報告を作成し、管理できる。

成績評価方法

主として定期テストおよび授業外レポートにより評価する。なお、規定回数以上欠席した場合には成績評価の対象とならないので注意すること。

評価項目	評価基準						
	知識理解	思考判断	関心意欲	技能表現	態度	その他	評価割合 (%)
定期試験(中間・期末)							50
小テスト、授業内レポート							
宿題、授業外レポート							30
授業態度・授業参加度							10
プレゼンテーション							
グループワーク							
演習							10
実習							

授業計画と概要、予習・復習内容（時間）	アクティブラーニング
1) 心理的アセスメントについて 目的・倫理・観点・展開および方法の概説 【予習】特に定めない(0分)【復習】講義内容の振り返り(90分)	
2) 心理検査(質問紙法)について 質問紙の作成方法・構成・妥当性と信頼性 【予習】心理学研究法の復習(30分)【復習】講義内容の振り返り(90分)	
3) 質問紙法 エゴグラム(T E G) 【予習】特に定めない(0分)【復習】心理検査結果の検討(90分)	演習
4) 質問紙法 Y G性格検査 【予習】特に定めない(0分)【復習】心理検査結果の検討(90分)	演習
5) 投影法 S C T 【予習】特に定めない(0分)【復習】心理検査結果の検討(90分)	演習
6) 投影法 P - Fスタディ 【予習】特に定めない(0分)【復習】心理検査結果の検討(90分)	演習
7) 投影法 ロールシャッハ・テスト 【予習】特に定めない(0分)【復習】心理検査結果の検討(90分)	演習
8) 描画法 バウムテスト・H T P・風景構成法 【予習】特に定めない(0分)【復習】心理検査結果の検討(90分)	演習
9) 発達検査法 D A M 【予習】特に定めない(0分)【復習】心理検査結果の検討(90分)	演習
10) 発達検査法 H D S - R 【予習】特に定めない(0分)【復習】心理検査結果の検討(90分)	演習
11) 作業検査法 内田クレペリン精神検査 【予習】特に定めない(0分)【復習】心理検査結果の検討(90分)	演習
12) 知能検査法 W I S C・W A I S 【予習】特に定めない(0分)【復習】心理検査結果の検討(90分)	演習
13) 質問紙法 P O M S 【予習】特に定めない(0分)【復習】心理検査結果の検討(90分)	演習
14) アセスメントと支援の実際 【予習】特に定めない(0分)【復習】講義内容の振り返り(90分)	グループワーク
15) アセスメントと支援の実際 【予習】特に定めない(0分)【復習】講義内容の振り返り(90分)	グループワーク
授業外学習	
授業内で履修生が自分自身を被験者として実施した各種心理検査について、レポート(心理検査結果の記録および報告)の提出を必須とする。	
テキスト、参考書、教材	関連する科目
【テキスト】 適宜資料を配布する。 【参考書】 ・上里一郎(監修, 2001)・心理アセスメントハンドブック第2版・西村書店	心理学研究法, 心理学統計法, 心理学実験 感情・人格心理学, 発達心理学, 心理演習 心理検査法演習

課題に対するフィードバック

レポートにはコメントを付けて返却する。

備考

- ・授業は心理検査の演習を含むため、遅刻および欠席がないように努めること。
- ・規定回数以上の出席がない場合、およびレポートの提出がない場合には単位認定されないので注意すること。

科目名	産業・組織心理学			
授業形態	履修形態	単位数	年次	開講期
講義	選択	2	4年	前期
担当者名	西村 秀明	関連する資格	公認心理師受験資格 認定心理士	

授業概要

産業・組織心理学は、事業所における組織経営や産業活動の効率化や、人々が快適で健康に働くためにはどうすればよいかについての心理学領域である。そこでこの授業では、組織における人の行動や職場における問題（キャリア形成に関することを含む）に対して必要な心理に関する支援について、これまでの心理学研究の成果をふまえて考え、卒業後の社会活動において活用できる「心理学リテラシー」の獲得を目標とする。

到達目標

A4701ab

- * 組織における人の行動について説明できる。
- * 職場における問題（キャリア形成に関することを含む）に対して必要な心理に関する支援について考えることができる。
- * 職場における問題（労働者の健康や安全安心など）に心理学の知見を活用することができる。

成績評価方法

定期試験50%、発表内容30%、受講態度・演習20%で評価する。ただし、欠席が所定回数を超えた場合、および発表をしていない場合には、評価の対象とはならない。

評価項目	評価基準						評価割合 (%)
	知識理解	思考判断	関心意欲	技能表現	態度	その他	
定期試験(中間・期末)							50
小テスト、授業内レポート							
宿題、授業外レポート							20
授業態度・授業参加度							10
プレゼンテーション							10
グループワーク							
演習							10
実習							

授業計画と概要、予習・復習内容（時間）	アクティブラーニング
1) 産業・組織心理学について 【予習】産業界他、どのような組織構造があり、そのメリット・デメリットについて調べておくこと（60分）【復習】様々な組織における現代の問題点を整理すること（30分）	
2) 組織の形態とコミュニケーションについて 【予習】組織の形態とコミュニケーションの相異について調べておくこと（45分）【復習】組織に留まらず、状況に合わせたコミュニケーションについて整理すること（30分）	
3) 組織におけるリーダーシップについて 【予習】リーダーシップ理論について従来の研究を調べておくこと（60分）【復習】リーダーシップにおけるPM理論に自分を当てはめて自己理解を進める（30分）	
4) 演習1 組織におけるトラブルと構成員の役割 【予習】うつ病について調べておくこと（30分）【復習】自分がリーダーであったとすると、どのような対応をとったか再度検討してみる（30分）	演習 グループワーク
5) 産業・組織分野における心理支援の実際（メンタルヘルス） 【予習】心身医学会が提示しているストレス疾患について周知しておくこと（60分）【復習】企業におけるストレスチェックの重要性について整理すること（60分）	
6) 従業員支援プログラム、及び復職支援・リワークプログラムにおける心理支援 【予習】復職支援の方法・在り方について調べておくこと（60分）【復習】復職支援について、支援を受ける者の心理過程について整理しておくこと（60分）	
7) 演習2 復職支援について～事例を通じた心理学的検証 【予習】再度、復職支援の方法・在り方について確認しておくこと（30分）【復習】再度、復職支援を受ける者の心理過程について整理すること（30分）	演習 グループワーク
8) 職場でのハラスメントとその対応について（ ） 【予習】ハラスメントの定義について周知しておくこと（30分）【復習】ハラスメントを侵す者、ハラスメントを受ける者、双方の心理状態について整理すること（45分）	
9) 演習3 ハラスメント委員会の対応の在り方（ ） 【予習】ハラスメント委員会の義務についての確認（30分）【復習】ハラスメント委員会が機能化するために必要な事項についての整理（30分）	演習 グループワーク
10) 職場でのハラスメントとその対応について（ ）～厚労省指針 【予習】ハラスメントにおける厚労省の指針について周知しておくこと（30分）【復習】ハラスメント当事者のプライバシー保護について整理すること（30分）	
11) 演習4 ハラスメント委員会の対応の在り方（ ） 【予習】ハラスメント委員会の構成について調べておくこと（30分）【復習】機能している委員会と機能不全を起している委員会との違いについて整理すること（45分）	演習 グループワーク
12) 演習5 「育児休業」取得後の行動心理とコンサルテーション 【予習】育児休業の本質的意味を確認しておくこと（60分） 【復習】育児休業取得者が育児を放棄しているケースに係るコンサルテーションの在り方を整理すること（60分）	演習 グループワーク
13) 一般の間で認識されているハラスメントの種類とその心理対応について 【予習】一般化しているハラスメントの種類について調べておくこと（45分） 【復習】ハラスメントと心理的ダメージ、及びサポートについて整理すること（45分）	
14) 演習6 過重労働のなかで起きた事故と組織としての在り方の心理学的検討 【予習】組織の在り方、構成員の役割・コミュニケーションなど講義内容を再検討しておくこと（60分）【復習】不全組織の改善策について整理すること（60分）	演習 グループワーク
15) 演習7 実際に起こったセクシュアルハラスメント事件の検証／総括 ハラスメントに対する心理学的視座・対応の確立 【予習】毅然としたハラスメント対応を整理（45分）【復習】被害者心理とフォローの確認（60分）	演習 グループワーク
授業外学習	
受講生は指定したテーマに沿って講義レジュメ・文献等をまとめ、発表することとする。発表は他の受講生に分かりやすくなるよう工夫すること。プレゼンテーションも評価の対象とする。	
テキスト、参考書、教材	関連する科目
【参考書】 適宜プリントを配付する。	社会・集団・家族心理学 感情・人格心理学 健康・医療心理学

課題に対するフィードバック

備考

科目名	精神疾患とその治療			
授業形態	履修形態	単位数	年次	開講期
講義	選択	2	3年	前期
担当者名	土屋 智、原田 雅史	関連する資格	公認心理師受験資格	

授業概要

日本における精神科医療の歴史を踏まえ、代表的な精神疾患とその治療及びリハビリテーションについて理解を深める。また、支援のあり方、連携について、各専門職の立場から事例などを通し、臨床的理解を進めるとともに各役割について理解する。

精神科医である教員と中学校のスクールカウンセラーや精神科病院の臨床心理士としての実務経験を持つ教員が、代表的な精神疾患及びその治療法について講義を行う。

到達目標

A3703a

- ・代表的な精神疾患について、成因、症状、診断法、治療法、経過、本人や家族への支援といった観点から理解する。
- ・精神科病院等における専門治療の内容及び特性について理解する。
- ・各専門職が、精神科チーム医療の一員として関わる際に担うべき役割について理解する。
- ・精神医療・福祉との連携の重要性と、各専門職がその際に担うべき役割について理解する。

成績評価方法

課題レポート、姿勢、小レポートなどで総合的に評価する。

評価項目	評価基準						評価割合 (%)
	知識理解	思考判断	関心意欲	技能表現	態度	その他	
定期試験(中間・期末)							
小テスト、授業内レポート	○	○	○				40
宿題、授業外レポート	○	○	○	○			50
授業態度・授業参加度			○		○		10
プレゼンテーション							
グループワーク							
演習							
実習							

授業計画と概要、予習・復習内容（時間）	アクティブラーニング
1) 精神医学の歴史的展望（土屋） 精神医学における診断・治療の歴史【予習】授業で扱う概念や専門用語，理論を調べる（60分）【復習】授業内容について復習する（60分）	
2) 精神疾患の診断と診断基準（原田） 【予習】授業で扱う概念や専門用語，理論を調べる（60分）【復習】授業内容について復習する（60分）	質疑応答
3) 代表的な精神疾患 統合失調症（原田） 【予習】授業で扱う概念や専門用語，理論を調べる（60分）【復習】授業内容について復習する（60分）	質疑応答
4) 代表的な精神疾患 気分障害（土屋） 【予習】授業で扱う概念や専門用語，理論を調べる（60分）【復習】授業内容について復習する（60分）	レポート
5) 代表的な精神疾患 不安障害（原田） 【予習】授業で扱う概念や専門用語，理論を調べる（60分）【復習】授業内容について復習する（60分）	質疑応答
6) 代表的な精神疾患 物質関連障害および嗜癖性障害（原田） 【予習】授業で扱う概念や専門用語，理論を調べる（60分）【復習】授業内容について復習する（60分）	質疑応答
7) 代表的な精神疾患 パーソナリティ障害（原田） 【予習】授業で扱う概念や専門用語，理論を調べる（60分）【復習】授業内容について復習する（60分）	質疑応答
8) 代表的な精神疾患 摂食障害（原田） 【予習】授業で扱う概念や専門用語，理論を調べる（60分）【復習】授業内容について復習する（60分）	質疑応答
9) 代表的な精神疾患 発達障害（原田） 【予習】授業で扱う概念や専門用語，理論を調べる（60分）【復習】授業内容について復習する（60分）	質疑応答
10) 代表的な精神疾患 認知症とその周辺（土屋） 【予習】授業で扱う概念や専門用語，理論を調べる（60分）【復習】授業内容について復習する（60分）	レポート
11) 精神疾患の治療 薬物療法（土屋） 【予習】授業で扱う概念や専門用語，理論を調べる（60分）【復習】授業内容について復習する（60分）	レポート
12) 精神疾患の治療 精神療法（土屋） 【予習】授業で扱う概念や専門用語，理論を調べる（60分）【復習】授業内容について復習する（60分）	レポート
13) 精神疾患の治療 精神科リハビリテーション（原田） 【予習】授業で扱う概念や専門用語，理論を調べる（60分）【復習】授業内容について復習する（60分）	質疑応答／レポート
14) 外来治療と入院治療（土屋） 【予習】授業で扱う概念や専門用語，理論を調べる（60分）【復習】授業内容について復習する（60分）	レポート
15) 多職種連携・リエゾン（土屋）【予習】授業で扱う概念や専門用語，理論を調べる（60分）【復習】授業内容について復習する（60分）	レポート
授業外学習	
予習では、教科書の該当部分を読んでおくこと。 復習では、毎回の授業内容を定着させるために、自分の言葉で説明できるようにすること。	
テキスト、参考書、教材	関連する科目
テキスト：加藤隆弘・神庭重信編（2020）公認心理師の基礎と実践？．精神疾患とその治療．遠見書房	人体の構造と機能及び疾病 脳科学 健康・医療心理学 神経・生理心理学 臨床心理学概論 障害者・障害児心理学 心理的アセスメント 心理学的支援法 発達障害児支援論 心理演習 ・ 心理実習 ・

課題に対するフィードバック

レポートについては、質問・意見に対して全体にフィードバックする。

備考

科目名	チーム医療論			
授業形態	履修形態	単位数	年次	開講期
講義	選択	2	4年	後期
担当者名	小山 典子、原田 雅史	関連する資格		

授業概要

チーム医療とは、一人の患者に複数のメディカルスタッフ（医療専門職）が連携して、治療やケアに当たることである。病院では、様々な職種のメディカルスタッフが働いており、こうした異なる職種のメディカルスタッフが連携・協働し、それぞれの専門スキルを発揮することで、入院中や外来通院中の患者の生活の質（QOL）の維持・向上、患者の人生観を尊重した療養の実現をサポートする。患者本人とご家族もチームのメンバーであるとされるチーム医療について理解を深める。

【実務経験】

担当教員は公認心理師、及び臨床心理士の資格を有し、病院臨床の経験をもつ。

到達目標

(A4702)

- 1) チーム医療とは何か説明できる。
- 2) 各メディカルスタッフの役割を説明できる。
- 3) 医療における連携・協働について、その効果と課題を説明できる。

成績評価方法

授業外レポート
授業参加度
ディスカッション/グループワーク

評価項目	評価基準						
	知識理解	思考判断	関心意欲	技能表現	態度	その他	評価割合 (%)
定期試験(中間・期末)							
小テスト、授業内レポート							
宿題、授業外レポート							60
授業態度・授業参加度							20
プレゼンテーション							
グループワーク							20
演習							
実習							

授業計画と概要、予習・復習内容（時間）	アクティブラーニング
1) 原田雅史（1～10回）チームのメディカルスタッフの役割と協働 医師・看護師・ソーシャルワーカー・作業療法士・心理士・薬剤師・他【予習】授業で扱う概念や専門用語，理論を調べる（60分）【復習】授業内容について復習する（60分）	
2) チーム医療の実際1 精神疾患 【予習】授業で扱う概念や専門用語，理論を調べる（60分）【復習】授業内容について復習する（60分）	ディスカッション
3) チーム医療の実際2 発達障害 【予習】授業で扱う概念や専門用語，理論を調べる（60分）【復習】授業内容について復習する（60分）	ディスカッション
4) チーム医療の実際3 児童・思春期 【予習】授業で扱う概念や専門用語，理論を調べる（60分）【復習】授業内容について復習する（60分）	ディスカッション
5) チーム医療の実際4 オープンダイアローグ 【予習】授業で扱う概念や専門用語，理論を調べる（60分）【復習】授業内容について復習する（60分）	ディスカッション
6) チーム医療の実際5 周産期医療 【予習】授業で扱う概念や専門用語，理論を調べる（60分）【復習】授業内容について復習する（60分）	ディスカッション
7) チーム医療の実際6 がん医療 【予習】授業で扱う概念や専門用語，理論を調べる（60分）【復習】授業内容について復習する（60分）	ディスカッション
8) チーム医療の実際7 緩和ケア 【予習】授業で扱う概念や専門用語，理論を調べる（60分）【復習】授業内容について復習する（60分）	ディスカッション
9) チーム医療の実際8 高齢者・認知症 【予習】授業で扱う概念や専門用語，理論を調べる（60分）【復習】授業内容について復習する（60分）	グループワーク
10) チーム医療の実際9 地域医療 / 在宅ケア / 災害支援 【予習】授業で扱う概念や専門用語，理論を調べる（60分）【復習】授業内容について復習する（60分）	ディスカッション 1～10についての授業外レポート
11) 小山典子（11～15回）チーム医療とは何か チーム医療の起源・医療従事者の捉えるチーム医療 【復習】授業内容について復習する（60分）	
12) チーム医療における患者医療者関係 チームの中での医療者・患者・家族の役割【予習】授業で扱う概念や専門用語，理論を調べる（60分）【復習】授業内容について復習する（60分）	ディスカッション
13) チーム医療の倫理 チームとインフォームドコンセント【予習】授業で扱う概念や専門用語，理論を調べる（60分）【復習】授業内容について復習する（60分）	ディスカッション
14) チーム医療におけるコミュニケーション【予習】授業で扱う概念や専門用語，理論を調べる（60分）【復習】授業内容について復習する（60分）	ディスカッション
15) チーム医療の教育と展望 【復習】授業内容について復習する（60分）	
授業外学習	
興味・関心を持ったこと疑問に思ったことについて，自主的に調べる。	
テキスト、参考書、教材	関連する科目
テキスト：必要に応じて資料を配布する。参考文献は授業内で紹介する。	人体の構造と機能及び疾病 脳科学 健康・医療心理学 神経・生理心理学 臨床心理学概論 障害者・障害児心理学 心理的アセスメント 心理学的支援法 発達障害児支援論 心理演習 ・ 心理実習 ・

課題に対するフィードバック

ディスカッションやグループワークの際、適宜フィードバックを行う。

備考

科目名	発達障害児支援論			
授業形態	履修形態	単位数	年次	開講期
講義	選択	2	3年	後期
担当者名	松田 敦子	関連する資格		

授業概要

本授業は対面で実施する。
 発達障害を抱える子どもについて支援の方法を理解する。
 本人及びその家族が置かれている状況について理解し、その支援方法について考える。
 心理検査によるアセスメントの方法や支援へとつなげる手続きについて、基礎的な事柄を解説する。
 公認心理師・臨床心理士の資格を有し、小児科や発達障害の相談機関で発達相談・心理検査・心理支援の経験のある教員が、その実務経験に基づき、発達障害児やその家族への具体的な支援の方法について講義する。

到達目標

- A3704
- ・発達障害に対する正しい理解と支援方法を習得する
 - ・園や学校現場における発達障害を抱える子どもへの支援方法を理解する
 - ・発達障害を抱えた保護者の心理と支援方法を理解する

成績評価方法

- 期末試験（筆記） 50%
 授業内でのレポート・課題・演習等 30%
 出席状況 授業態度 20%

評価項目	評価基準						評価割合 (%)
	知識理解	思考判断	関心意欲	技能表現	態度	その他	
定期試験(中間・期末)	○	○		○			50
小テスト、授業内レポート	○	○	○				20
宿題、授業外レポート							
授業態度・授業参加度			○		○		20
プレゼンテーション							
グループワーク							
演習			○	○	○		10
実習							

授業計画と概要、予習・復習内容（時間）	アクティブラーニング
1) オリエンテーション	小レポート
2) 発達障害児支援概論 「発達障害の理解」 【予習】発達障害について調べる(予習30分) 【復習】講義の振り返り(復習60分)	小レポート
3) 発達障害児支援概論 「学校・園における支援体制」 【予習】発達障害児への学校における支援について調べる(予習30分) 【復習】講義の振り返り(復習60分)	小レポート
4) 発達障害と医療 【予習】医療における発達障害について調べる(予習30分) 【復習】講義の振り返り(復習60分)	小レポート
5) 発達障害児のアセスメント 「総論・心理検査」 【予習】アセスメントの基本事項を調べる(予習30分) 【復習】講義の振り返り(復習60分)	小レポート
6) 発達障がい児のアセスメント 「学力のアセスメント・総合的解釈」 【予習】アセスメントの基本事項を調べる(予習30分) 【復習】講義の振り返り(復習60分)	小レポート
7) LD・ADHD 等の心理的疑似体験プログラム 【予習】発達障害児の学習上の困難について調べる(予習30分) 【復習】講義の振り返り(復習60分)	演習
8) 発達障害児への支援方法 「総論・個に応じた支援」 【予習】発達障害児への支援法について調べる(予習30分) 【復習】講義の振り返り(復習60分)	小レポート
9) 発達障害児への支援方法 「ソーシャルスキル・行動・感覚と運動」 【予習】発達障害児への支援法について調べる(予習30分) 【復習】講義の振り返り(復習60分)	小レポート
10) 発達障害児への支援方法 「個別的教育支援計画の作成と活用」 【予習】発達障害児への支援法について調べる(予習30分) 【復習】講義の振り返り(復習60分)	小レポート
11) 発達障害児の保護者の心理 【予習】発達障害児の保護者の心理について調べる(予習30分) 【復習】講義の振り返り(復習60分)	小レポート
12) 発達障害児の保護者の心理 【予習】発達障害児の保護者の心理について調べる(予習30分) 【復習】講義の振り返り(復習60分)	小レポート
13) 発達障害児の保護者への支援 「ペアレントトレーニング」 【予習】ペアレントトレーニングについて調べる(予習30分) 【復習】講義の振り返り(復習60分)	演習
14) 発達障害児の保護者への支援 「ペアレントトレーニング」 【予習】ペアレントトレーニングについて調べる(予習30分) 【復習】講義の振り返り(復習60分)	演習
15) 支援者にできること 【予習】支援者にできることは何かを考える(予習30分) 【復習】講義の振り返り(復習60分)	小レポート
授業外学習	
発達障害への理解に向けて、テレビ番組の視聴や書籍を読むことで知識を深める。	
テキスト、参考書、教材	関連する科目
特別支援教育の理論と実践 ・ （レジュメを使用するので購入は不要）	生涯発達心理学、生涯発達心理学、生涯発達心理学、教育・学校心理学、健康・医療心理学、障害者・障害児心理学、福祉心理学

課題に対するフィードバック

必要に応じてフィードバックを行うが、講義前後で質疑応答を行う。

備考

科目名	心理検査法演習			
授業形態	履修形態	単位数	年次	開講期
演習	選択	1	3年	後期
担当者名	梶本 俊哉	関連する資格	認定心理士	

授業概要

心理的アセスメントは心理学的支援活動である。臨床の場における心理的アセスメントは、単にアセスメントだけを目的とするものではなく、心理支援への動機づけ、支援課題の明確化、支援目標の設定、支援を進めていくうえで重要なラポール形成など、支援的な関わりの手段としても活用できる。

この授業では「心理的アセスメント」に引き続き、代表的な心理的アセスメントを実施し、結果について記録と報告を作成する演習を行う。履修生はお互いに心理検査の実施者役およびクライアント役となってロールプレイをし、心理検査の実施や心理検査所見の作成とフィードバックにおけるクライアントへの配慮、守秘義務および個人情報の保護について体験的に学ぶ。

なお、この実習の担当者は公認心理師・臨床心理士であり、主として医療保健領域、教育領域、福祉領域および産業組織領域における実務経験を有している。この実務経験をふまえ、臨床現場におけるアセスメントとフィードバック、インフォームドコンセントなどの実際問題についても検討する。

到達目標

(A3705b)

心理検査実施上のクライアントへの配慮について理解できる。

心理検査所見の作成とフィードバックにおけるクライアントへの配慮について理解できる。

守秘義務について理解し、クライアントの個人情報の保護に配慮できる。

成績評価方法

この授業は演習であるため定期テストは実施せず、主として授業内で実施した心理検査についてのレポート（心理検査所見）により評価する。なお、規定回数以上欠席した場合、レポートの提出がない場合には成績評価の対象とならないので注意すること。

評価項目	評価基準						
	知識理解	思考判断	関心意欲	技能表現	態度	その他	評価割合 (%)
定期試験(中間・期末)							
小テスト、授業内レポート							
宿題、授業外レポート							70
授業態度・授業参加度							10
プレゼンテーション							
グループワーク							10
演習							10
実習							

授業計画と概要、予習・復習内容（時間）	アクティブラーニング
1) はじめに 心理検査の実施および心理検査所見作成上の諸注意 【予習】特に定めない（0分）【復習】講義内容の振り返り（90分）	
2) 知能検査 WISC/WAIS 検査の実施上の諸注意とクライアントへの配慮について 【予習】心理検査の復習（30分）【復習】講義内容の振り返り（90分）	
3) 知能検査 WISC/WAIS 検査の実施 【予習】心理検査の復習（30分）【復習】心理検査の演習（90分）	演習
4) 知能検査 WISC/WAIS 心理検査所見の作成 【予習】心理検査の復習（30分）【復習】レポートの検討（90分）	演習
5) 知能検査 WISC/WAIS 心理検査所見レポートの指導 【予習】心理検査の復習（30分）【復習】レポートの検討（90分）	演習
6) 知能検査 WISC/WAIS フィードバックの実施 【予習】心理検査の復習（30分）【復習】レポートの検討（90分）	演習
7) 投影法 SCT 検査の実施上の諸注意とクライアントへの配慮について 【予習】心理検査の復習（30分）【復習】講義内容の振り返り（90分）	
8) 投影法 SCT 検査の実施と心理検査所見の作成 【予習】心理検査の復習（30分）【復習】心理検査の演習（90分）	演習
9) 投影法 SCT 心理検査所見レポートの指導とフィードバックの実施 【予習】心理検査の復習（30分）【復習】レポートの検討（90分）	演習
10) 投影法 ロールシャッハ・テスト 検査の実施上の諸注意とクライアントへの配慮について 【予習】心理検査の復習（30分）【復習】講義内容の振り返り（90分）	
11) 投影法 ロールシャッハ・テスト 検査の実施 心理検査の実施と記録 【予習】心理検査の復習（30分）【復習】心理検査の演習（90分）	演習
12) 投影法 ロールシャッハ・テスト 検査の実施 心理検査時のクライアントとのコミュニケーション 【予習】心理検査の復習（30分）【復習】心理検査の演習（90分）	演習
13) 投影法 ロールシャッハ・テスト 心理検査所見の作成 【予習】心理検査の復習（30分）【復習】レポートの検討（90分）	演習
14) 投影法 ロールシャッハ・テスト 心理検査所見レポートの指導 【予習】心理検査の復習（30分）【復習】レポートの検討（90分）	演習
15) 投影法 ロールシャッハ・テスト フィードバックの実施 【予習】心理検査の復習（30分）【復習】レポートの検討（90分）	演習
授業外学習	
授業内でクライアント役の履修生に対して実施した各種心理検査について、レポート（心理検査所見）の提出を必須とする。	
テキスト、参考書、教材	関連する科目
<p>【テキスト】 適宜資料を配布する。</p> <p>【参考書】 ・上里一郎（監修，2001）．心理アセスメントハンドブック第2版．西村書店</p>	心理的アセスメント

課題に対するフィードバック

レポートにはコメントを付けて返却する。

備考

- 【履修上の注意事項】*以下の条件を満たす学生にのみ、本講義の履修を認めます。
- ・原則として「心理的アセスメント」を履修済みであること。
 - ・履修生がお互いにクライアント役を体験し、心理検査所見を作成することについて了解・同意していること。
 - ・心理検査の実施および作成された所見についての守秘義務を遵守し、検査結果を適切に管理できること。
 - ・公認心理師または臨床心理士の資格取得をめざす意欲が高いこと。

科目名	心理演習			
授業形態	履修形態	単位数	年次	開講期
演習	選択	1	3年	前期
担当者名	梶本 俊哉、小山 典子、木元 卓也	関連する資格	公認心理師受験資格 認定心理士	

授業概要

多領域に渡る公認心理師の業務に必要な心理アセスメントについて、グループでのディスカッションを通して、多様な考えに触れながら体験的に学習し、同時に自己理解・他者理解を向上する。また、実際の生活場面で生じる怒りをテーマにしたトラブルを中心に、その認知の問題、解決方法の問題等、セルフマネジメント・コーピングの理解も深めていく。表現療法として、箱庭療法も紹介する。

また、心理に関する支援を要する者の現実生活を視野に入れたチームアプローチや多職種連携及び地域連携について学ぶ。これらの体験を通して心理的支援について理解を深めていく。

実務経験

全員が公認心理師、及び臨床心理士の資格を有しており、大学院附属臨床心理相談センターでの心理支援活動をはじめ、スクールカウンセラーや産業カウンセラーなどさまざまな臨床現場で心理臨床に携わっており、その活動をもとに実践的で臨場感のある授業を行っている。

到達目標

(A3706ab)

- 1) 自己の認知の傾向を理解する。
- 2) 自己の問題対処方略について理解する。
- 3) 他者の自己理解を支援する。
- 4) 心理に関する支援を要する者等に関する以下の知識及び技能の修得
コミュニケーション 心理検査 心理面接 地域支援
- 5) 心理に関する支援を要する者等の理解とニーズの把握及び支援計画の作成
- 6) 心理に関する支援を要する者の現実生活を視野に入れたチームアプローチを理解し説明できる。
- 7) 多職種連携及び地域連携について、理解し説明できる

成績評価方法

授業態度

毎回の授業内レポート

全授業終了後提示するテーマへのレポート

評価項目	評価基準						
	知識理解	思考判断	関心意欲	技能表現	態度	その他	評価割合 (%)
定期試験(中間・期末)							
小テスト、授業内レポート							20
宿題、授業外レポート							30
授業態度・授業参加度							20
プレゼンテーション							10
グループワーク							10
演習							10
実習							

授業計画と概要、予習・復習内容（時間）	アクティブラーニング
1) オリエンテーション（榎本）/ インテーク面接について（小山） 【予習】 インテーク面接について復習しておく（60分） 【復習】 インテーク・予診の重要性、人間理解について確認すること（60分）	
2) インテーク面接の実際（小山） 【予習】 臨床心理面接について学習しておくこと（60分）【復習】 インテーク・予診を体験しての振り返り・気づきについて確認すること（60分）	演習 グループワーク
3) 事例から学ぶ心理アセスメント（小山） 【予習】 心理検査の種類について調べる（60分） 【復習】 心理検査の種類と特徴及び限界について復習する（60分）	演習 グループワーク
4) 事例から学ぶ心理アセスメント（小山） 【予習】 心理アセスメントの理論と方法について調べる（60分） 【復習】 心理アセスメントに必要な情報について考える（60分）	演習
5) 事例から学ぶ心理アセスメント（小山） 【予習】 心理アセスメントの倫理的配慮について調べる（60分） 【復習】 心理アセスメントとは何か答えられるようにまとめておく（60分）	演習 グループワーク
6) 心理アセスメント結果報告書作成（小山） 【予習】 心理アセスメント結果フィードバックについて調べる 【復習】 心理アセスメント結果より要支援者を総合的に理解する（60分）	演習 グループワーク
7) 心理アセスメント結果報告書作成（小山） 【予習】 心理アセスメント結果報告書に必要な文章表現について調べる（60分） 【復習】 心理アセスメント結果フィードバック体験を振り返る（60分）	演習
8) 怒りの対処法1（小山）【予習】 「喜怒哀楽」が人間関係に及ぼす影響について考えてくること（90分）【復習】 人間関係における「怒り」が自分のどこから生じるのか洞察すること（90分）	演習
9) 怒りの対処法2（小山） 【予習】 「怒り」の多様性について学習しておくこと（90分） 【復習】 「怒り」の効用について理解を深めレポートすること（90分）	演習
10) 箱庭療法（小山） 【予習】 箱庭療法の概要について学習しておく（90分）【復習】 授業中に理解が不十分であった専門語彙を調べ直し正しく理解しておく（90分）	演習
11) チームアプローチ 多職種連携とは（木元） 【予習】 心理支援に関わり多職種について職種と役割について学習しておく（90分） 【復習】 チームアプローチの意義についてレポートする（120分）	演習
12) チームアプローチ スクールカウンセリングにおける支援（木元）【予習】 配布資料を熟読し分からない専門語彙を調べる。出された課題を行う（90分）【復習】 授業中に理解が不十分であった専門語彙を調べ直し正しく理解しておく（90分）	演習
13) チームアプローチ 児童虐待における支援（木元）【予習】 配布資料を熟読し分からない専門語彙を調べる。出された課題を行う（90分）【復習】 授業中に理解が不十分であった専門語彙を調べ直し正しく理解しておく（90分）	体験
14) チームアプローチ 発達障がい児への支援（木元）【予習】 配布資料を熟読し分からない専門語彙を調べる。出された課題を行う。（90分）【復習】 授業中に理解が不十分であった専門語彙を調べ直し正しく理解しておく（90分）	体験
15) チームアプローチ DVにおける支援（小山）【予習】 配布資料を熟読し分からない専門語彙を調べる。出された課題を行う（90分）【復習】 授業中に理解が不十分であった専門語彙を調べ直し正しく理解しておく（90分）	
授業外学習	
疑問に思ったことや興味・関心を惹かれたことについて、心理学事典や参考書、インターネット等を用いて調べる。	
テキスト、参考書、教材	関連する科目
その都度、資料を配付する。	心理学関連科目全て 心理演習 心理実習

課題に対するフィードバック

レポートに関しては適宜コメントを加えて返す。

備考

科目名	心理実習			
授業形態	履修形態	単位数	年次	開講期
実習	選択	2	3年	後期
担当者名	榎本 俊哉、小山 典子、木元 卓也	関連する資格	公認心理師受験資格	

授業概要

本実習は、公認心理師として従事するために不可欠な、臨床心理に関する実践的な内容を学んでいく。特に心理臨床の主要領域である、医療・福祉・教育・司法/矯正領域の現場で実習を行い、心の専門的支援の実践に触れる。実習の実施前に各領域および各施設の現状について事前調査、学習を行い実習に臨む。実習後は、学びのまとめとしてレポートの提出を求める。なお、この実習は、公認心理師コースの学生の必修科目であるが、ビジネス心理コースの学生は履修できないこととする。

実務経験

全員が公認心理師、または臨床心理士の資格を有しており、大学院附属臨床心理相談センターでの心理支援活動をはじめ、スクールカウンセラーや産業カウンセラーなどさまざまな臨床現場で心理臨床に携わっており、その活動をもとに実践的で臨場感のある授業を行っている。

到達目標

(A3707a)
公認心理師法により定められている、次の3項目を中心に修得する。
1) 心理に関する支援を要する者へのチームアプローチについて。
2) 多職種連携及び地域連携について。
3) 公認心理師としての職業倫理及び法的義務への理解について。
また、各自個別的な実習課題を設定し、心理臨床における機能や役割についてより深く学修する。

成績評価方法

実習指導者の実習評価票および担当教員による評価の総合で行う。

評価項目	評価基準						
	知識理解	思考判断	関心意欲	技能表現	態度	その他	評価割合 (%)
定期試験(中間・期末)							
小テスト、授業内レポート							
宿題、授業外レポート	○	○	○	○	○		30
授業態度・授業参加度							
プレゼンテーション	○	○	○	○	○		10
グループワーク							
演習							
実習	○	○	○	○	○		60

授業計画と概要、予習・復習内容（時間）（実習）	アクティブラーニング
<p> 本学と実習契約をしている各実習機関（施設）への配属実習により、心理業務の実際について学修する。 実習は3領域以上の機関で実施する。 全実習期間及び時間は、10日間、80時間とする。なお、実習機関の各領域は以下のとおり。 医療保健分野 4日間（32時間） 福祉分野 4日間（32時間） 教育分野 2日間（16時間） 司法・犯罪分野 2日間（16時間）の見学実習とする。 の医療保健分野、及び の福祉分野の実習は必修とし、 の教育分野、及び の司法・犯罪分野における実習はいずれかを選択するものとする。 「心理実習」においては、実習に入る前に各実習機関（施設）の現状について事前調査による学習を行ったうえで実習に望む姿勢を培うとともに、医療機関における学外実習を実施する。 </p> <p> 1. 公認心理師法により定められている、実習において学修すべき次の3項目について講義する。 1) 心理に関する支援を要する者へのチームアプローチについて。 2) 多職種連携及び地域連携について。 3) 公認心理師としての職業倫理及び法的義務への理解について。 2. 各自個別的な実習課題を設定し、実習機関（施設）においてどのようなことを目的に実習に臨むか、自己課題についてレポートする。 3. 次に、本学と実習契約をしている各実習機関（施設）への配属実習により、心理業務の実際について学修する。配属先は、実習担当教員と協議したうえでそれぞれの領域の中で適切な機関（施設）を選定する。実習は3領域以上の機関（施設）で実施する。 4. 実習中は、毎日「実習記録」を記載する。また、「実習記録」に基づいて実習指導者よりスーパーヴァイズを受ける。 5. また、実習中は週1回以上、実習担当教員が各実習機関（施設）を訪問し、実習指導職員とともにスーパーヴィジョンを実施する。 6. 実習終了後は、実習における実践記録をケースレポート、あるいは研究レポートとしてまとめて提出する。ケースレポート、研究レポート等により実習担当教員による個別指導を実施する。その後、提出されたケースレポート、あるいは研究レポートは「実習・研究報告会」においてさらに検討を加えるものとし、実習の反省と総括を行う。 </p> <p> 【予習】 医療機関、福祉施設等、実習先の治療、援助支援等、各機能について充分学習しておくこと。（90分以上） 【復習】 実習を振り返り自己吟味を深めるとともに、得た指導から心理臨床の実践における対応技能について理解の幅を広げること。（90分以上） </p>	<p>実習</p>
授業外学習	
<p>実習先の情報をインターネット等から収集し、学びたい内容および各自の課題をレポートする。</p>	
テキスト、参考書、教材	関連する科目
<p> テキスト 適宜プリントを配布する。また、実習記録票、実習への心構え・要領などを配布する。 参考書 ・河合隼雄（2003）．臨床心理学ノート 金剛出版 ・馬場禮子 編（2003）．臨床心理学概説 放送大学教育振興会 </p>	<p> 心理実習 心理演習 ・ </p>

課題に対するフィードバック

面談・個別においてフィードバックする。

備考

科目名	心理実習			
授業形態	履修形態	単位数	年次	開講期
実習	選択	2	4年	前期
担当者名	榎本 俊哉、小山 典子、木元 卓也	関連する資格	公認心理師受験資格	

授業概要

心理実習 に引き続き、本実習は、公認心理師として従事するために不可欠な、臨床心理に関する実践的な内容を学んでいく。特に心理臨床の主要領域である、医療・福祉・教育・司法 / 矯正領域の複数の現場で実習を行うことで、それぞれの領域における心理職の実際や連携についての理解を深め、自己の適性についても理解を深めることを目的とする。なお、この実習は公認心理師コースの学生の必修科目であるが、ビジネス心理コースの学生は履修できないこととする。

実務経験

全員が公認心理師、及び臨床心理士の資格を有しており、大学院附属臨床心理相談センターでの心理支援活動をはじめ、スクールカウンセラーや産業カウンセラーなどさまざまな臨床現場で心理臨床に携わっており、その活動をもとに実践的で臨場感のある授業を行っている。

到達目標

(A4703a)
公認心理師法により定められている、次の3項目を中心に修得する。
1) 心理に関する支援を要する者へのチームアプローチについて。
2) 多職種連携及び地域連携について。
3) 公認心理師としての職業倫理及び法的義務への理解について。
また、各自個別的な実習課題を設定し、心理臨床における機能や役割についてより深く学修する。

成績評価方法

実習指導者の実習評価票および担当教員による評価の総合で行う。

評価項目	評価基準						
	知識理解	思考判断	関心意欲	技能表現	態度	その他	評価割合 (%)
定期試験(中間・期末)							
小テスト、授業内レポート							
宿題、授業外レポート	○	○	○	○	○		30
授業態度・授業参加度							
プレゼンテーション	○	○	○	○	○		10
グループワーク							
演習							
実習	○	○	○	○	○		60

授業計画と概要、予習・復習内容（時間）（実習）	アクティブラーニング
<p> 本学と実習契約をしている各実習機関（施設）への配属実習により、心理業務の実際について学修する。 実習は3領域以上の機関で実施する。 全実習期間及び時間は、10日間、80時間とする。なお、実習機関の各領域は以下のとおり。 医療保健分野 4日間（32時間） 福祉分野 4日間（32時間） 教育分野 2日間（16時間） 司法・犯罪分野 2日間（16時間）見学実習とする。 の医療保健分野、及び の福祉分野の実習は必修とし、 の教育分野、及び の司法・犯罪分野における実習はいずれかを選択するものとする。 「心理実習」においては、実習に入る前に各実習機関（施設）の現状について事前調査による学習を行ったうえで実習に望む姿勢を培うとともに、医療機関における学外実習を実施する。 </p> <p> 1. 公認心理師法により定められている、実習において学修すべき次の3項目について講義する。 1) 心理に関する支援を要する者へのチームアプローチについて。 2) 多職種連携及び地域連携について。 3) 公認心理師としての職業倫理及び法的義務への理解について。 2. 各自個別的な実習課題を設定し、実習機関（施設）においてどのようなことを目的に実習に臨むか、自己課題についてレポートする。 3. 次に、本学と実習契約をしている各実習機関（施設）への配属実習により、心理業務の実際について学修する。配属先は、実習担当教員と協議したうえでそれぞれの領域の内で適切な機関（施設）を選定する。実習は3領域以上の機関（施設）で実施する。 4. 実習中は、毎日「実習記録」を記載する。また、「実習記録」に基づいて実習指導者よりスーパーヴァイズを受ける。 5. また、実習中は週1回以上、実習担当教員が各実習機関（施設）を訪問し、実習指導職員とともにスーパーヴィジョンを実施する。 6. 実習終了後は、実習における実践記録をケースレポート、あるいは研究レポートとしてまとめて提出する。ケースレポート、研究レポート等により実習担当教員による個別指導を実施する。その後、提出されたケースレポート、あるいは研究レポートは「実習・研究報告会」においてさらに検討を加えるものとし、実習の反省と総括を行う。 </p> <p> 【予習】 医療機関、福祉施設等、実習先の治療、援助支援等、各機能について充分学習しておくこと。（90分以上） 【復習】 実習を振り返り自己吟味を深めるとともに、得た指導から心理臨床の実践における対応技能について理解の幅を広げること。（90分以上） </p>	<p>実習</p>
授業外学習	
<p> 実習先について、予め情報収集を行い、実際に現地に向かい場所を確認しておくこと。また、学びたい内容および各自の課題をレポートする。 </p>	
テキスト、参考書、教材	関連する科目
<p> テキスト：適宜プリントを配布する。また、実習記録票、実習への心構え・要領などを配布する。 参考書 ・河合隼雄（2003）．臨床心理学ノート 金剛出版 ・馬場禮子 編（2003）．臨床心理学概説 放送大学教育振興会 </p>	<p> 心理実習 心理演習 ・ </p>

課題に対するフィードバック

面談・個別においてフィードバックする。

備考

科目名	ビジネス心理コース演習			
授業形態	履修形態	単位数	年次	開講期
演習	選択	1	3年	前期
担当者名	三島 瑞穂、小野 洋平、古野 公紀、鈴木 千晴	関連する資格		

授業概要

演習 に引き続いて、各コースの教員が担当する。内容は各担当教員の専門分野に関する内容とする。

到達目標

ナンバリング(A2502)

- ・ビジネス心理コース演習 での学びをもとに、ビジネス領域で活用されている心理学理論について、さらに興味関心を拡大させることができる。
- ・興味関心のあることに関して、図書館やデータベースなどを使って、必要な情報を収集することができる。
- ・それをもとにして分かりやすいレジュメを作成することができる。
- ・ゼミ内でレジュメを使って発表することができる。
- ・ゼミ内で担当教員の指導の下にディスカッションし議論を深めることができる。

成績評価方法

レポート、授業参加度、レジュメの作成とプレゼンテーション等をもとに、各ゼミ担当が総合的に評価する。

評価項目	評価基準						
	知識理解	思考判断	関心意欲	技能表現	態度	その他	評価割合 (%)
定期試験(中間・期末)							
小テスト、授業内レポート							25
宿題、授業外レポート							25
授業態度・授業参加度							
プレゼンテーション							25
グループワーク							
演習							25
実習							

授業計画と概要、予習・復習内容（時間）	アクティブラーニング
1) 各授業担当者の指示の下に、予習復習等を行い十分な準備して授業に参加する。 予習（45分）、復習（45分）	課題の発表 ディスカッション
2) 各授業担当者の指示の下に、予習復習等を行い十分な準備して授業に参加する。 予習（45分）、復習（45分）	課題の発表 ディスカッション
3) 各授業担当者の指示の下に、予習復習等を行い十分な準備して授業に参加する。 予習（45分）、復習（45分）	課題の発表 ディスカッション
4) 各授業担当者の指示の下に、予習復習等を行い十分な準備して授業に参加する。 予習（45分）、復習（45分）	課題の発表 ディスカッション
5) 各授業担当者の指示の下に、予習復習等を行い十分な準備して授業に参加する。 予習（45分）、復習（45分）	課題の発表 ディスカッション
6) 各授業担当者の指示の下に、予習復習等を行い十分な準備して授業に参加する。 予習（45分）、復習（45分）	課題の発表 ディスカッション
7) 各授業担当者の指示の下に、予習復習等を行い十分な準備して授業に参加する。 予習（45分）、復習（45分）	課題の発表 ディスカッション
8) 各授業担当者の指示の下に、予習復習等を行い十分な準備して授業に参加する。 予習（45分）、復習（45分）	課題の発表 ディスカッション
9) 各授業担当者の指示の下に、予習復習等を行い十分な準備して授業に参加する。 予習（45分）、復習（45分）	課題の発表 ディスカッション
10) 各授業担当者の指示の下に、予習復習等を行い十分な準備して授業に参加する。 予習（45分）、復習（45分）	課題の発表 ディスカッション
11) 各授業担当者の指示の下に、予習復習等を行い十分な準備して授業に参加する。 予習（45分）、復習（45分）	課題の発表 ディスカッション
12) 各授業担当者の指示の下に、予習復習等を行い十分な準備して授業に参加する。 予習（45分）、復習（45分）	課題の発表 ディスカッション
13) 各授業担当者の指示の下に、予習復習等を行い十分な準備して授業に参加する。 予習（45分）、復習（45分）	課題の発表 ディスカッション
14) 各授業担当者の指示の下に、予習復習等を行い十分な準備して授業に参加する。 予習（45分）、復習（45分）	課題の発表 ディスカッション
15) 各授業担当者の指示の下に、予習復習等を行い十分な準備して授業に参加する。 予習（45分）、復習（45分）	課題の発表 ディスカッション
授業外学習	
出された課題や次回授業に関するキーワードなど調べておく。 ゼミで説明のあった専門語彙など自らも調べ理解しておく。	
テキスト、参考書、教材	関連する科目
各ゼミ担当より提示される。	心理学基礎ゼミナール ビジネス心理コース演習 心理学関連科目全て

課題に対するフィードバック

各ゼミ担当より行われる。

備考

ゼミナールの授業時間以外に指導を希望する場合は、事前に予約をする。

科目名	ビジネス心理コース演習			
授業形態	履修形態	単位数	年次	開講期
演習	選択	1	3年	後期
担当者名	三島 瑞穂、小野 洋平、古野 公紀 、鈴木 千晴	関連する資格		

授業概要

演習 に引き続いて、各コースの教員が担当する。内容は各担当教員の専門分野に関する内容とする。

到達目標

ナンバリング(A3502)

- ・担当教員の指導のもとに、ビジネス領域で活用されている心理学理論について、さらに興味関心を拡大させることができる。
- ・興味関心のあることに関して、図書館やデータベースなどを使って、必要な情報を収集することができる。
- ・それをもとにしてわかりやすいレジュメを作成することができる。
- ・ゼミ内でレジュメを使って発表することができる。
- ・ゼミ内で担当教員の指導の下にディスカッションし議論を深めることができる。

成績評価方法

レポート、授業参加度、レジュメの作成とプレゼンテーション等を基に、各ゼミ担当が総合的に評価する。

評価項目	評価基準						
	知識理解	思考判断	関心意欲	技能表現	態度	その他	評価割合 (%)
定期試験(中間・期末)							
小テスト、授業内レポート							25
宿題、授業外レポート							25
授業態度・授業参加度							
プレゼンテーション							25
グループワーク							
演習							25
実習							

授業計画と概要、予習・復習内容（時間）	アクティブラーニング
1) 各授業担当者の指示の下に、予習復習等を行い十分な準備して授業に参加する。 予習（45分）、復習（45分）	課題の発表 ディスカッション
2) 各授業担当者の指示の下に、予習復習等を行い十分な準備して授業に参加する。 予習（45分）、復習（45分）	課題の発表 ディスカッション
3) 各授業担当者の指示の下に、予習復習等を行い十分な準備して授業に参加する。 予習（45分）、復習（45分）	課題の発表 ディスカッション
4) 各授業担当者の指示の下に、予習復習等を行い十分な準備して授業に参加する。 予習（45分）、復習（45分）	課題の発表 ディスカッション
5) 各授業担当者の指示の下に、予習復習等を行い十分な準備して授業に参加する。 予習（45分）、復習（45分）	課題の発表 ディスカッション
6) 各授業担当者の指示の下に、予習復習等を行い十分な準備して授業に参加する。 予習（45分）、復習（45分）	課題の発表 ディスカッション
7) 各授業担当者の指示の下に、予習復習等を行い十分な準備して授業に参加する。 予習（45分）、復習（45分）	課題の発表 ディスカッション
8) 各授業担当者の指示の下に、予習復習等を行い十分な準備して授業に参加する。 予習（45分）、復習（45分）	課題の発表 ディスカッション
9) 各授業担当者の指示の下に、予習復習等を行い十分な準備して授業に参加する。 予習（45分）、復習（45分）	課題の発表 ディスカッション
10) 各授業担当者の指示の下に、予習復習等を行い十分な準備して授業に参加する。 予習（45分）、復習（45分）	課題の発表 ディスカッション
11) 各授業担当者の指示の下に、予習復習等を行い十分な準備して授業に参加する。 予習（45分）、復習（45分）	課題の発表 ディスカッション
12) 各授業担当者の指示の下に、予習復習等を行い十分な準備して授業に参加する。 予習（45分）、復習（45分）	課題の発表 ディスカッション
13) 各授業担当者の指示の下に、予習復習等を行い十分な準備して授業に参加する。 予習（45分）、復習（45分）	課題の発表 ディスカッション
14) 各授業担当者の指示の下に、予習復習等を行い十分な準備して授業に参加する。 予習（45分）、復習（45分）	課題の発表 ディスカッション
15) 各授業担当者の指示の下に、予習復習等を行い十分な準備して授業に参加する。 予習（45分）、復習（45分）	課題の発表 ディスカッション
授業外学習	
出された課題や次回授業に関するキーワードなど調べておく。 ゼミで説明のあった専門語彙など自らも調べ理解しておく。	
テキスト、参考書、教材	関連する科目
各ゼミ担当より提示される。	ビジネス心理コース演習 心理学関連科目全て

課題に対するフィードバック

各ゼミ担当より行われる。

備考

ゼミナールの授業時間以外に指導を希望する場合は、事前に予約をする。

科目名	ビジネス心理コース演習			
授業形態	履修形態	単位数	年次	開講期
演習	選択	1	4年	前期
担当者名	三島 瑞穂、小野 洋平、古野 公紀 、鈴木 千晴	関連する資格		

授業概要

ビジネス心理コース担当教員の研究にふれることにより、専門性を高める。履修生ごとに主体的にテーマを決定し、これまでに培った心理学的知見を活かして課題解決に取り組む。

到達目標

A4501

- ・ビジネス心理コース演習 ~ での学びをもとに、ビジネス領域で活用されている心理学理論について、さらに興味関心を拡大させることができる。
- ・興味関心のあることに関して、図書館やデータベースなどを使って、必要な情報を収集することができる。
- ・それをもとにして分かりやすいレジュメを作成することができる。
- ・ゼミ内でレジュメを使って発表することができる。
- ・ゼミ内で担当教員の指導の下にディスカッションし議論を深めることができる。

成績評価方法

レポート、授業参加度、レジュメの作成とプレゼンテーション等をもとに、各ゼミ担当が総合的に評価する。

評価項目	評価基準						
	知識理解	思考判断	関心意欲	技能表現	態度	その他	評価割合 (%)
定期試験(中間・期末)							
小テスト、授業内レポート							25
宿題、授業外レポート							25
授業態度・授業参加度							
プレゼンテーション							25
グループワーク							
演習							25
実習							

授業計画と概要、予習・復習内容（時間）	アクティブラーニング
1) 各授業担当者の指示の下に、予習復習等を行い十分な準備して授業に参加する。 予習（45分）、復習（45分）	課題の発表 ディスカッション
2) 各授業担当者の指示の下に、予習復習等を行い十分な準備して授業に参加する。 予習（45分）、復習（45分）	課題の発表 ディスカッション
3) 各授業担当者の指示の下に、予習復習等を行い十分な準備して授業に参加する。 予習（45分）、復習（45分）	課題の発表 ディスカッション
4) 各授業担当者の指示の下に、予習復習等を行い十分な準備して授業に参加する。 予習（45分）、復習（45分）	課題の発表 ディスカッション
5) 各授業担当者の指示の下に、予習復習等を行い十分な準備して授業に参加する。 予習（45分）、復習（45分）	課題の発表 ディスカッション
6) 各授業担当者の指示の下に、予習復習等を行い十分な準備して授業に参加する。 予習（45分）、復習（45分）	課題の発表 ディスカッション
7) 各授業担当者の指示の下に、予習復習等を行い十分な準備して授業に参加する。 予習（45分）、復習（45分）	課題の発表 ディスカッション
8) 各授業担当者の指示の下に、予習復習等を行い十分な準備して授業に参加する。 予習（45分）、復習（45分）	課題の発表 ディスカッション
9) 各授業担当者の指示の下に、予習復習等を行い十分な準備して授業に参加する。 予習（45分）、復習（45分）	課題の発表 ディスカッション
10) 各授業担当者の指示の下に、予習復習等を行い十分な準備して授業に参加する。 予習（45分）、復習（45分）	課題の発表 ディスカッション
11) 各授業担当者の指示の下に、予習復習等を行い十分な準備して授業に参加する。 予習（45分）、復習（45分）	課題の発表 ディスカッション
12) 各授業担当者の指示の下に、予習復習等を行い十分な準備して授業に参加する。 予習（45分）、復習（45分）	課題の発表 ディスカッション
13) 各授業担当者の指示の下に、予習復習等を行い十分な準備して授業に参加する。 予習（45分）、復習（45分）	課題の発表 ディスカッション
14) 各授業担当者の指示の下に、予習復習等を行い十分な準備して授業に参加する。 予習（45分）、復習（45分）	課題の発表 ディスカッション
15) 各授業担当者の指示の下に、予習復習等を行い十分な準備して授業に参加する。 予習（45分）、復習（45分）	課題の発表 ディスカッション
授業外学習	
出された課題や次回授業に関するキーワードなど調べておく。 ゼミで説明のあった専門語彙など自らも調べ理解しておく。	
テキスト、参考書、教材	関連する科目
各ゼミ担当より提示される。	ビジネス心理コース演習 心理学関連科目全て

課題に対するフィードバック

各ゼミ担当より行われる。

備考

ゼミナールの授業時間以外に指導を希望する場合は、事前に予約をする。

科目名	ビジネス心理コース演習			
授業形態	履修形態	単位数	年次	開講期
演習	選択	1	4年	後期
担当者名	三島 瑞穂、小野 洋平、古野 公紀 、鈴木 千晴		関連する資格	

授業概要

演習 に引き続き、ビジネス心理コース担当教員の研究にふれることにより、専門性を高める。履修生ごとに主体的にテーマを決定し、これまでに培った心理学的知見を活かして課題解決に取り組む。

到達目標

A4502

- ・ビジネス心理コース演習 ~ での学びをもとに、ビジネス領域で活用されている心理学理論について、さらに興味関心を拡大させることができる。
- ・興味関心のあることに関して、図書館やデータベースなどを使って、必要な情報を収集することができる。
- ・それをもとにして分かりやすいレジュメを作成することができる。
- ・ゼミ内でレジュメを使って発表することができる。
- ・ゼミ内で担当教員の指導の下にディスカッションし議論を深めることができる。

成績評価方法

レポート、授業参加度、レジュメの作成とプレゼンテーション等をもとに、各ゼミ担当が総合的に評価する。

評価項目	評価基準						
	知識理解	思考判断	関心意欲	技能表現	態度	その他	評価割合 (%)
定期試験(中間・期末)							
小テスト、授業内レポート							25
宿題、授業外レポート							25
授業態度・授業参加度							
プレゼンテーション							25
グループワーク							
演習							25
実習							

授業計画と概要、予習・復習内容（時間）	アクティブラーニング
1) 各授業担当者の指示の下に、予習復習等を行い十分な準備して授業に参加する。 予習（45分）、復習（45分）	課題の発表 ディスカッション
2) 各授業担当者の指示の下に、予習復習等を行い十分な準備して授業に参加する。 予習（45分）、復習（45分）	課題の発表 ディスカッション
3) 各授業担当者の指示の下に、予習復習等を行い十分な準備して授業に参加する。 予習（45分）、復習（45分）	課題の発表 ディスカッション
4) 各授業担当者の指示の下に、予習復習等を行い十分な準備して授業に参加する。 予習（45分）、復習（45分）	課題の発表 ディスカッション
5) 各授業担当者の指示の下に、予習復習等を行い十分な準備して授業に参加する。 予習（45分）、復習（45分）	課題の発表 ディスカッション
6) 各授業担当者の指示の下に、予習復習等を行い十分な準備して授業に参加する。 予習（45分）、復習（45分）	課題の発表 ディスカッション
7) 各授業担当者の指示の下に、予習復習等を行い十分な準備して授業に参加する。 予習（45分）、復習（45分）	課題の発表 ディスカッション
8) 各授業担当者の指示の下に、予習復習等を行い十分な準備して授業に参加する。 予習（45分）、復習（45分）	課題の発表 ディスカッション
9) 各授業担当者の指示の下に、予習復習等を行い十分な準備して授業に参加する。 予習（45分）、復習（45分）	課題の発表 ディスカッション
10) 各授業担当者の指示の下に、予習復習等を行い十分な準備して授業に参加する。 予習（45分）、復習（45分）	課題の発表 ディスカッション
11) 各授業担当者の指示の下に、予習復習等を行い十分な準備して授業に参加する。 予習（45分）、復習（45分）	課題の発表 ディスカッション
12) 各授業担当者の指示の下に、予習復習等を行い十分な準備して授業に参加する。 予習（45分）、復習（45分）	課題の発表 ディスカッション
13) 各授業担当者の指示の下に、予習復習等を行い十分な準備して授業に参加する。 予習（45分）、復習（45分）	課題の発表 ディスカッション
14) 各授業担当者の指示の下に、予習復習等を行い十分な準備して授業に参加する。 予習（45分）、復習（45分）	課題の発表 ディスカッション
15) 各授業担当者の指示の下に、予習復習等を行い十分な準備して授業に参加する。 予習（45分）、復習（45分）	課題の発表 ディスカッション
授業外学習	
出された課題や次回授業に関するキーワードなど調べておく。 ゼミで説明のあった専門語彙など自らも調べ理解しておく。	
テキスト、参考書、教材	関連する科目
各ゼミ担当より提示される。	ビジネス心理コース演習 心理学関連科目全て

課題に対するフィードバック

各ゼミ担当より行われる。

備考

ゼミナールの授業時間以外に指導を希望する場合は、事前に予約をする。

科目名	公認心理師コース演習						
授業形態	履修形態	単位数	年次	開講期			
演習	選択	1	3年	前期			
担当者名	小山 典子、大石 英史、高田 晃、 榎本 俊哉、木元 卓也、脇 貴典		関連する資格				
授業概要 モデル内で選んだ教員の研究にふれることにより、専門性を高める。卒業研究の準備として取り組む。また、ゼミナールでは積極的に討論に加わり、文献調査、現地調査などに取組み、専門性を深めていく。なお、卒業研究は、コース演習を選択したゼミ担当教員にこだわる必要は無い。							
到達目標 (A3503) 報告・発表、議論の能力を高める。 主題に関する専門性を高める。 卒業研究へのレディネスの形成。				成績評価方法 演習に対する取り組みの姿勢、および提出課題等より総合的に評価する。			
評価項目	評価基準						
	知識理解	思考判断	関心意欲	技能表現	態度	その他	評価割合 (%)
定期試験(中間・期末)							
小テスト、授業内レポート							
宿題、授業外レポート	○	○	○	○			25
授業態度・授業参加度			○		○		25
プレゼンテーション							
グループワーク							
演習	○	○	○	○	○		50
実習							

授業計画と概要、予習・復習内容（時間）		アクティブラーニング
1)	各教員の計画によりすすめられる 教員より出された課題を次回授業までに行う（予習復習90分）	卒業研究計画書作成 卒業研究論文の作成 ディスカッション
2)	各教員の計画によりすすめられる 教員より出された課題を次回授業までに行う（予習復習90分）	卒業研究計画書作成 卒業研究論文の作成 ディスカッション
3)	各教員の計画によりすすめられる 教員より出された課題を次回授業までに行う（予習復習90分）	卒業研究計画書作成 卒業研究論文の作成 ディスカッション
4)	各教員の計画によりすすめられる 教員より出された課題を次回授業までに行う（予習復習90分）	卒業研究計画書作成 卒業研究論文の作成 ディスカッション
5)	各教員の計画によりすすめられる 教員より出された課題を次回授業までに行う（予習復習90分）	卒業研究計画書作成 卒業研究論文の作成 ディスカッション
6)	各教員の計画によりすすめられる 教員より出された課題を次回授業までに行う（予習復習90分）	卒業研究計画書作成 卒業研究論文の作成 ディスカッション
7)	各教員の計画によりすすめられる 教員より出された課題を次回授業までに行う（予習復習90分）	卒業研究計画書作成 卒業研究論文の作成 ディスカッション
8)	各教員の計画によりすすめられる 教員より出された課題を次回授業までに行う（予習復習90分）	卒業研究計画書作成 卒業研究論文の作成 ディスカッション
9)	各教員の計画によりすすめられる 教員より出された課題を次回授業までに行う（予習復習90分）	卒業研究計画書作成 卒業研究論文の作成 ディスカッション
10)	各教員の計画によりすすめられる 教員より出された課題を次回授業までに行う（予習復習90分）	卒業研究計画書作成 卒業研究論文の作成 ディスカッション
11)	各教員の計画によりすすめられる 教員より出された課題を次回授業までに行う（予習復習90分）	卒業研究計画書作成 卒業研究論文の作成 ディスカッション
12)	各教員の計画によりすすめられる 教員より出された課題を次回授業までに行う（予習復習90分）	卒業研究計画書作成 卒業研究論文の作成 ディスカッション
13)	各教員の計画によりすすめられる 教員より出された課題を次回授業までに行う（予習復習90分）	卒業研究計画書作成 卒業研究論文の作成 ディスカッション
14)	各教員の計画によりすすめられる 教員より出された課題を次回授業までに行う（予習復習90分）	卒業研究計画書作成 卒業研究論文の作成 ディスカッション
15)	各教員の計画によりすすめられる 教員より出された課題を次回授業までに行う（予習復習90分）	卒業研究計画書作成 卒業研究論文の作成 ディスカッション
授業外学習		
教員ごとに課題提示		
テキスト、参考書、教材		関連する科目
担当教員ごとに指示する。		選択する担当教員の掲げる主題によって異なる。

課題に対するフィードバック

各教員が行う。

備考

科目名	公認心理師コース演習			
授業形態	履修形態	単位数	年次	開講期
演習	選択	1	3年	後期
担当者名	小山 典子、大石 英史、高田 晃、 榎本 俊哉、木元 卓也、脇 貴典	関連する資格		

授業概要

モデル内で選んだ教員の研究にふれることにより、専門性を高める。卒業研究の準備として取り組む。また、ゼミナールでは積極的に討論に加わり、文献調査、現地調査などに取組み、専門性を深めていく。なお、卒業研究は、コース演習を選択したゼミ担当教員にこだわる必要は無い。

到達目標

(A3504)

報告・発表、議論の能力を高める。
主題に関する専門性を高める。
卒業研究へのレディネスの形成。

成績評価方法

演習に対する取り組みの姿勢、および提出課題等より総合的に評価する。

評価項目	評価基準						評価割合 (%)
	知識理解	思考判断	関心意欲	技能表現	態度	その他	
定期試験(中間・期末)							
小テスト、授業内レポート							
宿題、授業外レポート	○	○	○	○			25
授業態度・授業参加度			○		○		25
プレゼンテーション							
グループワーク							
演習	○	○	○	○	○		50
実習							

授業計画と概要、予習・復習内容（時間）		アクティブラーニング
1)	各教員の計画によりすすめられる 教員より出された課題を次回授業までに行う（予習復習90分）	卒業研究計画書作成 卒業研究論文の作成 ディスカッション
2)	各教員の計画によりすすめられる 教員より出された課題を次回授業までに行う（予習復習90分）	卒業研究計画書作成 卒業研究論文の作成 ディスカッション
3)	各教員の計画によりすすめられる 教員より出された課題を次回授業までに行う（予習復習90分）	卒業研究計画書作成 卒業研究論文の作成 ディスカッション
4)	各教員の計画によりすすめられる 教員より出された課題を次回授業までに行う（予習復習90分）	卒業研究計画書作成 卒業研究論文の作成 ディスカッション
5)	各教員の計画によりすすめられる 教員より出された課題を次回授業までに行う（予習復習90分）	卒業研究計画書作成 卒業研究論文の作成 ディスカッション
6)	各教員の計画によりすすめられる 教員より出された課題を次回授業までに行う（予習復習90分）	卒業研究計画書作成 卒業研究論文の作成 ディスカッション
7)	各教員の計画によりすすめられる 教員より出された課題を次回授業までに行う（予習復習90分）	卒業研究計画書作成 卒業研究論文の作成 ディスカッション
8)	各教員の計画によりすすめられる 教員より出された課題を次回授業までに行う（予習復習90分）	卒業研究計画書作成 卒業研究論文の作成 ディスカッション
9)	各教員の計画によりすすめられる 教員より出された課題を次回授業までに行う（予習復習90分）	卒業研究計画書作成 卒業研究論文の作成 ディスカッション
10)	各教員の計画によりすすめられる 教員より出された課題を次回授業までに行う（予習復習90分）	卒業研究計画書作成 卒業研究論文の作成 ディスカッション
11)	各教員の計画によりすすめられる 教員より出された課題を次回授業までに行う（予習復習90分）	卒業研究計画書作成 卒業研究論文の作成 ディスカッション
12)	各教員の計画によりすすめられる 教員より出された課題を次回授業までに行う（予習復習90分）	卒業研究計画書作成 卒業研究論文の作成 ディスカッション
13)	各教員の計画によりすすめられる 教員より出された課題を次回授業までに行う（予習復習90分）	卒業研究計画書作成 卒業研究論文の作成 ディスカッション
14)	各教員の計画によりすすめられる 教員より出された課題を次回授業までに行う（予習復習90分）	卒業研究計画書作成 卒業研究論文の作成 ディスカッション
15)	各教員の計画によりすすめられる 卒業研究報告会参加	卒業研究計画書作成 卒業研究論文の作成 ディスカッション
授業外学習		
教員ごとに課題提示		
テキスト、参考書、教材		関連する科目
担当教員ごとに指示する。		選択する担当教員の掲げる主題によって異なる。

課題に対するフィードバック

各教員が行う。

備考

科目名	公認心理師コース演習			
授業形態	履修形態	単位数	年次	開講期
演習	選択	1	4年	前期
担当者名	小山 典子、大石 英史、高田 晃、 榎本 俊哉、木元 卓也、脇 貴典	関連する資格		

授業概要

公認心理師コース担当教員の研究にふれることにより，専門性を高める。履修生ごとに主体的にテーマを決定し，これまでに培った心理学的知見を活かして課題解決に取り組む。

到達目標

(A4503)
報告・発表、議論の能力を高める。
主題に関する専門性を高める。
公認心理師コース演習 ~ ~ での学びをもとに，さらに興味関心のあるテーマを追求し，研究発表やディスカッションへのレディネスを形成する。

成績評価方法

演習に対する取り組みの姿勢、および提出課題等より総合的に評価する。

評価項目	評価基準						評価割合 (%)
	知識理解	思考判断	関心意欲	技能表現	態度	その他	
定期試験(中間・期末)							
小テスト、授業内レポート							
宿題、授業外レポート	○	○	○	○			25
授業態度・授業参加度			○		○		25
プレゼンテーション							
グループワーク							
演習	○	○	○	○	○		50
実習							

授業計画と概要、予習・復習内容（時間）		アクティブラーニング
1)	各教員の計画によりすすめられる 教員より出された課題を次回授業までに行う（予習復習90分）	卒業研究計画書作成 卒業研究論文の作成 ディスカッション
2)	各教員の計画によりすすめられる 教員より出された課題を次回授業までに行う（予習復習90分）	卒業研究計画書作成 卒業研究論文の作成 ディスカッション
3)	各教員の計画によりすすめられる 教員より出された課題を次回授業までに行う（予習復習90分）	卒業研究計画書作成 卒業研究論文の作成 ディスカッション
4)	各教員の計画によりすすめられる 教員より出された課題を次回授業までに行う（予習復習90分）	卒業研究計画書作成 卒業研究論文の作成 ディスカッション
5)	各教員の計画によりすすめられる 教員より出された課題を次回授業までに行う（予習復習90分）	卒業研究計画書作成 卒業研究論文の作成 ディスカッション
6)	各教員の計画によりすすめられる 教員より出された課題を次回授業までに行う（予習復習90分）	卒業研究計画書作成 卒業研究論文の作成 ディスカッション
7)	各教員の計画によりすすめられる 教員より出された課題を次回授業までに行う（予習復習90分）	卒業研究計画書作成 卒業研究論文の作成 ディスカッション
8)	各教員の計画によりすすめられる 教員より出された課題を次回授業までに行う（予習復習90分）	卒業研究計画書作成 卒業研究論文の作成 ディスカッション
9)	各教員の計画によりすすめられる 教員より出された課題を次回授業までに行う（予習復習90分）	卒業研究計画書作成 卒業研究論文の作成 ディスカッション
10)	各教員の計画によりすすめられる 教員より出された課題を次回授業までに行う（予習復習90分）	卒業研究計画書作成 卒業研究論文の作成 ディスカッション
11)	各教員の計画によりすすめられる 教員より出された課題を次回授業までに行う（予習復習90分）	卒業研究計画書作成 卒業研究論文の作成 ディスカッション
12)	各教員の計画によりすすめられる 教員より出された課題を次回授業までに行う（予習復習90分）	卒業研究計画書作成 卒業研究論文の作成 ディスカッション
13)	各教員の計画によりすすめられる 教員より出された課題を次回授業までに行う（予習復習90分）	卒業研究計画書作成 卒業研究論文の作成 ディスカッション
14)	各教員の計画によりすすめられる 教員より出された課題を次回授業までに行う（予習復習90分）	卒業研究計画書作成 卒業研究論文の作成 ディスカッション
15)	各教員の計画によりすすめられる 教員より出された課題を次回授業までに行う（予習復習90分）	卒業研究計画書作成 卒業研究論文の作成 ディスカッション
授業外学習		
教員ごとに課題提示		
テキスト、参考書、教材		関連する科目
担当教員ごとに指示する。		選択する担当教員の掲げる主題によって異なる。

課題に対するフィードバック

各教員が行う。

備考

科目名	公認心理師コース演習			
授業形態	履修形態	単位数	年次	開講期
演習	選択	1	4年	後期
担当者名	小山 典子、大石 英史、高田 晃、 榎本 俊哉、木元 卓也、脇 貴典	関連する資格		

授業概要

演習 に引き続き、公認心理師コース担当教員の研究にふれることにより、専門性を高める。履修生ごとに主体的にテーマを決定し、これまでに培った心理学的知見を活かして課題解決に取り組む。

到達目標

(A4504)
報告・発表、議論の能力を高める。
主題に関する専門性を高める。
公認心理師コース演習 ~ ~での学びをもとに、興味関心のあるテーマについて自己の考えをまとめディスカッションし、研究発表することができる。

成績評価方法

演習に対する取り組みの姿勢、および提出課題等より総合的に評価する。

評価項目	評価基準						
	知識理解	思考判断	関心意欲	技能表現	態度	その他	評価割合 (%)
定期試験(中間・期末)							
小テスト、授業内レポート							
宿題、授業外レポート	○	○	○	○			25
授業態度・授業参加度			○		○		25
プレゼンテーション							
グループワーク							
演習	○	○	○	○	○		50
実習							

授業計画と概要、予習・復習内容（時間）		アクティブラーニング
1)	各教員の計画によりすすめられる 教員より出された課題を次回授業までに行う（予習復習90分）	卒業研究計画書作成・確認 卒業研究論文の作成 ディスカッション
2)	各教員の計画によりすすめられる 教員より出された課題を次回授業までに行う（予習復習90分）	卒業研究論文の作成 ディスカッション
3)	各教員の計画によりすすめられる 教員より出された課題を次回授業までに行う（予習復習90分）	卒業研究論文の作成 ディスカッション
4)	各教員の計画によりすすめられる 教員より出された課題を次回授業までに行う（予習復習90分）	卒業研究論文の作成 ディスカッション
5)	各教員の計画によりすすめられる 教員より出された課題を次回授業までに行う（予習復習90分）	卒業研究論文の作成 ディスカッション
6)	各教員の計画によりすすめられる 教員より出された課題を次回授業までに行う（予習復習90分）	卒業研究論文の作成 ディスカッション
7)	各教員の計画によりすすめられる 教員より出された課題を次回授業までに行う（予習復習90分）	卒業研究論文の作成 ディスカッション
8)	各教員の計画によりすすめられる 教員より出された課題を次回授業までに行う（予習復習90分）	卒業研究論文の作成 ディスカッション
9)	各教員の計画によりすすめられる 教員より出された課題を次回授業までに行う（予習復習90分）	卒業研究論文の作成 ディスカッション
10)	各教員の計画によりすすめられる 教員より出された課題を次回授業までに行う（予習復習90分）	卒業研究論文の作成 ディスカッション
11)	各教員の計画によりすすめられる 教員より出された課題を次回授業までに行う（予習復習90分）	卒業研究論文の作成 ディスカッション
12)	各教員の計画によりすすめられる 教員より出された課題を次回授業までに行う（予習復習90分）	卒業研究論文の作成 ディスカッション
13)	各教員の計画によりすすめられる 教員より出された課題を次回授業までに行う（予習復習90分）	卒業研究論文の作成 プレゼンテーション ディスカッション
14)	各教員の計画によりすすめられる 教員より出された課題を次回授業までに行う（予習復習90分）	卒業研究論文の作成 プレゼンテーション ディスカッション
15)	各教員の計画によりすすめられる 卒業研究報告会参加	卒業研究論文完成 ディスカッション
授業外学習		
教員ごとに課題提示		
テキスト、参考書、教材		関連する科目
担当教員ごとに指示する。		選択する担当教員の掲げる主題によって異なる。

課題に対するフィードバック

各教員が行う。

備考

科目名	卒業研究			
授業形態	履修形態	単位数	年次	開講期
演習	選択	4	4年	通年(前期)
担当者名	大石 英史、榎本 俊哉、小山 典子、三島 瑞穂、木元 卓也、脇 貴典、小野 洋平、古野 公紀、鈴木 千晴	関連する資格	認定心理士 認定心理士(心理調査)	

授業概要

大学4年間の総まとめとして各コース別に学んだ専門分野の中から、自分が決定したテーマを取り組む。担当教員のもとでさらに資料収集、調査研究を進め、さらにディスカッションをしながら、研究を深めていく。そして、これから社会で生きていくための礎の1つとして論文をまとめる。

到達目標

A4602b

- ・自分が本当にやりたいテーマをみつけ、実行可能な研究計画書を作成できる。
- ・研究目的に沿った資料収集ができる。
- ・研究計画、研究の進捗状況、途中経過等をレジュメにまとめゼミ内で発表することができる。
- ・自らの発表や他のゼミ生の発表を基にディスカッションができる。
- ・他のゼミ生の研究に対しても相手を配慮した建設的な意見が言える。
- ・担当教員をはじめゼミ生からの意見を自分の研究に役立てることができる。
- ・最終的に自分の納得のいく論文が作成できる。

成績評価方法

論文作成に取り組む姿勢、作成した論文の内容と報告会での研究報告を基に総合的に評価する。論文の提出と、報告会での研究報告は必須である。

評価項目	評価基準						
	知識理解	思考判断	関心意欲	技能表現	態度	その他	評価割合(%)
定期試験(中間・期末)							
小テスト、授業内レポート							
宿題、授業外レポート							30
授業態度・授業参加度							
プレゼンテーション							30
グループワーク							
演習							40
実習							

授業計画と概要、予習・復習内容（時間）	アクティブラーニング
1) 各教員の計画によりすすめられる 各教員から提示された課題を次回授業までに行う（予習復習を含めて最低90分）	ゼミ内での発表、ディスカッション
2) 各教員の計画によりすすめられる 各教員から提示された課題を次回授業までに行う（予習復習を含めて最低90分）	ゼミ内での発表、ディスカッション
3) 各教員の計画によりすすめられる 各教員から提示された課題を次回授業までに行う（予習復習を含めて最低90分）	ゼミ内での発表、ディスカッション
4) 各教員の計画によりすすめられる 各教員から提示された課題を次回授業までに行う（予習復習を含めて最低90分）	ゼミ内での発表、ディスカッション
5) 各教員の計画によりすすめられる 各教員から提示された課題を次回授業までに行う（予習復習を含めて最低90分）	ゼミ内での発表、ディスカッション
6) 各教員の計画によりすすめられる 各教員から提示された課題を次回授業までに行う（予習復習を含めて最低90分）	ゼミ内での発表、ディスカッション
7) 各教員の計画によりすすめられる 各教員から提示された課題を次回授業までに行う（予習復習を含めて最低90分）	ゼミ内での発表、ディスカッション
8) 各教員の計画によりすすめられる 各教員から提示された課題を次回授業までに行う（予習復習を含めて最低90分）	ゼミ内での発表、ディスカッション
9) 各教員の計画によりすすめられる 各教員から提示された課題を次回授業までに行う（予習復習を含めて最低90分）	ゼミ内での発表、ディスカッション
10) 各教員の計画によりすすめられる 各教員から提示された課題を次回授業までに行う（予習復習を含めて最低90分）	ゼミ内での発表、ディスカッション
11) 各教員の計画によりすすめられる 各教員から提示された課題を次回授業までに行う（予習復習を含めて最低90分）	ゼミ内での発表、ディスカッション
12) 各教員の計画によりすすめられる 各教員から提示された課題を次回授業までに行う（予習復習を含めて最低90分）	ゼミ内での発表、ディスカッション
13) 各教員の計画によりすすめられる 各教員から提示された課題を次回授業までに行う（予習復習を含めて最低90分）	ゼミ内での発表、ディスカッション
14) 各教員の計画によりすすめられる 各教員から提示された課題を次回授業までに行う（予習復習を含めて最低90分）	ゼミ内での発表、ディスカッション
15) 各教員の計画によりすすめられる 各教員から提示された課題を次回授業までに行う（予習復習を含めて最低90分）	ゼミ内での発表、ディスカッション
授業外学習	
教員ごとに課題を提示する。	
テキスト、参考書、教材	関連する科目
テキストは使用しない。 参考書は、担当教員が個別的に教示する。	心理学研究法，心理学研究法演習，心理学統計法，心理学統計法演習，心理検査法演習，心理学実験・，ビジネス心理コース演習～，公認心理師コース演習～。取り上げるテーマによって異なる。

課題に対するフィードバック

各教員が行う。

備考

科目名	卒業研究			
授業形態	履修形態	単位数	年次	開講期
演習	選択	4	4年	通年(後期)
担当者名	大石 英史、榎本 俊哉、小山 典子、三島 瑞穂、木元 卓也、脇 貴典、小野 洋平、古野 公紀、鈴木 千晴	関連する資格	認定心理士 認定心理士(心理調査)	

授業概要

大学4年間の総まとめとして各コース別に学んだ専門分野の中から、自分が決定したテーマを取り組む。担当教員のもとでさらに資料収集、調査研究を進め、さらにディスカッションをしながら、研究を深めていく。そして、これから社会で生きていくための礎の1つとして論文をまとめる。

到達目標

A4602b

- ・自分が本当にやりたいテーマをみつけ、実行可能な研究計画書を作成できる。
- ・研究目的に沿った資料収集ができる。
- ・研究計画、研究の進捗状況、途中経過等をレジュメにまとめゼミ内で発表することができる。
- ・自らの発表や他のゼミ生の発表を基にディスカッションができる。
- ・他のゼミ生の研究に対しても相手を配慮した建設的な意見が言える。
- ・担当教員をはじめゼミ生からの意見を自分の研究に役立てることができる。
- ・最終的に自分の納得のいく論文が作成できる。

成績評価方法

論文作成に取り組む姿勢、作成した論文の内容と報告会での研究報告を基に総合的に評価する。論文の提出と、報告会での研究報告は必須である。

評価項目	評価基準						
	知識理解	思考判断	関心意欲	技能表現	態度	その他	評価割合(%)
定期試験(中間・期末)							
小テスト、授業内レポート							
宿題、授業外レポート							40
授業態度・授業参加度							
プレゼンテーション							40
グループワーク							
演習							20
実習							

授業計画と概要、予習・復習内容（時間）	アクティブラーニング
1) 各教員の計画によりすすめられる 各教員から提示された課題を次回授業までに行う（予習復習を含めて最低90分）	ゼミ内での発表、ディスカッション
2) 各教員の計画によりすすめられる 各教員から提示された課題を次回授業までに行う（予習復習を含めて最低90分）	ゼミ内での発表、ディスカッション
3) 各教員の計画によりすすめられる 各教員から提示された課題を次回授業までに行う（予習復習を含めて最低90分）	ゼミ内での発表、ディスカッション
4) 各教員の計画によりすすめられる 各教員から提示された課題を次回授業までに行う（予習復習を含めて最低90分）	ゼミ内での発表、ディスカッション
5) 各教員の計画によりすすめられる 各教員から提示された課題を次回授業までに行う（予習復習を含めて最低90分）	ゼミ内での発表、ディスカッション
6) 各教員の計画によりすすめられる 各教員から提示された課題を次回授業までに行う（予習復習を含めて最低90分）	ゼミ内での発表、ディスカッション
7) 各教員の計画によりすすめられる 各教員から提示された課題を次回授業までに行う（予習復習を含めて最低90分）	ゼミ内での発表、ディスカッション
8) 各教員の計画によりすすめられる 各教員から提示された課題を次回授業までに行う（予習復習を含めて最低90分）	ゼミ内での発表、ディスカッション
9) 各教員の計画によりすすめられる 各教員から提示された課題を次回授業までに行う（予習復習を含めて最低90分）	ゼミ内での発表、ディスカッション
10) 各教員の計画によりすすめられる 各教員から提示された課題を次回授業までに行う（予習復習を含めて最低90分）	ゼミ内での発表、ディスカッション
11) 各教員の計画によりすすめられる 各教員から提示された課題を次回授業までに行う（予習復習を含めて最低90分）	ゼミ内での発表、ディスカッション
12) 各教員の計画によりすすめられる 各教員から提示された課題を次回授業までに行う（予習復習を含めて最低90分）	ゼミ内での発表、ディスカッション
13) 各教員の計画によりすすめられる 各教員から提示された課題を次回授業までに行う（予習復習を含めて最低90分）	ゼミ内での発表、ディスカッション
14) 各教員の計画によりすすめられる 卒業研究報告会の準備を行う（報告会の準備を含めて最低90分）	ゼミ内での発表、ディスカッション
15) 卒業研究報告会で研究成果報告を行う 他の学生の報告を聞く	プレゼンテーション
授業外学習	
教員ごとに課題を提示する。	
テキスト、参考書、教材	関連する科目
テキストは使用しない。 参考書は、担当教員が個別的に教示する。	心理学研究法，心理学研究法演習，心理学統計法，心理学統計法演習，心理検査法演習，心理学実験・，ビジネス心理コース演習～，公認心理師コース演習～。取り上げるテーマによって異なる。

課題に対するフィードバック

各教員が行う。

備考